愛媛県美術館

令和元年度年報・研究紀要第19号

ANNUAL REPORT
and
BULLETIN

THE MUSEUM OF ART,EHIME

総　目　次

■　令和元年度年報

Ⅰ　沿　　革 …… 1

Ⅱ　展覧会事業
　1　コレクション展示 …… 2
　2　企画展示・共催展示・特別展示 …… 11

Ⅲ　作品の収集事業及び保存管理
　1　収集方針 …… 47
　2　取得作品の概要 …… 48
　3　収蔵作品数 …… 51
　4　保存・修復 …… 51
　5　館蔵品貸出状況 …… 52

Ⅳ　調査研究事業 …… 55

Ⅴ　教育普及事業
　1　普及啓発事業 …… 57
　　⑴　連続講座
　　⑵　一日講座
　　⑶　土曜講座
　　⑷　コレクショントーク
　2　創作活動支援事業 …… 61
　　⑴　アトリエの設置
　　⑵　創作学習の支援
　3　美術情報関係事業 …… 62
　　⑴　美術館情報発信
　　⑵　美術情報の提供
　4　他機関との連携事業 …… 62
　　⑴　館内プログラム
　　⑵　館外プログラム
　　⑶　大学との連携
　　⑷　調査員・委員・審査員
　5　その他 …… 72
　　⑴　第21回愛媛県美術館開館記念イベント

Ⅵ　貸館事業
　1　展示施設の利用方法 …… 74
　2　展示施設の利用状況 …… 75

Ⅶ　入館者の状況 …… 79

Ⅷ　組織及び職員構成
1　組織図 …… 80
2　職員名簿 …… 80

Ⅸ　愛媛県美術館協議会委員名簿 …… 81

Ⅹ　関係法規
1　愛媛県美術館使用料条例 …… 82
2　愛媛県美術館管理規則 …… 83
3　愛媛県博物館協議会設置条例 …… 87
4　愛媛県美術館協議会運営規則 …… 87
5　愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱 …… 87

Ⅺ　施設・設備の概要 …… 89

■　愛媛県美術館研究紀要　第19号

＊　開催報告　1970⇔2020　未来へ　愛媛県立美術館設立50周年記念展　　杉山　はるか

＊　実践報告　屏風Travelling－展示室で旅気分　　鈴木　有紀

＊　上田星邨旧蔵の書画コレクションについて　　土居　聡朋・長井　健

Ⅰ　沿　　革

○　開館までの歩みとその後

昭和45年９月　愛媛県立美術館が開館

昭和54年10月　愛媛県立美術館分館郷土美術館を設置

平成２年５月　生活文化県政推進懇談会で新しい美術館の建設が提言される
　　９月　愛媛県中核美術館整備検討委員会設置
　　（会長：門田圭三　委員21人）

平成３年３月　第１回整備検討委員会開催
　　11月　「県民の美術館に対するニーズ調査及び特色ある美術館の調査」
　　（～４年２月まで）
　　11月　第２回整備検討委員会開催

平成５年３月　第３回整備検討委員会開催

平成６年６月　立地場所について検討委員会に確認

平成７年10月　第４回整備検討委員会開催
　　11月　中核美術館基本構想報告

平成８年11月　現状変更許可（文化庁）
　　12月　起工式

平成10年４月　愛媛県立美術館は教育委員会から知事部局に移管
　　９月　定礎式
　　10月　愛媛県立美術館を廃止し、愛媛県美術館を設置
　　11月　落成式

平成12年４月　知事部局から教育委員会へ移管

平成21年３月　愛媛県美術館分館（萬翠荘）を知事部局に移管

平成30年４月　教育委員会から知事部局へ管理運営を事務委任

令和２年４月　教育委員会から知事部局へ移管

Ⅱ　展覧会事業

1　コレクション展示

○コレクション展Ⅰ／平成30年４月20日～令和元年６月２日
平成30年度新収蔵品展
常設展示室１

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法(cm)	備　考
今村義弘	山水図屏風	江戸時代前期	紙本墨画･六曲屏風一双押絵貼	各図132.8×52.0	
吉田蔵澤	風竹図	江戸時代中期	紙本墨画･軸	131.6×47.2	
沖　冠岳	四季花鳥図屏風	明治時代初期	紙本着色･六曲屏風一双	各165.0×362.0	
高橋周桑	松	昭和29年(1954)	紙本着色･額	111.0×143.5	
渋谷秋泉	勿来関図		絹本着色･軸	113.7×41.0	
渋谷秋泉	山水図		絹本墨画･額	32.1×104.5	
穐月　明	月影渓流	1980年代	紙本墨画･額	111.0×42.0	
穐月　明	寒松･牡丹図	1980年代	紙本墨画･額	72.0×52.0	
穐月　明	月光	1980年代	紙本墨画淡彩･軸	53.0×30.0	
穐月　明	行水猫	1980年代	紙本墨画淡彩･軸	35.0×50.0	
穐月　明	山水四景図屏風	1980年代	紙本墨画･二曲屏風一隻	65.0×190.0	
穐月　明	仔犬	1980年代	紙本墨画･扇面	20.0×50.0	
穐月　明	鉢中の天	1980年代	紙本墨画淡彩･まくり	38.0×48.0	
穐月　明	野の佛	1980年代	紙本墨画淡彩･額	50.0×30.0	
渡邉祥行	石鎚冬色	平成元年(1989)	紙本着色･額	162.5×127.5	
伊東正次	野仏図	平成28年(2016)	紙本着色･額	227.0×182.0	
伊東正次	月下独猿図	平成29年(2017)	紙本銀地着色･額	117.5×187.0	

はなばなしいはな
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法(cm)	備　考
土田次枝	鉢植の赤い花	昭和3年(1928)	油彩･画布	40.9×31.8	
土田次枝	黄色い花のある静物	昭和29年(1954)	油彩･画布	65.2×53.0	
野間仁根	花	昭和2年(1927)	油彩･画布	60.7×45.3	
野間仁根	薔薇	昭和46年(1971)	油彩･画布	53.0×45.5	
中川八郎	杏花の村	大正7年(1918)	油彩･画布	89.5×130.3	
中川八郎	風景	制作年不詳	水彩･紙	45.5×32.3	
中川八郎	アゼリア	明治38年(1905)	水彩･紙	38.3×55.0	
橋本興家	余部のチューリップ畑	昭和58年(1983)	木版･紙	42.3×53.6	
橋本興家	山百合	昭和50年(1975)	木版･紙	59.3×48.6	
橋本興家	牡丹	昭和22年(1947)	木版･紙	59.8×49.0	
橋本興家	菖蒲	昭和49年(1974)	木版･紙	59.9×49.0	
智内兄助	水の破･沈める花･九つ白蓮	平成13年(2001)	鉛筆、アクリル、油性インク･土佐柿渋紙、シナベニヤパネル	100.4×66.0	
智内兄助	流花音連れ	昭和60年(1985)	アクリル･和紙	181.0×227.3	
沢田光春	花飾り	昭和61年(1986)頃	油彩･画布	41.0×53.0	
大宮　昇	椿をもつ乙女	昭和41年(1966)	ドライポイント･紙	41.2×30.0	
大宮　昇	花	制作年不詳	ドライポイント･紙	26.1×9.4	
大宮　昇	野の花の譜	昭和10年(1935)	水彩･紙	51.2×31.6	
安藤義茂	静思	昭和22年(1947)	刀画(カラー)･紙	28.0×23.0	
安藤義茂	花	昭和20年(1945)	刀画(カラー)･紙	28.2×22.6	
三好計加	少女と曼珠沙華	昭和16年(1941)	油彩･画布	91.0×65.3	
加賀正太郎(編)	『蘭花譜』	昭和21年(1946)	木版･紙	各49.0×33.0	
杉浦非水	『非水百花譜』	昭和4-9年(1929-34)	木版･紙	各47.0×32.0	

武智光春コレクション　福田平八郎　春の風物
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法（cm）	備　考
福田平八郎	鮎(静物)	昭和36年(1961)	紙本着色･額	40.7×59.0	
福田平八郎	花菖蒲	昭和38年(1963)	紙本着色･額	45.6×36.5	
福田平八郎	隈笹鶯	昭和40年(1965)	紙本着色･額	53.5×44.5	

福田平八郎	椿鶲	昭和44年(1969)	紙本着色・額	24.3×34.3	
福田平八郎	光春	昭和44年(1969)	紙本着色・額	27.0×34.5	

西洋美術：フランスの異邦人
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法(cm)	備　考
ウジェーヌ・グラッセ	瞑想	1897年	リトグラフ・紙	87.7×54.0	
アルフォンス・ミュシャ	『ロレンザッチオ』のポスター	1896年	リトグラフ・紙	206.8×76.5	
アルフォンス・ミュシャ	『メディア』のポスター	1898年	リトグラフ・紙	297.4×77.1	
アルフォンス・ミュシャ	『ハムレット』のポスター	1896年	リトグラフ・紙	206.4×76.2	
ヴァシリー・カンディンスキー	生き生きとした白	1934年	油彩・画布	60.0×73.0	
オシップ・ザッキン	恋人達 または、2つのトルソの親密性	1957-59年(1998年鋳造)	ブロンズ	126.0×64.0×33.0	

M.C.エッシャーを読み解く―杉浦非水・真鍋博を中心に
常設展示室３

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法(cm)	備　考
杉浦非水	〔ペリカン〕(『非水一般応用図案集』)	大正10年(1921)	印刷・紙	31.2×22.5	
杉浦非水	〔鳥(紫)〕〔白鳥〕 (『非水一般応用図案集』)	大正10年(1921)	印刷・紙	31.2×22.5	
杉浦非水	〔反射〕(『非水一般応用図案集』)	大正10年(1921)	印刷・紙	31.2×22.5	
杉浦非水	『非水創作図案集』(外箱)	大正15年(1926)	印刷・紙	39.0×29.0	
杉浦非水	〔薔薇〕(『非水創作図案集』)	大正15年(1926)	印刷・紙	36.5×27.5	
杉浦非水	〔黄・オレンジ〕〔橙・黒・緑〕 (『非水創作図案集』)	大正15年(1926)	印刷・紙	36.5×27.5	
杉浦非水	〔紫・黒／黄・黒〕(『非水創作図案集』)	大正15年(1926)	印刷・紙	36.5×27.5	
杉浦非水	〔葉〕(『非水創作図案集』)	大正15年(1926)	印刷・紙	36.5×27.5	
杉浦非水	〔赤・黒〕(『非水創作図案集』)	大正15年(1926)	印刷・紙	36.5×27.5	
杉浦非水	『タングラム』	大正2年(1913)	書籍	各15.0× 22.5	
杉浦非水	『三越』(第六巻第十一号)	大正5年11月 (1916)	雑誌(表紙)	25.7×18.4	
杉浦非水	『大阪の三越』(第五年第五号)	昭和4年5月(1929)	雑誌(表紙)	25.5×44.0	
杉浦非水	《巻一男女共通　二方連続模様》 (原画)		鉛筆、着色・紙	37.4×28.5	
杉浦非水	《巻一男女共通　幾何学的単独充填模様》 (原画)		鉛筆、着色・紙	28.5×37.4	
杉浦非水	《幾何学的単独充填模様》(原画)		鉛筆、インク・紙	20.0×29.0	
杉浦非水	《巻一男女共通四方連続模様》(原画)		鉛筆、着色・紙	37.4×28.5	
杉浦非水	《巻三男子巻四女子　風景の図案的表現》 (原画)		鉛筆、着色・紙	37.4×28.5	
杉浦非水	《巻三中学専用　人物の図案化》 (原画)		鉛筆、着色・紙	37.4×28.5	
真鍋　博	都会主義者	昭和30年(1955)	油彩・画布	91.3×183.5	
真鍋　博	〔蛇〕	昭和32年(1957)	油彩・画布	60.8×45.5	
真鍋　博	〔網目・顔〕	1960年代	グアッシュ、墨・紙	27.0×38.0	
―	草月コンテンポラリー・シリーズNo.5 ３人のアニメーション　関連資料	昭和35年(1960)	印刷・紙	―	パンフレット(愛媛県立図書館蔵)
―	草月シネマテーク第６回 ３人のアニメーション・３　関連資料	昭和38年(1963)	印刷・紙	―	パンフレット(愛媛県立図書館蔵)
真鍋　博	「MARCH」原画	昭和38年(1963)	パステル、ペン、布・紙	―	
真鍋　博	いろどりの街で(PR誌表紙)	昭和46年(1971)	カラーインク、ポスターカラー・紙	36.0×25.6	
真鍋　博	73　ニュー・オフィス(企業広告)	昭和48年(1973)	カラーインク、アクリルグアッシュ・印画紙	42.9×35.8	
『週刊少年マガジン』 1968年8月11日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館① ゆうれい階段(エッシャー作品集から)	昭和43年8月11日 (1968)	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』 1968年8月18日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館② 生きていく手(エッシャー作品集から)	昭和43年8月18日 (1968)	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵

『週刊少年マガジン』1968年8月25日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館③ はい出したとかげ（エッシャー作品集から）	昭和43年8月25日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年9月1日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館④ きょうふの画廊（エッシャー作品集から）	昭和43年9月1日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年9月8日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館⑤ ふしぎな家（エッシャー作品集から）	昭和43年9月8日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年9月15日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館⑥ へんな建物（エッシャー作品集から）	昭和43年9月15日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年9月22日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館⑦ 白・黒どちらがほんもの？（エッシャー作品集から）	昭和43年9月22日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年10月6日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館⑨ 水の星（エッシャー作品集から）	昭和43年10月6日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年10月13日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館⑩ ふしぎな宇宙生物（エッシャー作品集から）	昭和43年10月13日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
『週刊少年マガジン』1968年11月3日号、講談社	ふしぎ特捜隊　ふしぎ美術館⑬ ぎゃくの世界（エッシャー作品集から）	昭和43年11月3日（1968）	印刷・紙	25.7×18.0	愛媛県立図書館蔵
真鍋　博	『真鍋博の鳥の眼』（毎日新聞社）原画	昭和43年（1968）	墨、ポスターカラー・紙	31.7×44.2	「松山」他全6点
真鍋　博	『ミステリマガジン　1974年1月号』（早川書房）原画	昭和49年（1974）	ポスターカラー・紙	22.2×16.2	
真鍋　博	『ミステリマガジン　1974年4月号』（早川書房）原画	昭和49年（1974）	ポスターカラー・紙	22.2×16.2	
真鍋　博	『ミステリマガジン　1974年11月号』（早川書房）原画	昭和49年（1974）	ポスターカラー・紙	22.2×16.2	
山口勝弘	ヴィトリーヌ　白いカリグラフィー	昭和28年（1953）	ガラス・油絵具・紙・木版	56.0×65.0×10.0	
山口勝弘	ヴィトリーヌ　空中の花	昭和30年（1955）	合成樹脂絵具・紙・木版	59.0×50.0×10.0	
オノサトトシノブ	G.H.C.2	昭和49年（1974）	シルクスクリーン・紙	17.1×16.8	寺田コレクション
オノサトトシノブ	P.A.C	昭和48年（1973）	シルクスクリーン・紙	22.0×27.5	
オノサトトシノブ	SILK-36	昭和45年（1970）	シルクスクリーン・紙	9.8×15.0	
オノサトトシノブ	SILK-76	昭和51年（1976）	シルクスクリーン・紙	23.0×38.0	
オノサトトシノブ	SILK-84	昭和51年（1976）	シルクスクリーン・紙	8.0×8.0	
オノサトトシノブ	SILK-85	昭和51年（1976）	シルクスクリーン・紙	8.0×8.0	
石山直司	PERCEPTION IN THE MIRROR	平成20年（2008）	エッチング、アクアチント・紙	62.0×84.0	
石山直司	ENSHRINE	平成20年（2008）	エッチング、アクアチント・紙	65.0×29.5	
西岡良太	Shock Wave Ⅱ	平成20年（2008）	アクリル・ケントボード	72.8×103.0	

○コレクション展Ⅱ／令和元年７月６日～８月18日
なぞなぞ美術館―ヒミツの呪文は「ミル・ハナス・キク・カンガエル」
企画展示室

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法（cm）	備　考
野間仁根	魔法の森	昭和9年（1934）	油彩・画布	41.0×31.8	
真鍋　博	靴の花		油彩・画布	130.0×96.0	
沖　冠岳	百猩々図	江戸時代末期-明治時代初期	紙本着色・軸	50.3×57.8	
畦地梅太郎	鳥のすむ森	昭和50年（1975）	多色木版・紙	40.9×30.0	
入江明日香	Magnoria Obovata	平成20年（2008）	銅板・コラージュ・紙	90.0×70.0	寺田コレクション
真鍋　博	鉛筆の鳥	昭和28年（1958）	油彩・画布	116.0×91.0	
遠藤広実	十六羅漢図	江戸時代後期	絹本著色・軸	91.7×43.0	
木村武山	羽衣	昭和時代初期	紙本着色	175.0×177.0	
磯辺行久	WORK'65-11～34	昭和40年（1965）	油彩・麻布他	72.7×60.6	
畦地梅太郎	白い像	昭和33年（1958）	多色木版・紙	45.5×53.0	
海老原喜之助	幸せな雪の村	昭和5年（1930）	油彩・画布	72.0×100.0	
白川義員	キャリブー	昭和53年（1978）	写真・パネル	102.0×152.0	
前田青邨	鯉三題	昭和25年（1950）	紙本墨画	75.0×89.8	
小清水　漸	作業台〈Blue Fish〉	平成2年（1990）	桂・塩地・群青	81.0×185.0×90.0	寄託作品
北川民次	ロバ	昭和3年（1928）	油彩・画布	99.0×89.0	
沖　冠岳	梅狗図	江戸時代末期	絹本墨画淡彩・軸	90.0×31.5	
小林古径	荒野	大正8年（1919）	絹本着色・軸	131.0×50.4	
古茂田公雄	炭坑夫	昭和15-16年（1940-41）	スクラッチング・紙	54.8×72.7	

土佐光起	柿本人麻呂像	江戸時代前期	紙本着色・軸	40.8×80.6	
安田靫彦	守屋大連	明治41年(1908)	絹本着色・軸	150.3×57.0	
安田靫彦	古事記	昭和21年(1946)	絹本着色・軸	44.0×59.5	
長谷川竹友	霊峰石鎚		紙本着色・六曲屏風一隻	174.5×373.0	
畦地梅太郎	山小屋の老人	昭和28年(1953)	多色木版・紙	54.0×36.5	
ピエール・ボナール	アンドレ・ボナール嬢の肖像画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0	

没後50年 八木彩霞
企画展示室

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法(cm)	備　考
八木彩霞	裸婦　グランショミール	昭和元年(1926)	油彩・画布	78.0×57.0	
八木彩霞	ダゲール街のアトリエ	昭和2年(1927)	油彩・画布	89.5×71.5	
八木彩霞	薔薇	昭和2年(1927)	油彩・画布	58.0×51.0	
八木彩霞	雪中の猛虎	昭和17年(1942)	油彩・板	120.5×91.2	
八木彩霞	面河渓	昭和17年(1942)	油彩・画布	45.5×53.0	
八木彩霞	睡蓮	昭和25年(1950)	油彩・画布	47.7×55.0	
八木彩霞	鯉	昭和25年(1950)	油彩・画布	41.0×31.8	
八木彩霞	鯉の滝登り	昭和27年(1952)	油彩・画布	74.3×41.8	
八木彩霞	富士山	昭和20年代	油彩・画布	41.5×49.1	
八木彩霞	牡丹	昭和30年(1955)	油彩・画布	40.8×31.5	
八木彩霞	薔薇	昭和30年(1955)	油彩・画布	38.0×45.5	
八木彩霞	十勝の牧場	昭和30年(1955)	油彩・画布	60.6×72.7	
八木彩霞	海老	昭和35年(1960)	油彩・画布	42.8×50.3	
八木彩霞	瀬戸の船	昭和35年(1960)	油彩・画布	38.1×46.8	
八木彩霞	鯛	昭和37年(1962)	油彩・画布	31.8×41.0	
八木彩霞	石手川堤　夏	昭和37年(1962)	油彩・画布	41.0×31.8	
八木彩霞	石手川堤　雪の朝	昭和38年(1963)	油彩・画布	50.3×57.8	
八木彩霞	観音像	昭和43年(1968)	油彩・画布	90.8×72.5	
八木彩霞	ライオン		油彩・画布	150.0×368.0	
八木彩霞	三坂峠遠望		油彩・画布		寄託作品
八木彩霞	石手川堤防		油彩・画布		寄託作品
八木彩霞	鯉幟		紙本着色・軸	124.2×32.5	
八木彩霞	蚊遣り		紙本墨画淡彩・軸	33.0×48.0	
八木彩霞	菊に雀		紙本墨画淡彩・軸	112.5×31.0	
八木彩霞	ダンス		紙本墨画淡彩・軸	50.5×32.0	
八木彩霞	湖畔の初夏	昭和28年(1953)	紙本着色・軸	66.5×33.5	
八木彩霞	兎に枝豆		紙本淡彩・軸	122.4×32.5	
八木彩霞	梅に猫		紙本着色・軸	112.9×31.0	
八木彩霞	鮎		紙本淡彩・軸	124.0×37.0	
八木彩霞	金蛇		紙本着色・軸	124.0×35.0	
八木彩霞	棕櫚		紙本墨画淡彩・軸	113.0×30.5	
藤田嗣治	立つ裸婦	大正13年(1924)	油彩・画布	99.6×64.6	
藤田嗣治	手形(複製)	昭和2年(1927)	印刷・紙		萬翠荘蔵
藤田嗣治	［女］	大正14年(1925)	エッチング・紙		個人蔵
藤田嗣治	［女］	昭和2年(1927)	エッチング・紙		個人蔵
杉浦非水	東洋唯一の地下鐵道　上野淺草間開通	昭和2年(1927)	オフセット・紙	91.4×62.0	
杉浦非水	たばこパッケージ	1930年代	印刷・紙	7.0×3.4×1.8ほか	
景浦稚桃	男波女なみ金波銀波の彩色のさながら繪なり海の朝凪	昭和32年(1957)	紙本墨書・軸	134.7×33.2	坪内コレクション
八木彩霞(画)・内藤鳴雪(句)	早苗		紙本淡彩／墨書・軸	135.0×39.0	
八木彩霞(画)・内藤鳴雪(句)	富士山		紙本墨書／着色		萬翠荘蔵
正岡子規・河東碧梧桐・下村為山	短冊		紙本淡彩／墨書・短冊		萬翠荘蔵
水野広徳	此一戦		紙本墨書		萬翠荘蔵

武智光春コレクション　福田平八郎　夏の風物
企画展示室

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法(cm)	備　考
福田平八郎	鮎	昭和38年(1963)	紙本着色・額	41.0×58.5	
福田平八郎	鯉(丹頂)	昭和38年(1963)	紙本着色・額	77.3×52.1	
福田平八郎	初夏	昭和40年(1965)	紙本着色・額	38.0×46.0	
福田平八郎	青楓大瑠璃	昭和40年(1965)	紙本着色・額	45.6×33.4	
福田平八郎	蛸	昭和43年(1968)	紙本着色・額	40.9×53.0	

西洋美術：ドイツ・スイスゆかりの作家
企画展示室

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法(cm)	備　考
マックス･ペヒシュタイン	水浴する人々	1911年頃	木版､水彩･紙	20.5×23.5	
マックス･ペヒシュタイン	祭日の焼肉を射る	1911年	木版､水彩･紙	24.6×29.9	
ウジェーヌ･グラッセ	瞑想	1897年	リトグラフ･紙	87.7×54.0	
マリノ･マリーニ	踊り子	1953年	鉛	155.0×32.0×35.0	
ジャン･アルプ	ギュール	1963年／1976年鋳造	ブロンズ	97.0×23.5×33.0	

○コレクション展Ⅲ／令和元年８月20日～11月17日
吉田勝彦の銅版画Ⅰ　”La Habitación de mi corazón（我が心の部屋）” ー新収蔵作品を中心に
常設展示室３

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法(cm)	備　考
吉田勝彦	予兆　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	メゾチント・紙	14.0×8.3	
吉田勝彦	出現　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレービング・紙	12.4×10.0	
吉田勝彦	触刺死　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレービング・紙	9.6×13.9	
吉田勝彦	餓鬼魂　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレービング・紙	直径8.8	
吉田勝彦	男と女の顔　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	メゾチント・紙	20.0×14.0	
吉田勝彦	M　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレービング・紙	13.7×10.0	
吉田勝彦	フィナーレ　(「四獣視姦思考」より)	昭和49年(1974)	エングレービング・紙	12.7×10.4	
吉田勝彦	レェチェリア海岸の夕暮	昭和51年(1976)	メゾチント・紙	5.0×19.9	
吉田勝彦	プエルト･ラ･クルス　暁の海景	昭和51年(1976)	メゾチント・紙	4.7×22.4	
吉田勝彦	レェチェリア海岸の夜明け	昭和61年(1986)	カラーメゾチント・紙	11.2×29.5	
吉田勝彦	プエルト･ラ･クルスの夕焼け	昭和61年(1986)	カラーメゾチント・紙	11.4×29.6	
吉田勝彦	砂のサバンナ	昭和51年(1976)	エングレービング・紙	15.5×18.0	
吉田勝彦	白夏夜嵐　天の雨簾	昭和52年(1977)	エングレービング・紙	6.8×35.3	
吉田勝彦	黄昏の山岳都市	昭和54年(1979)	メゾチント・紙	17.3×23.7	
吉田勝彦	小さな舟着場	昭和53年(1978)	エングレービング・紙	21.9×26.3	
吉田勝彦	C採石場の夜	昭和54年(1979)	エングレービング・紙	10.0×16.5	
吉田勝彦	志賀直哉　『暗夜行路』	昭和54年(1979)	エングレービング、カラーメゾチント、ドライポイント・紙	16.9×11.8	
吉田勝彦	アリアドネ	昭和57年(1982)	メゾチント、エッチング・紙	14.5×11.5	
吉田勝彦	セゴビア晩秋(『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	11.6×16.1	
吉田勝彦	Carmen 4-S°, MADRID. (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	エングレービング・紙	16.5×12.0	
吉田勝彦	午後の一隅(『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント、エングレービング／紙	19.8×14.9	
吉田勝彦	Tiempo(時)(『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	エングレービング・紙	直径18.2	
吉田勝彦	遥かなるアンダルシア(F.G.L.に捧げる) (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	21.0×22.9	
吉田勝彦	イエズス会修道師Tの夜(饒舌と寡黙の狭間で･･･) (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	エングレービング・紙	16.5×19.8	
吉田勝彦	CUMANA残照 (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	14.5×18.1	
吉田勝彦	カンポ･デ･クリプタナの家並 (『La Habitación de mi corazón』より)	昭和55年(1980)	メゾチント・紙	14.6×19.5	
吉田勝彦	渇いた街(『Meditación Secada』より)	昭和56年(1981)	メゾチント・紙	13.5×23.7	
吉田勝彦	白い沼　(『Meditación Secada』より)	昭和56年(1981)	エングレービング・紙	12.0×19.3	
吉田勝彦	春雷　(『Meditación Secada』より)	昭和56年(1981)	メゾチント・紙	17.3×17.8	
吉田勝彦	小さな港	昭和56年(1981)	エングレービング・紙	15.9×21.8	

吉田勝彦	小さな防波堤	昭和56年（1981）	メゾチント・紙	8.3×28.7	
吉田勝彦	小さな永遠	昭和56年（1981）	メゾチント・紙	30.4×20.0	
吉田勝彦	夏	昭和56年（1981）	メゾチント・紙	21.2×25.7	
吉田勝彦	残り火	昭和56年（1981）	エングレービング・紙	10.3×29.5	
吉田勝彦	汽笛（K操車区の想い出）	昭和57年（1982）	エングレービング・紙	20.7×33.6	

武智光春コレクション　福田平八郎　秋の風物
常設展示室３

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法（cm）	備　考
福田平八郎	清秋	昭和38年（1963）	紙本着色・額	36.0×53.0	
福田平八郎	葉鶏頭	昭和45年（1970）	紙本着色・額	39.0×52.0	
福田平八郎	爽秋	昭和42年（1967）	紙本着色・額	36.5×32.5	
福田平八郎	林檎	昭和41年（1966）	紙本着色・額	44.7×43.1	
福田平八郎	林檎	昭和42年（1967）	紙本着色・額	28.0×40.3	
福田平八郎	喜雀	昭和38年（1963）	紙本着色・額	36.5×27.3	
福田平八郎	鯉	昭和43年（1968）	紙本着色・額	48.3×60.3	

西洋美術：ロシアゆかりの作家
常設展示室３

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法（cm）	備　考
レオ･スベンプ	日の照る河	1974年	油彩・画布	100.0×111.2	
ヴァシリー･カンディンスキー	生き生きとした白	1934年	油彩・画布	60.0×73.0	
オシップ･ザッキン	恋人達　または､2つのトルソの親密性	1957-59年（1998年鋳造）	ブロンズ	126.0×64.0×33.0	

○コレクション展Ⅳ／令和元年11月23日～令和２年１月13日
武智光春コレクション　福田平八郎　冬の風物
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法（cm）	備　考
福田平八郎	雪庭	昭和30年（1955）	紙本着色・額	40.7×52.4	
福田平八郎	釣自画像	昭和11年（1936）	紙本着色・額	16.7×52.4	
福田平八郎	初雪	昭和41年（1965）	紙本着色・額	41.5×55.5	
福田平八郎	鴛（雪中）	昭和43年（1951）	紙本着色・額	31.4×41.0	
福田平八郎	寒牡丹小禽	昭和36年（1961）	紙本着色・額	32.0×24.5	

西洋美術：フランスの作家
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法（cm）	備　考
ジャン＝バティスト＝カミーユ･コロー	ヴィル＝ダヴレー　白樺のある池	1855-60年頃	油彩・画布	49.0×73.0	
クロード･モネ	アンティーブ岬	1888年	油彩・画布	65.0×92.0	
ポール･セザンヌ	水の反映	1888-90年頃	油彩・画布	65.0×92.0	
アンドレ･ボナール	アンドレ･ボナール嬢の肖像　画家の妹	1890年	油彩・画布	188.0×80.0	
オディロン･ルドン	アポロンの馬車	1907-08年	油彩・画布	100.3×81.2	
アンドレ･ロート	マルグリットの肖像	1913年	油彩・画布	164.0×86.0	

吉田勝彦の銅版画Ⅱ　小さな風景　新収蔵品を中心に
常設展示室３

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質･形状	寸法（cm）	備　考
吉田勝彦	早春	昭和57年（1982）	エッチング・紙	8.5×21.0	
吉田勝彦	小野川の春	昭和57年（1982）	エッチング・紙	16.0×29.4	
吉田勝彦	ララバイ　（謙介に･･･）	昭和57年（1982）	メゾチント・紙	21.2×25.5	
吉田勝彦	春霞む林	昭和58年（1983）	エッチング・紙	20.1×29.8	
吉田勝彦	或る日のE港（日の出）	昭和58年（1983）	エングレービング・紙	14.0×24.2	
吉田勝彦	新開地F埠頭（昼下り）	昭和59年（1984）	エングレービング・紙	29.7×44.4	
吉田勝彦	新開地F埠頭（夕立前）	昭和59年（1984）	メゾチント・紙	22.5×36.0	
吉田勝彦	マーガレット	昭和59年（1984）	エングレービング・紙	22.7×16.5	
吉田勝彦	ワイングラスに挿した春の野草	昭和59年（1984）	メゾチント・紙	22.3×16.8	
吉田勝彦	玩具のある静物（佳世に）	昭和60年（1985）	メゾチント・紙	25.6×22.5	
吉田勝彦	小さな測候所（未明）	昭和60年（1985）	メゾチント・紙	20.8×32.7	
吉田勝彦	小さな測候所（真夜中）	昭和60年（1985）	エングレービング・紙	21.0×29.5	

吉田勝彦	星雪夜	昭和61年(1986)	エッチング・紙	17.9×36.2	
吉田勝彦	風化する森　(『森』より)	昭和63年(1988)	エッチング・紙	29.5×59.8	
吉田勝彦	聖森　(『森』より)	昭和63年(1988)	エッチング・紙	35.8×59.4	
吉田勝彦	春雪の林道	昭和63年(1988)	エッチング・紙	29.5×45.4	
吉田勝彦	朝影の山頂	平成元年(1989)	カラーメゾチント・紙	23.9×36.3	
吉田勝彦	山嶺の曙	平成2年(1990)	カラーメゾチント・紙	23.8×45.2	
吉田勝彦	林間の富士	平成3年(1991)	エッチング・紙	38.0×51.4	
吉田勝彦	平潟港の朝焼け	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	20.0×46.2	
吉田勝彦	風間の秋	平成3年(1991)	エッチング・紙	23.3×36.2	
吉田勝彦	春を待つ山	平成3年(1991)	エッチング・紙	24.0×45.4	
吉田勝彦	入日	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	23.9×36.1	
吉田勝彦	薔薇11月	平成2年(1990)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.8	
吉田勝彦	薔薇1月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.9	
吉田勝彦	薔薇2月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.8	
吉田勝彦	薔薇6月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.1×23.8	
吉田勝彦	薔薇8月	平成3年(1991)	カラーメゾチント・紙	36.3×23.7	
吉田勝彦	薔薇12月	平成4年(1992)	カラーメゾチント・紙	36.4×23.8	
吉田勝彦	薔薇7月	平成5年(1993)	カラーメゾチント・紙	36.1×23.8	
吉田勝彦	薔薇10月	平成5年(1993)	カラーメゾチント・紙	36.2×23.9	
吉田勝彦	薔薇13月	平成5年(1993)	メゾチント・紙	36.1×25.6	
吉田勝彦	薔薇9月	平成2-5年 (1990-93)	カラーメゾチント・紙	36.0×23.7	
吉田勝彦	月と星と　(1991年、1月17日P.M.8:40) (『隅田川河岸』より)	平成3年(1991)	メゾチント・紙	18.0×29.6	
吉田勝彦	勝鬨橋近辺　(『隅田川河岸』より)	平成3年(1991)	エングレーヴィング／紙	23.8×36.3	
吉田勝彦	浜離宮夕照　(『隅田川河岸』より)	平成3年(1991)	メゾチント・紙	24.0×36.3	
吉田勝彦	春の海	平成4年(1992)	カラーメゾチント・紙	22.6×31.8	
吉田勝彦	宮部家の旧屋	平成5年(1993)	エッチング・紙	17.9×23.8	
吉田勝彦	今朝の夏	平成5年(1993)	エッチング・紙	23.8×36.2	
吉田勝彦	白佗助	平成6年(1994)	カラーメゾチント・紙	19.7×14.0	
吉田勝彦	茜佗助	平成6年(1994)	カラーメゾチント・紙	19.7×14.2	
吉田勝彦	夜光盃と桃佗助	平成7年(1995)	カラーメゾチント・紙	28.5×17.5	
吉田勝彦	夜光盃とピンクの佗助	平成7年(1995)	カラーメゾチント・紙	23.0×17.3	
吉田勝彦	樹間の秋	平成7年(1995)	エッチング・紙	29.6×36.1	
吉田勝彦	山桜 (春)	平成8年(1996)	エッチング・紙	44.9×29.8	
吉田勝彦	山桜 (夏)	平成8年(1996)	エッチング・紙	36.2×24.0	
吉田勝彦	山桜 (秋)	平成8年(1996)	エッチング・紙	45.3×34.7	
吉田勝彦	山桜 (冬)	平成8年(1996)	エッチング・紙	45.1×19.8	
吉田勝彦	窓からの眺め	平成11年(1999)	エッチング・紙	22.5×29.7	
吉田勝彦	牡丹	平成11年(1999)	メゾチント・紙	23.7×21.7	
吉田勝彦	白牡丹	平成11年(1999)	カラーメゾチント・紙	22.8×29.6	
吉田勝彦	デンファレ	平成11年(1999)	メゾチント・紙	36.1×24.1	
吉田勝彦	二輪の薔薇	平成12年(2000)	メゾチント・紙	16.0×10.4	
吉田勝彦	二輪の薔薇	平成12年(2000)	カラーメゾチント・紙	15.8×10.2	
吉田勝彦	秋日和	平成12年(2000)	カラーメゾチント・紙	7.3×11.0	
吉田勝彦	玉の浦椿	平成13年(2001)	カラーメゾチント・紙	36.2×23.6	
吉田勝彦	蚕豆	平成14年(2002)	カラーメゾチント・紙	21.7×8.3	
吉田勝彦	コップとレモン	平成14年(2002)	カラーメゾチント・紙	26.0×12.1	
吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	エッチング・紙	22.6×8.7	
吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	エングレービング・紙	21.3×6.5	
吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	ドライポイント・紙	22.7×8.7	
吉田勝彦	食卓	平成15年(2003)	カラーメゾチント・紙	22.4×8.9	

○コレクション展Ⅴ／令和２年１月18日～４月26日
花鳥画－仮想の楽園
常設展示室１

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法 (cm)	備　考
	花鳥図	江戸時代	絹本着色・軸	55.8×92.2	寄託作品
下村為山	月下宿鳥図	昭和11年(1936)	紙本着色・軸	69.5×91.0	
狩野芳崖	老松小禽図	明治時代初期	紙本墨画・軸	132.7×55.0	

大智勝観	松竹梅に双鶴の図	大正～昭和時代	絹本着色・ 二曲屏風一双	180.0×180.0	
伊藤渓水	四季花鳥図屏風	大正～昭和時代	絹本着色・ 六曲屏風一双	（各） 169.0×372.0	
清原雪信	花鳥図	江戸時代前期	紙本淡彩・軸	31.6×50.5	寄託作品
高畠華宵	鶏図	明治時代	絹本着色・軸	97.5×42.5	個人蔵
加藤岡谷	朝顔に雀図	大正時代	絹本着色・軸	114.7×35.5	個人蔵
楳崎朱雀	花鳥図	大正～昭和時代	絹本着色・軸	132.0×35.5	個人蔵
松本仙挙	花鳥図	大正～昭和時代	紙本着色・軸	125.5×41.2	個人蔵
伊藤渓水	孔雀図	大正～昭和時代	絹本着色・軸	136.0×50.8	個人蔵
喜多武清	烏鷺図	天保8年（1838）	紙本着色・軸双幅	各129.5×49.5	
野田青石	花鳥図屏風	明治41年（1908）	紙本着色・ 六曲屏風一双	（各） 177.5×247.0	寄託作品
長谷川竹友	竹にひなげし図屏風	明治～昭和時代	紙本着色・ 四曲屏風一隻	172.8×281.2	寄託作品
加藤文麗	菊に雀図屏風	江戸時代中期	紙本淡彩・ 六曲屏風一隻	（各） 171.8×236.0	寄託作品

南予の版画家たち
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法（cm）	備　考
畦地梅太郎	井戸のある風景	昭和4年（1929）	鉛凸版／紙	10.5×13.5	
畦地梅太郎	エビス	昭和13年（1938）頃	多色木版・紙	8.9×9.8	
畦地梅太郎	南国海岸（海岸）	昭和2年（1927）	多色木版・紙	14.6×18.6	
畦地梅太郎	コップをもつ男		多色木版・紙	18.0×12.0	
畦地梅太郎	てっせん	昭和26年（1951）	多色木版・紙	32.0×23.9	
畦地梅太郎	花火	昭和31年（1956）	多色木版・紙	16.0×8.0	
畦地梅太郎	八ツ開拓者の家（山ろく開拓者の家）	昭和26年（1951）	多色木版・紙	29.0×41.0	
畦地梅太郎	土地の管理人	昭和34年（1959）	多色木版・紙	82.5×55.5	
中尾義隆	うつむく少女	昭和23年（1948）頃	多色木版・紙	38.0×27.5	
中尾義隆	午睡	昭和24年（1949）頃	セメント版・紙	32.0×40.4	
中尾義隆	赤面	昭和35年（1960）	多色木版・紙	65.0×45.5	
中尾義隆	臨検	昭和35年（1960）	多色木版・紙	82.0×52.0	
中尾義隆	思索	昭和42年（1967）	多色木版・紙	53.5×39.5	
中尾義隆	水のむ女	昭和24年（1949）頃	セメント版・紙	44.5×33.0	
中尾義隆	石灰焼場	昭和24年（1949）	セメント版・紙	22.5×17.0	
中尾義隆	レスラー	昭和45年（1970）	多色木版・紙	75.0×46.0	
中尾義隆	石のベッド	昭和31年（1956）	多色木版・紙	45.5×68.5	
中尾義隆	工事（1）	昭和37年（1962）	多色木版・紙	80.0×51.0	
中尾義隆	古生物	昭和42年（1967）	セメント版・紙	70.0×45.5	
菊沢尋吉	自画像		エッチング・紙	48.6×32.5	寄託作品
菊沢尋吉	タンク	昭和21年（1946）	木版多色・紙	19.0×21.8	寄託作品
菊沢尋吉	少女	昭和40年（1965）	木版多色・紙	47.0×32.0	寄託作品
菊沢尋吉	女性誕生	昭和39年（1964）	木版多色・紙	50.0×30.3	寄託作品
菊沢尋吉	海－空間	昭和41年（1966）	木版多色・紙	82.5×44.0	
菊沢尋吉	赤いうず	昭和48年（1973）	木版多色・紙	47.9×62.2	寄託作品
菊沢尋吉	荒れる海	昭和57年（1982）	木版多色・紙	57.2×82.0	寄託作品
菊沢尋吉	女	昭和58年（1983）	木版多色・紙	61.5×50.3	寄託作品
菊沢尋吉	母と子－平和－	昭和58年（1983）	木版多色・紙	84.0×57.0	寄託作品
菊沢尋吉	白扇	昭和57年（1982）	木版多色・紙	80.0×54.2	
菊沢尋吉	海・さくら	昭和57年（1982）	木版多色・紙	55.5×78.5	寄託作品
菊沢尋吉	ビーナス	昭和58年（1983）	木版多色・紙	78.0×52.7	
菊沢尋吉	北極の山なみ	昭和57年（1982）	木版多色・紙	54.3×80.0	寄託作品
菊沢尋吉	北極の太陽	昭和57年（1982）	木版多色・紙	50.0×78.5	寄託作品
菊沢尋吉	我をいだく	昭和58年（1983）	木版多色・紙	79.7×53.6	寄託作品
菊沢尋吉	とぎ　夕やけ雲	昭和56年（1981）	木版多色・紙	57.0×82.0	寄託作品
菊沢尋吉	シコロ－愛	昭和60年（1985）	木版多色・紙	62.5×89.0	寄託作品
松本秀一	蚕豆（『光が生まれる刻に』より）	平成4年（1992）	メゾチント・紙	9.6×6.2	
松本秀一	百合の蕾（『光が生まれる刻に』より）	平成4年（1992）	メゾチント・紙	9.5×26.5	
松本秀一	李（『光が生まれる刻に』より）	平成5年（1993）	メゾチント・紙	16.0×16.3	

松本秀一	木の葉（『光が生まれる刻に』より）	平成5年（1993）	メゾチント・紙	12.2×16.4	
松本秀一	蟷螂Ⅰ（『光が生まれる刻に』より）	平成5年（1993）	メゾチント・紙	13.3×22.0	
松本秀一	蟷螂Ⅱ（『光が生まれる刻に』より）	平成6年（1994）	メゾチント・紙	14.6×25.4	

武智光春コレクション　福田平八郎　春の風物
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法（cm）	備　考
福田平八郎	春に匂ふ	昭和45年（1970）	紙本着色・額	36.5×43.5	
福田平八郎	松竹梅	昭和41年（1966）	紙本着色・額	45.2×66.4	
福田平八郎	旭光富士	昭和46年（1971）	紙本着色・額	23.5×16.5	
福田平八郎	光春	昭和44年（1969）	紙本着色・額	27.0×34.5	
福田平八郎	白梅	昭和33年（1958）	紙本着色・額	41.2×62.0	
福田平八郎	白梅目白	昭和43年（1968）	紙本着色・額	29.3×39.3	

西洋美術：イタリアの作家
常設展示室２

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法（cm）	備　考
メダルド・ロッソ	門番の女	1883年	石膏・蜜蝋	39.0×34.0×19.0	
マリノ・マリーニ	踊り子	1953年	鉛	155.0×32.0×35.0	
エミリオ・グレコ	うずくまる女（大）No.5	1975年	ブロンズ	109.5×79.0×78.5	
エミリオ・グレコ	裸婦	1977年	エッチング・紙	30.7×23.3	
エミリオ・グレコ	〔裸婦〕	1988年	エッチング・紙	22.0×31.0	

愛媛の道　絵画でつなぐ風景
常設展示室３

作　家　名	作　品　名	制　作　年	材質・形状	寸法（cm）	備　考
田村一男	石鎚	昭和52年（1977）	油彩・画布	99.8×65.0	
村上景雲	石鎚山	昭和45年（1970）	紙本着色	146.0×208.0	
世良　孟	瓶ヶ森の春		水彩・紙	53.5×157.0	
越智恒孝	別子山		油彩・画布	90.7×72.6	
野間仁根	来島水道	昭和40年（1965）	油彩・画布	97.0×130.3	
寺坂公雄	しまなみ海道	平成12年（2000）	油彩・画布	72.8×60.6	
土田次枝	瀬戸内海	昭和40年（1965）	油彩・画布	116.0×91.4	
石崎重利	伊予・来島瀬戸	昭和12年（1937）	木版・紙	20.1×27.8	
武田耕雪	面河渓之図	昭和4年（1929）	紙本着色	178.5×92.0	
古茂田公雄	虎ヶ瀧		油彩・画布	65.2×91.0	
牧田嘉一郎	松山城	昭和16年（1941）	油彩・画布	45.3×52.7	
河本一男	堀之内風景	昭和26年（1951）	油彩・画布	91.3×116.6	
松本奉山	萬翠荘	昭和62年（1987）	紙本墨画淡彩	96.8×177.6	
石崎重利	伊予・松山遠望	昭和12年（1937）	木版・紙	11.8×28.1	
斎藤　清	松山城	昭和50年（1975）	木版・紙	60.0×45.0	
高見和秀	「清澗」小田深山	平成18年（2006）	油彩・画布	90.9×72.7	
浅井政勝	大州臥竜	昭和34年（1959）	油彩・画布	33.2×24.5	
古茂田公雄	佐田岬燈台	昭和38年（1963）頃	油彩・画布	53.0×72.5	
上杉吉昭	宇和海	平成21年（2009）	油彩・画布	89.5×130.5	
村田英夫	宇和島内港風景	昭和10年（1935）	水彩・紙	66.5×106.0	
薬師寺進	宇和島内港	昭和14-15年（1939-40）頃	油彩・画布	73.0×60.5	

2　企画展示・共催展示・特別展示

企画展示一覧

場所	展　覧　会　名	会　　期
新館	生誕120年 イスラエル博物館所蔵 ミラクル　エッシャー展 奇想版画家の謎を解く8つの鍵	平成 31 年4月 12 日(金)～令和元年6月 16 日(日)
	魔法の美術館 光と遊ぼう！マジカル・ワンダーランド	令 和 元 年 6 月 15 日（土） ～ 8 月 25 日（日）
	国立トレチャコフ美術館所蔵 ロマンティック・ロシア	令 和 元 年 9 月 7 日（土） ～ 11 月 4 日（月）
	高野山金剛峯寺襖絵完成記念　千住博展 日本の美を極め、世界の美を拓く	令和元年 11 月 16 日(土)～令和2年1月 19 日(日)
	没後20年　畦地梅太郎 山のなか、本のなか	令 和 2 年 2 月 1 日（土） ～ 3 月 29 日（日）

共催展示一覧

場所	展　覧　会　名	会　　期
新館	長くつ下のピッピの世界展 リンドグレーンが描く 北欧の暮らしと子どもたち	令和元年 9 月 14 日（土）～　11 月 10 日（日）

特別展示一覧

場所	展　覧　会　名	会　　期
新館	コレクション特別展 松山藩御用絵師列伝	令和元年 11 月 23 日(土･祝)～令和 2 年 1 月 13 日(月･祝)

生誕120年 イスラエル博物館所蔵 ミラクル　エッシャー展 奇想版画家の謎を解く８つの鍵

会　　期： 平成31年4月12日（金）－　令和元年6月16日（日）（57日間）
主　　催： イスラエル博物館、ミラクル　エッシャー展 愛媛展実行委員会（愛媛県、テレビ愛媛）
共　　催： 愛媛新聞社
後　　援： イスラエル大使館、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県ＰＴＡ連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、学校法人河原学園、学校法人松山ビジネスカレッジ、（公財）松山観光コンベンション協会、道後温泉旅館協同組合、ＪＲ四国、伊予鉄グループ、南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛ＣＡＴＶ、ＦＭ愛媛、えひめリビング新聞社
特別協賛： 弁護士法人ミネルヴァ法律事務所、大一ガス
協　　賛： 野崎印刷紙業
協　　力： Blue Dragon Art Company、日本通運
企画制作： 産経新聞社、フジテレビジョン
会　　場： 愛媛県美術館　企画展示室１・２

趣　　旨

マウリッツ・コルネリス・エッシャー（1898－1972）は20世紀を代表する版画家であり、いわゆる「だまし絵」を中心とした魅力的な作品群により、世界中で広く人気を博している。オランダに生まれたエッシャーは、ハールレムの建築装飾美術学校で版画の技術を学び、初期にはイタリアやスペインの街並みや建築に魅せられてそれらを直接題材に制作し、1925年から10年間にわたりローマを拠点に活動を続けた。スペインのアルハンブラ宮殿のモザイク模様は、その後のエッシャーの独自の作風に大きな影響を与えることとなった。1938年には代表作のひとつである《昼と夜》を発表。その後も、画面を繰り返し模様で敷き詰めた「平面充填」や、二次元と三次元との交錯などをテーマとした名作を次々と発表した。本展では、世界最大級のコレクションを誇るイスラエル博物館が所蔵する、初期から後期にかけての選りすぐりの作品約150点を日本で初公開し、人間の眼がみせる奇想天外な現象を分析し、飽くなき探究心で新しい不思議の世界を生み出し続けたエッシャーの作品を一堂に紹介した。

観覧者数：29,602名

関連行事

記念講演会「奇想版画家エッシャー：その作品評価と受容」
日　　時：４月17日（土）　14：00～15：30
講　　師：熊澤　弘（東京藝術大学大学美術館准教授／本展監修者）
場　　所：美術館講堂　※要観覧券半券
参加人数：80名

ワークショップ「あなたもエッシャーに挑戦！」
日　　時：５月５日（日）　①13：30～14：30　②15：30～16：30
　　５月６日（月・祝）　①11：00～12：00　②13：00～14：00
講　　師：荒木義明（日本テセレーションデザイン協会代表／数学者）
会　　場：美術館エントランスホール
対　　象：各回小学生と保護者30組60名　※要観覧券半券
参加人数：延178名

学芸員によるフロアレクチャー

日　　時：４月20日、５月11日　（各土）14：00～（約１時間）
講　　師：専門学芸員　杉山はるか
場　　所：展示室　※要観覧券
参加人数：延62名

土曜講座「エッシャーワールドの誕生とその魅力」

日　　時：５月18 日（土）　14：00～（約１時間）
講　　師：専門学芸員　杉山はるか
場　　所：美術館講堂
参加人数：20名

講演会「エッシャーパターン　無限の宇宙　美の数学」

日　　時：６月１日（土）　14：00～15：00
講　　師：久松洋二（愛媛県総合科学博物館専門学芸員・担当係長）
場　　所：愛媛県美術館講堂
参加人数：55名

土曜講座「エッシャーに挑戦！合同な図形の平面構成」

日　　時：６月８日（土）　14：00～（約１時間）
講　　師：教育専門員　高木　学
場　　所：美術館講堂
参加人数：２名

令和記念！SNSにアップでポストカードプレゼント！

月　　日：５月１日～５月31日
参加人数：延62名　※要観覧券半券

生誕120年　イスラエル博物館所蔵　ミラクル　エッシャー展　奇想版画家の謎を解く８つの鍵
出品作品リスト

1　科学

番号	作品名	制作年	技法	寸法(mm)
1	貝殻	1919/1920年	木版	165×251
2	とげのある花	1936年	木口木版	277×207
3	バルコニー	1945年	リトグラフ	297×234
4	画廊	1946年	メゾティント	220×165
5	蝶	1950年	木口木版	281×260
6	宿命(逆さまの世界)	1951年	リトグラフ	295×423
7	騎手	1946年	多色刷り木版	239×449
8	螺旋	1953年	多色刷り木口木版	270×333
9	対照(秩序と混沌)	1950年	リトグラフ	280×280
10	星	1948年	多色刷り木口木版	320×260
11	二重の惑星	1949年	多色刷り木口木版	φ 374
12	ドラゴン	1952年	木口木版	321×241
13	重力	1952年	リトグラフ、水彩(手彩色)	299×300
14	同心円状の球面片	1953年	木口木版	241×241
15	四面体の小惑星	1954年	多色刷り木版	430×430
16	立方体による空間分割	1952年	リトグラフ	266×266
17	版画画廊	1956年	リトグラフ	315×320
18	立方体とマジックリボン	1957年	リトグラフ	310×310
19	メビウスの輪Ⅰ	1961年	多色刷り木版、木口木版	238×259

2　聖書

番号	作品名	制作年	技法	寸法(mm)
20	楽園	1921年	木版	257×490
21	小鳥に説教する聖フランチェスコ	1922年	木版	509×309
22	聖ウィンケンティウス	1925年	木版	209×283
23	天地創造の一日目	1925年	木版	280×377
24	天地創造の二日目	1925年	木版	279×374
25	天地創造の三日目	1926年	木版	373×278
26	天地創造の五日目	1926年	木版	376×279
27	天地創造の六日目	1926年	木版	376×279
28	人類の堕落	1927年	木版	375×277
29	バベルの塔	1928年	木版	621×385
30	「地獄」(ヒエロニムス・ボスの絵画に基づく)	1935年	リトグラフ	251×214

3　風景

番号	作品名	制作年	技法	寸法(mm)
31	サンジミニャーノ	1922年	木版	247×321
32	サンジミニャーノ	1923年	木版	289×481
33	チミノのヴィトルキアーノにて	1925年	木版	391×571
34	ローマ、ボルゲーゼの聖獣	1927年	多色刷り木版	447×443
35	コルテ、コルシカ島	1929年	木版	568×436
36	ゴリアーノ・シコリ、アブルッツィ地方	1929年	リトグラフ	240×290
37	ジェナッツァーノ、アブルッツィ地方	1929年	リトグラフ	268×196
38	チェッロ・アル・ヴォルトゥルノ、アブルッツィ地方	1930年	木版	655×483
39	スカンノの街路、アブルッツィ地方	1930年	リトグラフ	627×431
40	カストロヴァルヴァ、アブルッツィ地方	1930年	リトグラフ	535×418
41	橋	1930年	リトグラフ	536×377

42	ペンテダッティロ、カラブリア州	1930年	リトグラフ	197×255
43	トロペア、カラブリア州	1931年	リトグラフ	313×235
44	サンタ・セヴェリナ、カラブリア州	1931年	リトグラフ	232×310
45	ロッサーノ、カラブリア州	1931年	木版	240×309
46	アトラニ、アマルフィ海岸	1931年	リトグラフ	275×379
47	サンコジモ、ラヴェッロ	1932年	木口木版	280×210
48	ラヴェッロにある農家	1932年	リトグラフ	233×311
49	サン・ジョヴァンニ聖堂、カンピドリオ、ラヴェッロ	1932年	木口木版	280×210
50	スクラファーニ、シチリア島	1933年	木口木版	240×320
51	《ボニファチオ、コルシカ》のための習作	1933年	チョーク、鉛筆	320×239
52	海の微光	1933年	リトグラフ	327×245
53	夜のローマ「ディオスクロイ兄弟、ポルックス像」（カンピドリオ広場）	1934年	木版	298×238
54	夜のローマ「トラヤヌス記念柱」	1934年	木版	334×185
55	ポジターノの古い家	1934年	リトグラフ	245×286
56	アマルフィ海岸	1934年	木版	697×408
57	《マルセイユ》のための習作	1936年	チョーク	329×239
58	静物と街路	1937年	木版	487×490
59	夕暮れ（ローマ）	1946年	メゾティント（第1ステート）	142×98
60	夕暮れ（ローマ）	1946年	メゾティント（第2ステート）	117×98

4　人物

番号	作品名	制作年	技法	寸法（mm）
61	子供の頭部	1916年	カラー・リノカット	115×90
62	赤ん坊	1917年	リノカット	93×110
63	自画像	1917年	リノカット	216×131
64	フィット・ファン・ストルク＝ファン・デル・ドゥース・デ・ウィルボワ	1918年	カラー・リノカット	150×119
65	肖像	1919年	カラー・リノカット	244×158
66	ひざに猫を置いて座る男	1919年	木版	117×90
67	椅子に座っている自画像	1920年	木版	195×170
68	妻イエッタの肖像	1925年	木版	490×278
69	自画像	1929年	リトグラフ	264×205
70	父 G.A.エッシャーの肖像	1935年	リトグラフ	262×208
71	出会い	1944年	リトグラフ	342×467
72	婚姻の絆	1956年	リトグラフ	257×335

5　広告

番号	作品名	制作年	技法	寸法（mm）
73	花	1931年	木版	180×135
74	三男ヤン・エッシャーの誕生通知カード	1938年	木版	120×80
75	レストラン「インシュリンデ」（ハーグ）のためのエンブレム	1944年	多色刷り木版	φ 120
76	漢字用便箋のためのデザイン	1944年	多色刷り木版	210×139
77	オランダ蔵書票協会（ハーグ）のための年賀状（グリーティングカード）	1946年	木口木版	118×101
78	アッセルベルフのための年賀状（グリーティングカード）	1948年	木版	152×139

6　技法

番号	作品名	制作年	技法	寸法（mm）
79	菊	1916年	カラー・リノカット	164×135
80	オーステルベークを流れるライン川にかかる鉄橋	1917年	エッチング	86×125
81	ヒマワリ	1918年	リノカット（カウンタープルーフ）	165×151
82	波	1918年	リノカット、水彩（手彩色）	71×175
83	生命力	1919年	リノカット（カウンタープルーフ）	438×428
84	海上にうかぶ雲	1919/1920年	リノカット	520×287

85	西部劇	1920年	木版	365×176
86	男の肖像	1920年	木版(カウンタープルーフ)	345×344
87	座る裸婦と花	1920/1921年	木版／布	109×142
88	もみの木の実を持つ手	1921年	木版(カウンタープルーフ)	278×166
89	シエナの市街の屋根	1922年	木版／布	323×219
90	地下聖堂での行列	1927年	木版	605×440
91	空中の城	1928年	木版	622×384
92	水没した聖堂	1929年	木版	721×416
93	蜘蛛の巣	1931年	木口木版	179×138
94	花火	1933年	リトグラフ	424×227
95	夜のローマ:サンタ・マリア・デル・ポポロ教会(ポポロ広場)	1934年	木版	241×285
96	デルフト新教会の内部	1939年	木版	314×209
97	《カルヴィ、コルシカ島》のための習作	1933年	チョーク、鉛筆	240×320
98	《ラヴェッロの広場にあるライオン噴水》のための習作	1931年	チョーク、鉛筆	247×320
99	ラヴェッロの広場にあるライオン噴水	1932年	リトグラフ	213×232
100	《ラヴェッロとアマルフィ海岸》のための習作	1931年	チョーク、鉛筆	317×245
101	ラヴェッロとアマルフィ海岸	1931年	リトグラフ	313×237
102	フンコロガシ	1935年	木口木版	180×240
103	トンボ	1936年	木口木版	210×275
104	蟻	1943年	リトグラフ	182×249
105	写像球体を持つ手(球面鏡の自画像)	1935年	リトグラフ／金色の紙	318×213
106	眼	1946年	メゾティント	152×202
107	統合体	1947年	リトグラフ	310×310
108	しずく	1948年	メゾティント	186×253
109	貝殻	1949年	メゾティント	163×114
110	扁形動物	1959年	リトグラフ	338×415
111	≪表皮≫のための習作	ca.1955年	チョーク、鉛筆	425×310
112	≪表皮≫のための版木	ca.1955年	版木	320×242
113	≪表皮≫のための版木(ライトグレーの雲の部分)	ca.1955年	版木	350×235
114	≪表皮≫のための版木 (ライトグレーに重なるダーク・グレーの雲の部分)	ca.1955年	版木	347×238
115	≪表皮≫のための版木(赤の部分)	ca.1955年	版木	324×200
116	表皮	1955年	多色刷り木口木版、木版	345×235

7　反射

番号	作品名	制作年	技法	寸法(mm)
117	鏡のある静物	1934年	リトグラフ	394×287
118	球面鏡のある静物	1934年	リトグラフ	286×326
119	三つの球体Ⅱ	1946年	リトグラフ	262×465
120	波紋	1950年	多色刷りリノカット	260×320
121	写像球体の自画像	1950年	木口木版	ϕ 82
122	水たまり	1952年	多色刷り木版	240×319
123	三つの世界	1955年	リトグラフ	362×247

8　錯視

番号	作品名	制作年	技法	寸法(mm)
124	人型による平面の正則分割	1920/1921年	多色刷りリトグラフ	432×318
125	トカゲモティーフの平面正則分割	1941年	木版	124×154
126	爬虫類	1943年	リトグラフ	334×385
127	発展Ⅰ	1937年	木版	437×446
128	発展Ⅱ	1939年	多色刷り木版	455×455
129	言葉(地球、空、水)	1942年	リトグラフ	332×386

130	魚	1941年	多色刷り木版	507×381
131	空と水I	1938年	木版	435×439
132	空と水II	1938年	木版	618×404
133	昼と夜	1938年	多色刷り木版	391×682
134	メタモルフォーゼI	1937年	木版、チョーク（手彩色）	195×908
135	循環	1938年	リトグラフ	475×279
136	マジック・ミラー	1946年	リトグラフ	280×445
137	太陽と月	1948年	多色刷り木版	251×270
138	平面充填I	1951年	メゾティント	151×202
139	解放	1955年	リトグラフ	434×199
140	分割	1956年	木版	φ 375
141	でんぐりでんぐり	1951年	リトグラフ（見本刷り）	174×232
142	階段の家	1951年	リトグラフ	473×240
143	描く手	1948年	リトグラフ	288×332
144	上と下	1947年	リトグラフ	503×205
145	相対性	1953年	リトグラフ	280×293
146	凹凸	1955年	リトグラフ	280×337
147	ベルヴェデーレ（物見の塔）	1958年	リトグラフ	462×295
148	立方体をもつ男	1958年	木口木版	65×65
149	上昇と下降	1960年	リトグラフ	355×285
150	滝	1961年	リトグラフ	380×300
151	魚で覆われた球体	1972年	鋳造／ポリエステル、樹脂	φ 130
152	メタモルフォーゼII	1939–40年	木版	192×3875

エッシャー作品の受容

番号	作品名	制作年	技法	寸法（mm）
1	ナイトミュージアム　エジプト王の秘密	2014年	編集映像	
※以下参考出品（全て個人蔵）				
2	『週刊少年マガジン』1968年9月22日号、講談社	1968年	印刷	257×180
3	『週刊少年マガジン』1968年10月27日号、講談社	1968年	印刷	257×180
4	『週刊少年マガジン』1970年2月8日号、講談社	1970年	印刷	257×180
5	『週刊少年マガジン』1970年2月15日号、講談社	1970年	印刷	257×180
6	モット・ザ・フープル「モット・ザ・フープル」	1969年	印刷（レコードジャケット）	320×320
7	ザ・ヤングブラッズ「トゥー・トリップス」	1970年	印刷（レコードジャケット）	320×320
8	マンドレイク・メモリアル「パズル」	1970年（復刻）	印刷（レコードジャケット）	320×320

デジタルフュージョン

番号	作品名	制作年	技法	寸法（mm）
1	デジタルフュージョン	2018年	体験型動画コンテンツ	

魔法の美術館
光と遊ぼう！
マジカル・ワンダーランド

会　　期： 令和元年６月15日（土）－　８月25日（日）（65日間）
主　　催： 愛媛県美術館
後　　援： 愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県教育研究協議会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県小中学校長会、愛媛県ＰＴＡ連合会、愛媛県国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連合会、愛媛県国公立幼稚園・こども園教育研究協議会、愛媛県私立幼稚園協会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、（一社）愛媛県観光物産協会、愛媛県公民館連合会、（公財）愛媛県老人クラブ連合会、愛媛県連合婦人会、（公財）松山観光コンベンション協会、愛媛県商工会議所連合会、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞社、毎日新聞松山支局、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛ＣＡＴＶ、ＦＭ愛媛
協　　賛： 株式会社かどや、株式会社新来島どっく
企画協力： ステップ・イースト
会　　場： 愛媛県美術館　常設展示室１・２

趣　　旨

本展は、全国各地で開催されている話題の体験型アート展として四国では初めて開催したものである。国内外で活躍する注目のアーティストたちの豊かな発想力によって仕掛けられるイリュージョン。来館者の動きに合わせて、光や影・映像・音などが多彩に変化し、一歩足を踏み入れると新感覚の不思議な空間が広がり、子どもから大人まで、見て、触れて、参加するたびに、まさに誰もが胸を躍らせる「魔法の世界」を楽しめる内容となった。

本展は、当館では初めて本格的に開催したデジタルアートを中心とした参加体験型の展覧会となり、夏休み期間と重なったことから、家族層を中心に来場があった。

観覧者数：31,731名

関連行事

土曜講座「不思議空間！万華鏡を作ろう！」
日　　時：６月22日（土）、８月10日（土）　各14：00～15：00
講　　師：二宮茂樹（当館普及G担当係長）
場　　所：美術館　南館アトリエ２
参加人数：延66名

土曜講座「魔法の光！まんまるランプをつくろう」
日　　時：８月24日（土）　14：00～15：00
講　　師：高木　学（当館教育専門員）
場　　所：美術館　南館アトリエ２
参加人数：21名

一日講座「ピンホールシネマで不思議体験！」
※詳細は教育普及事業報告を参照。

ワークショップ「マジカルうちわ」
日　　時：８月３日（土）、10日（土）　10：30～12：00
講　　師：当館普及G学芸員等
場　　所：美術館　エントランスホール
参加人数：延128名

ミュージアム・コンサート

日　　時：６月16日（日）　14：00～15：00
出　　演：垣生悠比子（ピアノ）
日　　時：７月14日（日）　10：30～11：30／13：30～14：30
出　　演：岡部江美（フルート）、森田隆宏（ピアノ）、道方文恵（ソプラノ）、
　　愛媛県立松山中央高等学校コーラス部
日　　時：８月１日（木）　14：00～15：00
出　　演：前谷雅貴（箏）
日　　時：８月18日（日）　11：00～12：00
出　　演：垣生悠比子（ピアノ）
日　　時：８月22日（木）　11：00～12：00
出　　演：愛媛大学教育学部附属小学校コーラス部
場　　所：美術館　エントランスホール
参加人数：延1,320名

魔法のおはなし会（絵本専門士による読み聞かせ）

日　　時：７月27日（土）、28日（日）、８月４日（日）、11日（日）
　　各11：30～12：00／14：30～15：00
　　８月３日（土）、10日（土）、17日（土）、18日（日）
　　各11：30～12：00
主　　催：松山堂書店
場　　所：美術館　エントランスホール
参加人数：延367名

出品目録

No.	作家名	作品名	協力者等	制作年	技法	寸法(cm)
1	坪倉輝明	七色小道		2013年	インタラクティブアート	幅320×奥行500
2	田中陽	timewall		2018年	インタラクティブアート	幅540×奥行530×高3000
3	重田佑介	がそのもり	Sound: okamotonoriaki	2011年	メディアインスタレーション	幅520×奥行370
4	本多大和	カオゴッコ		2019年	インタラクティブアート	幅600×奥行400×高300
5	徳井太郎 / 清水雄大	Shadow+		2016年	インタラクティブアート	幅450×奥行520×高300
6	重田佑介	アニメの公園	音楽:中村葉月 技術支援:的場真唯	2019年	インタラクティブアート	幅150×奥行150×高450
7	小松宏誠	his philosophy		2012年	インスタレーション	幅620×奥行1200(4作品)
8	小松宏誠	Secret Garden		2011年	インスタレーション	
9	小松宏誠	Lifelog_モビール		2013年	インスタレーション	
10	小松宏誠	Lifelog_シャンデリア		2013年	インスタレーション	
11	本多大和 / 下田芳彦	toatope		2018年	インタラクティブアート	幅180×奥行180×高45
12	藤本直明	Immersive Shadow	Sound: David Shimamoto	2012–2019年	インタラクティブアート	幅500×奥行500×高300
13	坪倉輝明	つくもがみ		2015年	インタラクティブアート	幅610×奥行550×高300
14	藤本直明	衝突と散乱		2016年	インタラクティブアート	幅500×奥行370
15	本多大和	kotonoha		2018年	インタラクティブアート	幅525×奥行550×高300
16	スイッチ	なげる、あてる、ひろがる	協力:名古屋造形大学メディアデザインコース	2014年	インタラクティブアート	幅500×奥行800×高300
17	坪倉輝明	空想ジオラマ		2017年	インタラクティブアート	幅270×奥行150×高45

国立トレチャコフ美術館所蔵 ロマンティック・ロシア

会　　期： 令和元年９月７日（土）－　11 月４日（月）（51 日間）
主　　催： ロマンティック・ロシア展愛媛展実行委員会（愛媛県、愛媛新聞社、南海放送）
特別協賛： 三浦工業株式会社
協　　賛： 株式会社愛媛銀行、仙味エキス株式会社
後　　援： ロシア連邦大使館、ロシア連邦交流庁（Rossotrudnichestvo）、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県ＰＴＡ連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、NHK 松山放送局、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛 CATV、FM 愛媛
協　　力： 日本航空
特別協力： 愛媛ロシア友好協会
企画協力： アートインプレッション
会　　場： 愛媛県美術館　企画展示室１・２

趣　　旨

ロシア連邦モスクワに位置する国立トレチャコフ美術館のコレクションより、帝政が破綻に向かい革命を迎える激動のロシアで19世紀後半から20世紀初頭に活躍した、クラムスコイやシーシキン、レヴィタン、レーピンなどの作品72点を、「ロマンティックな風景」「ロシアの人々」「子供の世界」「都市と生活」の４章に分けて紹介した。

観覧者数：20,523名

関連行事

団体のための講座

・第１回
日　　時：９月７日（土）　10：00～10：20
場　　所：愛媛県美術館　ハイビジョンギャラリー
対　　象：マルコボ．コム吟行会参加者
講　　師：武田信孝（当館専門学芸員）
参加人数：８名

・第２回
日　　時：９月12日（木）　10：20～10：50
場　　所：愛媛県美術館　ハイビジョンギャラリー
対　　象：持田若宮クラブ会員
講　　師：武田信孝（当館専門学芸員）
参加人数：14名

・第３回
日　　時：10月16日（水）　15：40～16：10
場　　所：愛媛県美術館　研修室
対　　象：NHK文化センター広島教室「美術館・博物館めぐりB」参加者
講　　師：杉山はるか（当館専門学芸員）
参加人数：24名

・第４回
日　　時：10月27日（日）　10：00～10：25
場　　所：愛媛県美術館　ハイビジョンギャラリー
対　　象：東雲高齢クラブ連合会会員
講　　師：武田信孝（当館専門学芸員）
参加人数：６名

連続講座「粘土でオリジナルマトリョーシカをつくろう!」
日　　時：９月８日（日）、22日（日）　各日13：30～15：30
場　　所：愛媛県美術館　県民アトリエ２
講　　師：高木学（当館教育専門員）
参加人数：延30名　※保護者等見学者：延27名

ミュージアムコンサート～ロマンティック・ロシアの名画に寄せて～
・第１回
日　　時：９月８日（日）　11：00～
場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール
出　　演：前谷雅貴（箏）
参加人数：延220名

・第２回
日　　時：９月15日（日）　13：00～
場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール
出　　演：笹田芽衣（ピアノ）
参加人数：延180名

・第３回
日　　時：９月29日（日）　14：00～
場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール
出　　演：垣生悠比子（ピアノ）
参加人数：250名

・第４回
日　　時：10月５日（土）　11：00～、14：00～
場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール
出　　演：池田慈（ピアノ）
参加人数：延500名

・第５回
日　　時：11月３日（日）　13：00～
場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール
出　　演：岡部江美（フルート）、森田隆宏（ピアノ）
賛助出演：松山大学シンフォニック・ウィンズ
参加人数：160名

記念講演会「ロシアの生活と文化」
日　　時：９月14日（土）　14：00～15：45（講演14：00～15：30、質疑応答15：30～15：45）
場　　所：愛媛県美術館　講堂
講　　師：藻利佳彦（東京ロシア語学院学院長、松山短期大学非常勤講師）
参加人数：85人

マンデー・ショート・レクチャー「ロシアの四季」

日　　時：９月16日（月）、23日（月）、10月14日（月）、11月４日（月）
各日
10：30～10：50、13：00～13：20、13：30～13：50、14：00～14：20、
14：30～14：50、15：00～15：20
10月７日（月）
10：30～10：50、13：00～13：20、13：30～13：50、15：00～15：20
場　　所：愛媛県美術館　ハイビジョンギャラリー
講　　師：武田信孝（当館専門学芸員）　※９月16日、23日、11月４日
杉山はるか（当館専門学芸員）　※10月７日、14日
参加人数：延154人

絵本専門士によるおはなし会「おとなもこどももロシアのおはなしを楽しもう!」

日　　時：９月22日（日）　11：00～、14：00～、10月６日（日）　14：00～、
11月３日（日）　11：00～
場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール
講　　師：管弥和乃（絵本専門士）　※９月22日、10月６日
田中智子（絵本専門士）　※９月22日第２回、10月６日
渡部　愛（絵本専門士）　※11月３日
阪東　展（絵本専門士）　※11月３日
参加人数：延101名

対話型鑑賞プログラム「旅するロシア展」

日　　時：10月６日（日）、13日（日）、20日（日）、22日（火）、27日（日）
各日11：00～11：30
場　　所：愛媛県美術館
講　　師：当館作品ガイドボランティア
参加人数：延94名

土曜講座
「ロシア近代絵画の巨匠クラムスコイの魅力にせまる」

日　　時：10月26日（土）14：00～15：05
場　　所：愛媛県美術館　講堂
講　　師：武田信孝（当館専門学芸員）
参加人数：94名

その他
チケット割引サービス

協力店舗：うちだパン、東京第一ホテル松山カフェレストラン「ルミエール」、道後温泉ふなや レストラン「葵苔」、道後山の手ホテル、ホテルマイステイズ松山 瀬戸内バル ラ・テラッツァ、レストランワクセイ

勝山中生徒による
ロシア兵墓地清掃に関するパネル展示

場　　所：愛媛県美術館　エントランスホール

「忘れえぬひと」へのメッセージ募集

応募作品の展示場所：愛媛県美術館
エントランスホール

第1章　ロマンティックな風景

1-1　春

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
アレクセイ・コンドラーチエヴィチ・サヴラーソフ	田園風景	1867年	油彩・キャンヴァス	64×100
ワシーリー・ワシーリエヴィチ・ヴェレシャーギン	アラタウ山にて	1869–1870年	油彩・キャンヴァス	36.3×27
イリヤ・セミョーノヴィチ・オストロウーホフ	芽吹き	1887年	油彩・キャンヴァス	71×105
アブラム・エフィーモヴィチ・アルヒーポフ	帰り道	1896年	油彩・キャンヴァス	35×69
イサーク・イリイチ・レヴィタン	春、大水	1897年	油彩・キャンヴァス	65×57.5
イサーク・イリイチ・レヴィタン	樫の木	1880年	油彩・キャンヴァス	57.5×57.6
イサーク・イリイチ・レヴィタン	森の小花と忘れな草	1889年	油彩・キャンヴァス	49×35

1-2　夏

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
イワン・コンスタンチーノヴィチ・アイヴァゾフスキー	嵐の海	1868年	油彩・キャンヴァス	54.2×65
イワン・コンスタンチーノヴィチ・アイヴァゾフスキー	海岸、別れ	1868年	油彩・キャンヴァス	56.5×75
ニコライ・ニカノーロヴィチ・ドゥボフスコイ	静寂	1890年	油彩・キャンヴァス	87.5×145.5
レフ・リヴォーヴィチ・カーメネフ	サヴィノ・ストロジェフスキー修道院	1880年代	油彩・キャンヴァス	49×84.5
コンスタンチン・ヤーコヴレヴィチ・クルイジツキー	月明かりの僧房	1898年	油彩・キャンヴァス	106×69.5
アルカージー・アレクサンドロヴィチ・ルイローフ	静かな湖	1908年	油彩・キャンヴァス	143.3×104.5
イワン・イワーノヴィチ・シーシキン	森の散歩	1869年	油彩・キャンヴァス	34.3×43.3
イワン・イワーノヴィチ・シーシキン	雨の樫林	1891年	油彩・キャンヴァス	124×203
イワン・イワーノヴィチ・シーシキン	樫の木、夕方	1887年	油彩・厚紙に裏打ちされたキャンヴァス	44.5×63.5
イワン・イワーノヴィチ・シーシキン	松林の朝	1889年	油彩・キャンヴァス	28.3×40.1
イワン・イワーノヴィチ・シーシキン	正午、モスクワ郊外	1869年	油彩・キャンヴァス	111.2×80.4
アポリナリー・ミハイロヴィチ・ワスネツォフ	祖国	1886年	油彩・キャンヴァス	49.2×72
ワシーリー・グリゴーリエヴィチ・ペローフ	植物学者	1874年	油彩・キャンヴァス	65.5×79
ボリス・ミハイロヴィチ・クストージエフ	干し草作り	1917年	油彩・キャンヴァス	70.5×67.8
ミハイル・ニコラエヴィチ・ヤーコヴレフ	花のある静物	1909年	油彩・キャンヴァス	69×78

1-3　秋

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
イワン・ニコラエヴィチ・クラムスコイ	花瓶のフロックス	1884年	油彩・キャンヴァス	64×56.2
エフィーム・エフィーモヴィチ・ヴォルコフ	10月	1883年	油彩・キャンヴァス	38.2×55
セルゲイ・アルセーニエヴィチ・ヴィノグラードフ	秋の荘園で	1907年	油彩・キャンヴァス	63×80.7
コンスタンチン・フョードロヴィチ・ユオン	粉引き場、10月	1913年	油彩・キャンヴァス	58.2×80.2
グリゴーリー・グリゴーリエヴィチ・ミャソエードフ	秋の朝	1893年	油彩・キャンヴァス	91×72
イワン・シルイチ・ゴリュシュキン＝ソロコプドフ	落葉	1900年代	テンペラ・キャンヴァス	63×47

1-4　冬

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
ミハイル・マルキアーノヴィチ・ゲルマーシェフ	雪が降った	1897年	油彩・キャンヴァス	91×127
アレクセイ・コンドラーチエヴィチ・サヴラーソフ	霜の降りた森	1880年代末から1890年代前半	油彩・キャンヴァス	107.5×80
ワシーリー・ニコラエヴィチ・バクシェーエフ	樹氷	1900年	油彩・キャンヴァス	67×89.5
ニコライ・セミョーノヴィチ・サモーキシュ	トロイカ	1917年頃	油彩・キャンヴァス	64×111
ヴィクトル・ミハイロヴィチ・ワスネツォフ	雪娘	1899年	油彩・キャンヴァス	117×81.3

第2章　ロシアの人々

2-1　ロシアの魂

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
イリヤ・エフィーモヴィチ・レーピン	画家イワン・クラムスコイの肖像	1882年	油彩・キャンヴァス	96.5×75
イリヤ・エフィーモヴィチ・レーピン	ピアニスト・指揮者・作曲家アントン・ルビンシュテインの肖像	1881年	油彩・キャンヴァス	80×62.3
ウラジーミル・エゴーロヴィチ・マコフスキー	自画像	1905年	油彩・厚紙	34.3×38.6
コンスタンチン・アレクセーエヴィチ・コローヴィン	フョードル・シャリャーピンの肖像	1905年	油彩・キャンヴァス	65×46.1

2-2　女性たち

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
イワン・クズミーチ・マカーロフ	アレクサンドラ・チェリーシェワ、旧姓ヴェリーギナの肖像	1865年	油彩・キャンヴァス	89.3×71.2
イワン・ニコラエヴィチ・クラムスコイ	月明かりの夜	1880年	油彩・キャンヴァス	178.8×135.2
イワン・ニコラエヴィチ・クラムスコイ	忘れえぬ女	1883年	油彩・キャンヴァス	76.1×102.3
ヴィクトル・ミハイロヴィチ・ワスネツォフ	タチヤーナ・マーモントワの肖像	1884年	油彩・キャンヴァス	72.8×59
ミハイル・ワシーリエヴィチ・ネーステロフ	刺繍をするエカテリーナ・ネーステロワの肖像	1909年	油彩・厚紙に裏打ちされたキャンヴァス	43.2×60.5
ワシーリー・イワーノヴィチ・スリコフ	ガリーナ・ドブリンスカヤの肖像	1911年	油彩・厚紙に裏打ちされたキャンヴァス	39.5×30.5
フィリップ・アンドレーエヴィチ・マリャーヴィン	本を手に	1895年	油彩・キャンヴァス	108×72.5
パーヴェル・ペトローヴィチ・チスチャコーフ	ヘアバンドをした少女の頭部	1874年	油彩・キャンヴァス	58.5×44
ニコライ・アレクセーエヴィチ・カサートキン	柵によりかかる少女	1893年	油彩・キャンヴァス	98×49.5

第3章　子供の世界

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
ウラジーミル・エゴーロヴィチ・マコフスキー	小骨遊び	1870年	油彩・キャンヴァス	54×72
アレクセイ・ステパーノヴィチ・ステパーノフ	鶴が飛んでいく	1891年	油彩・キャンヴァス	62.8×112
イラリオン・ミハイロヴィチ・プリャニシニコフ	釣りをする子供たち	1882年	油彩・板	31.3×40.7
オリガ・アントーノヴナ・ラゴダ＝シーシキナ	草叢の少女	1880年	油彩・キャンヴァス	57.5×39.8
アントニーナ・レオナルドヴナ・ルジェフスカヤ	楽しいひととき	1897年	油彩・キャンヴァス	84.5×64.7
アレクサンドル・ヴィークトロヴィチ・モラヴォフ	おもちゃ	1914年	油彩・キャンヴァス	110×139
セルゲイ・アルセーニエヴィチ・ヴィノグラードフ	家で	1913年	油彩・厚紙	82×60
グリゴーリー・セミョーノヴィチ・セドーフ	フェオドシア・オゴロードニコワの肖像	1856年	油彩・キャンヴァス	66.3×57
ワシーリー・イワーノヴィチ・コマロフ	ワーリャ・ホダセーヴィチの肖像	1900年	油彩・キャンヴァス	71.5×142.5
アレクサンドル・アレクセーエヴィチ・キセリョフ	本に夢中	1897年	油彩・キャンヴァス	63.3×47.5
オリガ・リュドヴィゴヴナ・デラ＝ヴォス＝カルドフスカヤ	少女と矢車菊	1908年	油彩・キャンヴァス	100×78

第4章　都市と生活

4-1　都市の風景

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
セルゲイ・イワーノヴィチ・スヴェトスラーフスキー	モスクワ美術学校の窓から	1878年	油彩・キャンヴァス	52.6×73.3
ニコライ・ニコラエヴィチ・グリツェンコ	イワン大帝の鐘楼からのモスクワの眺望	1896年	油彩・キャンヴァス	72×54
アレクセイ・コンドラーチエヴィチ・サヴラーソフ	領主の館のあるモスクワ近郊の風景	1850年	油彩・キャンヴァス	47.5×64.4
アレクセイ・ペトローヴィチ・ボゴリューボフ	ボリシャヤ・オフタからのスモーリヌイ修道院の眺望	1851年（?）	油彩・キャンヴァス	116.5×165
ピョートル・ペトローヴィチ・ヴェレシャーギン	プスコフ	1876年	油彩・キャンヴァス	38.7×73.8
アレクサンドル・カールロヴィチ・ベーグロフ	アレクサンドリア号上での皇帝ニコライ2世とフランス大統領エミール・ルーベ、1902年　5月7日の会談	1902年	油彩・キャンヴァス	92.5×132.5

4-2　日常と祝祭

作家名	作品名	制作年	技法・素材	寸法（cm）
コンスタンチン・アレクセーエヴィチ・コローヴィン	小舟にて	1888年	油彩・キャンヴァス	53.5×42.5
ワシーリー・マクシーモヴィチ・マクシーモフ	嫁入り道具の仕立て	1866年	油彩・キャンヴァス	65.7×79.5
イラリオン・ミハイロヴィチ・プリャニシニコフ	悲痛なロマンス	1881年	油彩・キャンヴァス	40×31.5
ウラジーミル・エゴーロヴィチ・マコフスキー	大通りにて	1886–1887年	油彩・キャンヴァス	54.2×69
ウラジーミル・エゴーロヴィチ・マコフスキー	ジャム作り	1876年	油彩・キャンヴァス	33.9×49.5
ニコライ・セルゲエヴィチ・トレチャコフ	ダーチャでの朝	1888年	油彩・板	32×40
グリゴーリー・セミョーノヴィチ・セドーフ	民族衣装を着たクルスクの町娘	1871年	油彩・キャンヴァス	108.3×68.5
ニコライ・ドミートリエヴィチ・クズネツォフ	祝日	1879年	油彩・キャンヴァス	55.3×98
ニコライ・アレクサンドロヴィチ・タールホフ	朝食	1906年	油彩・キャンヴァス	73.5×92.3

高野山金剛峯寺
襖絵完成記念「千住博展」
－日本の美を極め、世界の美を拓く－

会　　期： 令和元年 11 月 16 日（土）－　令和２年１月 19 日（日）(54 日間)
主　　催： 千住博展実行委員会（愛媛県、あいテレビ）
特別協力： 高野山金剛峯寺、軽井沢千住博美術館
制作協力： ＮＨＫプロモーション
協　　力： アート・コンサルティング・ファーム
特別協賛： 三浦工業、三福グループ
協　　賛： 愛媛銀行、レクサス松山城北、松山三越
後　　援： （一社）四国八十八ヶ所霊場会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、愛媛県小中学校長会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、愛媛県文化協会、（公財）愛媛県文化振興財団、（公財）松山観光コンベンション協会、連合愛媛、伊予鉄グループ、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞社、南海放送、テレビ愛媛、愛媛朝日テレビ、愛媛 CATV、FM 愛媛、えひめリビング新聞社
会　　場： 愛媛県美術館　企画展示室１・２

趣　　旨

世界的に活躍する日本画家・千住博氏が制作した、高野山金剛峯寺に奉納する襖絵の完成を記念し開催する展覧会。総延長17メートルの「断崖図」、25メートルの「瀧図」の襖絵をはじめ、千住氏の代表作である「ウォーターホール」など、画業40余年にわたり日本画の新しい可能性に挑み続ける千住氏の世界観を広く紹介した。

観覧者数：28,948名

関連行事

千住博氏トークショー
日　　時：11月１6日（土）　14：00～15：00
講　　師：千住博
場　　所：愛媛県美術館　企画展示室
参加人数：240名

一日講座「白で描こう」
日　　時：11月24日（日）、12月１日（日）
講　　師：石﨑三佳子（当館専門学芸員）
場　　所：愛媛県美術館　アトリエ
参加人数：15名

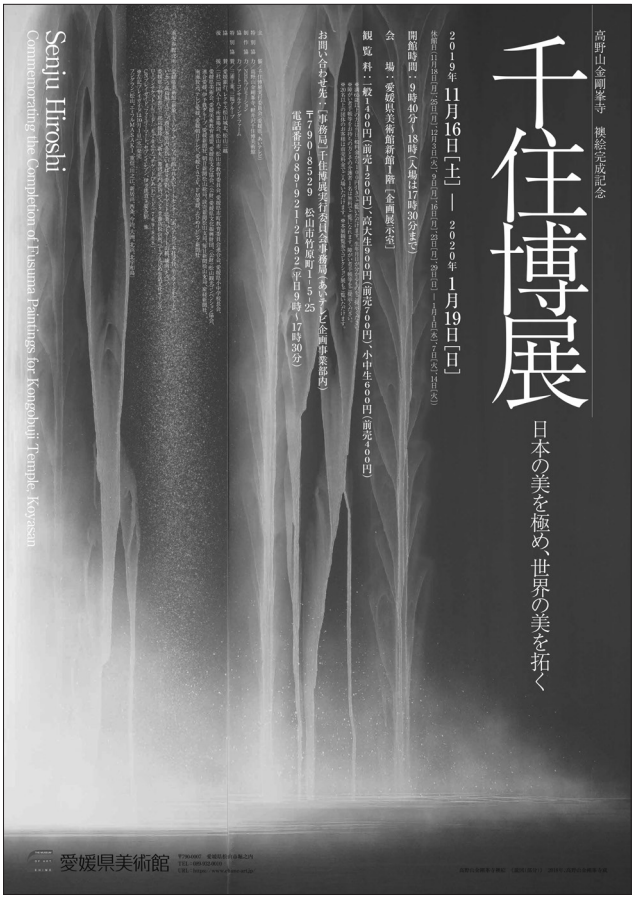
土曜講座「フロアレクチャー」
日　　時：11月30日（土）、１月18日（土）　14：00～15：00
講　　師：五味俊晶（当館学芸員）
場　　所：愛媛県美術館　企画展示室内
参加人数：延175名

対話型鑑賞プログラム

日　　時：12月１日（日）、12月８日（日）、12月15日（日）、12月22日（火）
講　　師：当館作品ガイドボランティア
場　　所：愛媛県美術館　企画展示室内
参加人数：95名
※詳細は教育普及事業報告を参照。

ミュージアムコンサート～日本の美を極め、世界の美を拓く～

12月８日：垣生悠比子
１月２日：前谷雅貴
１月３日：アンサンブル「パタティ・パタタ」
１月12日：愛媛県立松山中央高等学校吹奏楽部
１月13日：アンサンブル「パタティ・パタタ」
１月18日：eRika
場　　所：愛媛県美術館　エントランス
参加人数：延2,050名



出品目録

No	作品名	Title	制作年	技法・材質	Media	寸法(cm)	所蔵
1	遥か (青い鳥)	Afar	1980年	雲肌麻紙、天然岩絵の具	Natural pigments on Japanese mulberry paper	130.3×162.1	軽井沢千住博美術館
2	終着駅	Terminal	1985年	雲肌麻紙、天然岩絵の具	Natural pigments on Japanese mulberry paper	181.8×227.3	軽井沢千住博美術館
3	朝に向かって	In the Morning	1989年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、ゴールドアフレア	Natural pigments and gold mica on Japanese mulberry paper	130.3×193.9	軽井沢千住博美術館
4	朝	Morning	1994年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、ゴールドアフレア	Natural pigments and gold mica on Japanese mulberry paper	81.0×161.0	日本空港ビルデング株式会社
5	水	Water	1994年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、ゴールドアフレア	Natural pigments and gold mica on Japanese mulberry paper	81.0×141.0	日本空港ビルデング株式会社
6	宙	Lakeside	1994年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、ゴールドアフレア	Natural pigments and gold mica on Japanese mulberry paper	81.0×161.0	日本空港ビルデング株式会社
7	湖畔初秋図	Early Autumn at Lakeside	1993年	絹本、天然岩絵の具、金箔	Natural pigments and gold leaves on Japanese silk	174.0×703.2 (6曲1双)	軽井沢千住博美術館
8	湖畔に蜻蛉図	Dragonflies at Lakeside	1993年	絹本、天然岩絵の具、金箔	Natural pigments and gold leaves on Japanese silk	174.2×752.0 (6曲1双)	軽井沢千住博美術館
9	フラットウォーター#1	Flatwater#1	1993年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、胡粉	Natural pigments and gofun on Japanese mulberry paper	176.0×804.0	軽井沢千住博美術館
10	四季瀧図 (冬)	Waterfall Winter	1999年	雲肌麻紙、墨、胡粉	Sumi and gofun on Japanese mulberry paper	182.0×510.0	軽井沢千住博美術館
11	波の詩	Ballad of Waves	1998年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、金泥、ゴールドアフレア	Natural pigments, gold and gold mica on Japanese mulberry paper	112.0×291.0	軽井沢千住博美術館
12	朧月夜の瀧桜	The Cherry Blossom under the Hazy Moon	2016年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、金泥	Natural pigments and gold on Japanese mulberry paper	97.0×145.5	軽井沢千住博美術館
13	月響	Moon Echo	2006年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、金泥	Natural pigments and gold on Japanese mulberry paper	112.1×162.1	軽井沢千住博美術館
14	断崖図#2	Cliff#2	2012年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、アクリル絵の具	Natural and acrylic pigments on Japanese mulberry paper	227.3×181.8	軽井沢千住博美術館
15	断崖図#22	Cliff#22	2016年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、アクリル絵の具	Natural and acrylic pigments on Japanese mulberry paper	180.0×130.0	個人
16	フォーリングカラー(計8点)	Falling Color	2005年	鳥の子紙、アクリル絵の具	Acrylic pigments on Japanese mulberry paper	(各)90.9×90.9	軽井沢千住博美術館
17	龍神Ⅰ・Ⅱ	Ryujin Ⅰ・Ⅱ	2015年	鳥の子紙、アクリル絵の具、蛍光塗料	Acrylic and fluorescent pigments on Japanese mulberry paper	240.0×1140.0 (各6曲1双)	軽井沢千住博美術館
18	瀧図	Waterfall	2018年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、胡粉	Natural pigments and gofun on Japanese mulberry paper	185.5〜 367.0×2590.6	高野山金剛峯寺
19	断崖図	Cliff	2018年	雲肌麻紙、天然岩絵の具、プラチナ泥、胡粉	Natural pigments, platinum and gofun on Japanese mulberry paper	182.7×1676.6	高野山金剛峯寺

没後20年　畦地梅太郎
山のなか、本のなか

会　　期： 令和２年２月１日（土）－　３月29日（日）（50日間）
主　　催： 2019畦地梅太郎展実行委員会（愛媛県、南海放送）
後　　援： 愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、宇和島市、宇和島市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県ＰＴＡ連合会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟、（公財）松山観光コンベンション協会、愛媛県山岳･スポーツクライミング連盟、愛媛新聞社、朝日新聞松山総局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局、産経新聞松山支局、ＮＨＫ松山拠点放送局、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛ＣＡＴＶ、ＦＭ愛媛、えひめリビング新聞社
協　　賛： 大一ガス株式会社、双葉産業株式会社、有限会社安岡蒲鉾店、愛媛県書店商業組合
特別協力： あとりえ・う
協　　力： 畦地梅太郎記念美術館・井関邦三郎記念館、株式会社モンベル
助　　成： 公益財団法人 花王 芸術・科学財団
会　　場： 愛媛県美術館　企画展示室
趣　　旨

愛媛県北宇和郡二名村（現・宇和島市三間町）に生まれた畦地梅太郎（1902－1999）は、山の風景や生き物、代表作である山男など、様々な角度から「山」を表現し、「山の版画家」として広く知られる。本展では、愛媛県美術館での10年ぶりの回顧展として、初期から最晩年までの200点を超える版画作品を展示した。また、山岳文芸雑誌『アルプ』での活動をはじめ、書籍の装丁や蔵書票に表された、畦地の豊かな思考に触れることのできる「本の仕事」についても紹介した。自らの生涯を「とぼとぼ」と表現したように、地に足をつけて急くことなく画業を積み重ねた、その人と作品の魅力をあらためて生誕の地から伝えること大きな意図とした。

なお、新型コロナウイルスの影響により、予定していた関連行事の一部が開催中止・延期となった。

観覧者数：9,119名

関連行事

出前鑑賞ワークショップ：対話型鑑賞で畦地作品を楽しもう！
『びじゅつかんで「山登り」!?―美術館迷選八迷山』

日　　時：１月21日（火）、24日（金）、30日（木）、２月４日（火）、10日（月）、12日（水）、17日（月）、28日（金）、３月５日（木）、６日（金）
講　　師：鈴木有紀（当館専門学芸員）、当館作品ガイドボランティア
場　　所：鬼北町立好藤小学校、八幡浜市立松柏中学校、宇和島市立番城小学校、宇和島市立二名小学校、愛南町立久良小学校、八幡浜市立白浜小学校、西予市立三瓶小学校、八幡浜市立川之石小学校、伊方町立伊方中学校
参加人数：延437名

対話型鑑賞プログラム

日　　時：２月２日（日）、９日（日）、16日（日）、23日（日）　各11：00～11：30
ナビゲイター：当館作品ガイドボランティア
場　　所：美術館　企画展示室
参加人数：延59名

はんこづくり（ゴム版）

日　　時：２月８日（土）　14：00～15：00
講　　師：石﨑三佳子（当館専門学芸員）
場　　所：美術館　南館アトリエ２
参加人数：30名
※3月14日（土）は中止。

ギャラリートーク
日　　時：２月15日（土）　14：00～15：00
講　　師：喜安　嶺（愛媛県まなび推進課学芸員）
場　　所：美術館　企画展示室
参加人数：36名
※3月21日（土）は中止。

講演会「山男が知る山のセカイ」
日　　時：２月22日（土）　14：00～15：30
講　　師：山本貴仁（ＮＰＯ法人西条自然学校理事長）
場　　所：美術館　講堂・企画展示室
参加人数：52名

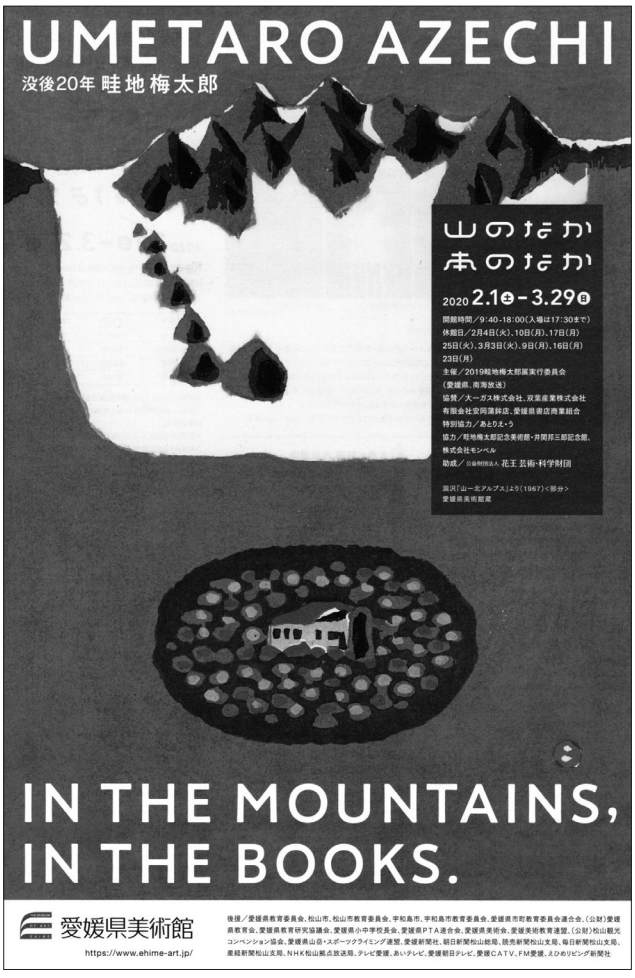
多色木版画　連続講座
日　　時：２月23日（日）　14：00～16：00
講　　師：むらこしなおこ（版画家）
場　　所：美術館　南館アトリエ１
参加人数：13名
※3月8日（日）開催分は、翌年度に延期して実施予定。

ミュージアム・コンサート
日　　時：２月23日（日）　14：00～15：00
出　　演：岡部江美（フルート）、安川倫子（ファゴット）、佐藤光博（クラリネット）
場　　所：美術館　エントランスホール
参加人数：250名
※３月１日（日）は中止。

※以下の事業は開催中止。
連続講座「畦地の山と、畦地の本」
日　　時：３月７日（土）、28日（土）
　　各14：00～
講　　師：喜安　嶺
　　（愛媛県まなび推進課学芸員）
場　　所：ハイビジョンギャラリー

たんけん・はっけん・畦地梅太郎展
日　　時：３月１日（日）、８日（日）、
　　15日（日）、22日（日）、
　　29日（日）　各11：00～
ナビゲイター：当館作品ガイドボランティア
場　　所：美術館　企画展示室

アゼチ×デザイン×ブック
日　　時：３月18日（水）　14：00～
講　　師：井上真季（井上デザイン事務所）、
　　越智政尚・千代（本の轍）
場　　所：the park M's coffee
　　（美術館カフェ）



出品目録

第1章　版に出会う

No.	作品名		制作年	技法	寸法（縦×横/cm）	所蔵先
1	自画像			油彩	29.0×21.5	個人蔵
2	工人		1925年（大正14）	鉛凸版	9.8×8.2	町田市立国際版画美術館
3	郊外の畑		1926年（大15/昭元）	鉛凸版	17.0×21.0	愛媛県美術館
4	風景		1926年（大15/昭元）	鉛凸版・手彩色	11.2×15.8	愛媛県美術館
5	畑の中の家		1926年（大15/昭元）	鉛凸版	21.6×29.4	愛媛県美術館
6	九段坂上の燈明台		1926年（大15/昭元）	鉛凸版	22.5×27.0	愛媛県美術館
7	焦土の跡（関東大震災）		1926年（大15/昭元）頃	鉛凸版	15.4×22.6	愛媛県美術館
8	気象台近く		1920年代後半	木版一版	22.8×30.5	愛媛県美術館
9	病院裏の林		1927年（昭和2）	木版多色	20.5×26.9	愛媛県美術館
10	芝公園		1927年（昭和2）	木版多色	21.0×26.2	町田市立国際版画美術館
11	丸の内（九段に近く）		1928年（昭和3）頃	木版一版	16.0×18.0	愛媛県美術館
12	郊外の道		1928年（昭和3）	鉛凸版	15.4×22.3	愛媛県美術館
13	切り通しの道		1928年（昭和3）	木版一版	24.5×29.0	愛媛県美術館
14	家のある風景		1928年（昭和3）頃	鉛凸版	15.0×19.0	愛媛県美術館
15-1	緑蔭下の仔馬	『豊島園絵葉書』より	1929年（昭和4）	木版多色	9.0×14.2	愛媛県美術館
15-2	秋の草花と音楽堂	『豊島園絵葉書』より	1929年（昭和4）	木版多色	9.0×14.2	愛媛県美術館
16	都会風景（洋館のある風景）		1929年（昭和4）頃	木版多色	30.0×38.5	愛媛県美術館
17	橋のある風景		1929年（昭和4）	木版多色	36.0×42.5	愛媛県美術館
18	都会風景		1930年（昭和5）頃	木版多色	30.0×36.5	愛媛県美術館
19(1)	小名木川附近		1930年（昭和5）	木版多色	37.5×43.0	愛媛県美術館
19(2)	小名木川附近		1930年（昭和5）	木版多色	35.7×40.5	個人蔵
20	レモン		1930年（昭和5）	木版多色	8.0×17.8	町田市立国際版画美術館
21	顔		1930年（昭和5）頃	木版一版	16.0×12.0	愛媛県美術館
22	『版』1	刀画房（前田政雄）刊	1927年（昭和2）	冊子	29.5×20.8	愛媛県美術館
23	『版』4	刀画房（前田政雄）刊	1928年（昭和3）	冊子	28.0×20.5	愛媛県美術館
24	『版』7	刀画房（前田政雄）刊	1928年（昭和3）	冊子	28.5×20.0	愛媛県美術館
25	早春夜　『版』3所収	刀画房（前田政雄）刊	1928年（昭和3）	木版多色	11.4×15.5	愛媛県美術館
26	静かなる通り　『HANGA』第14集所収	神戸版画の家刊	1928年（昭和3）	鉛凸版	13.2×17.2	愛媛県美術館
	『HANGA』第14集	神戸版画の家刊	1928年（昭和3）			愛媛県美術館
	藤森静雄《飯塚風景》			木版一版		愛媛県美術館
	前川千帆《紫丸甲板》			木版一版		愛媛県美術館
27	めざし　『HANGA』第15集所収	神戸版画の家刊	1930年（昭和5）	木版多色	24.5×29.0	愛媛県美術館
28	都会風景『きつつき』第1号所収	創作版画倶楽部刊	1930年（昭和5）	木版多色	11.7×16.5	愛媛県美術館
29	尾張町の一角　『きつつき』第2号所収	創作版画倶楽部刊	1930年（昭和5）	木版多色	17.2×13.3	愛媛県美術館
30	『集合』誌カット		1930年（昭和5）頃	木版一版	9.0×8.5	愛媛県美術館
31	『集合』誌カット		1930年（昭和5）頃	木版一版	12.0×6.0	愛媛県美術館
32	人　『版芸術』第3号所収	白と黒社刊	1932年（昭和7）	木版多色	11.9×17.2	愛媛県美術館
33	二人　『版芸術』特集「手摺号」所収	白と黒社刊	1932年（昭和7）	木版一版	16.0×13.1	愛媛県美術館
34	争議		1928年（昭和3）頃	木版多色	18.0×14.5	愛媛県美術館

第2章　伊予にはじまった

No.	作品名		制作年	技法	寸法（縦×横/cm）	所蔵先
35	母の像		1928年（昭和3）頃	木版一版	10.0×9.0	愛媛県美術館
36	郷里風景			木版多色	12.8×19.0	愛媛県美術館
37	宇和島風景		1928年（昭和3）頃	木版一版	15.5×23.0	愛媛県美術館
38	宇和島風景		1930年（昭和5）頃	木版多色	15.0×18.3	町田市立国際版画美術館
39	九島遠望		1935年（昭和10）頃	木版多色	12.5×16.5	愛媛県美術館
40	伊予風景・海		1936年（昭和11）	木版多色	27.0×35.5	町田市立国際版画美術館
41-1	鶴島城（宇和島城）	『伊予風景』より	1936年（昭和11）頃	木版多色	26.5×36.0	愛媛県美術館
41-2	九島山遠望（九島山風景）	『伊予風景』より	1936年（昭和11）頃	木版多色	27.5×36.0	愛媛県美術館
41-3	法華津峠展望	『伊予風景』より	1936年（昭和11）	木版多色	27.5×36.0	愛媛県美術館
41-4	八幡浜栗之浦	『伊予風景』より	1936年（昭和11）	木版多色	27.5×36.0	愛媛県美術館
41-5	八幡浜ノ海（八幡浜港）	『伊予風景』より	1936年（昭和11）頃	木版多色	27.5×36.0	愛媛県美術館

41-6	大洲臥龍	『伊予風景』より	1936年(昭和11)	木版多色	27.0×37.0	愛媛県美術館
41-7	高浜四十島	『伊予風景』より	1936年(昭和11)頃	木版多色	27.5×36.5	愛媛県美術館
41-8	勝山城乾門（松山）	『伊予風景』より	1936年(昭和11)	木版多色	27.0×36.0	愛媛県美術館
41-9	面河渓虎ヶ淵(面河渓)	『伊予風景』より	1936年(昭和11)頃	木版多色	27.5×36.0	愛媛県美術館
41-10	石鎚霊峰(石鎚山)	『伊予風景』より	1936年(昭和11)頃	木版多色	27.5×36.0	愛媛県美術館
42	宇和島城遠望		1936年(昭和11)	木版多色	26.5×35.2	愛媛県美術館
43	伊予の霊峰		1938年(昭和13)	木版多色	33.0×45.0	愛媛県美術館
44	伊予石鎚山	『新日本百景』より	1938年(昭和13)	木版多色	22.7×30.2	愛媛県美術館
45	伊予観自在寺		1937年(昭和12)	木版多色	22.5×29.4	愛媛県美術館
46-1	篠山	『御荘風景』より	1939年(昭和14)	木版多色	24.0×32.6	愛媛県美術館
46-2	観自在寺	『御荘風景』より	1939年(昭和14)	木版多色	24.0×33.0	愛媛県美術館
46-3	鹿島	『御荘風景』より	1939年(昭和14)	木版多色	24.1×32.7	愛媛県美術館
47	造船所(御荘)		1945年(昭和20)頃	木版多色	10.0×11.7	愛媛県美術館
48	滞船（御荘の長崎船）		1946年(昭和21)	木版多色	40.7×52.7	愛媛県美術館
48-I	滞船（御荘の長崎船）	〔下絵〕	1946年(昭和21)頃	水彩他		個人蔵
49-1	桟橋（桟ばし）	『八幡浜風景』より	1938年(昭和13)	木版多色	14.9×22.3	愛媛県美術館
49-2	新町（大通）	『八幡浜風景』より	1938年(昭和13)	木版多色	15.0×23.0	愛媛県美術館
49-3	工場（港）	『八幡浜風景』より	1938年(昭和13)	木版多色	15.3×22.8	愛媛県美術館
49-4	市役所（役所）	『八幡浜風景』より	1938年(昭和13)	木版多色	15.0×22.5	愛媛県美術館
50	八幡浜劇場		1946年(昭和21)	木版多色	32.0×45.0	愛媛県美術館
51	劇場風景		1946年(昭和21)	木版多色	24.0×18.0	畦地梅太郎記念美術館
51-I	劇場風景	〔下絵〕	1946年(昭和21)頃	クレヨン他		個人蔵
52	尾上悟楼庵氏像		1947年(昭和22)	木版多色	21.4×14.6	愛媛県美術館
	尾上悟楼庵氏像	〔版木〕	1947年(昭和22)頃			個人蔵
53	道後の湯		1945年(昭和20)	木版多色	30.0×42.0	愛媛県美術館
54	伊予の闘牛	『日本民族図譜』より	1945年(昭和20)	木版多色	18.0×24.0	愛媛県美術館
55	大野ヶ原		1940年(昭和15)	木版多色	30.4×41.4	愛媛県美術館
56	大野ヶ原遠望(イヨ)		1940年(昭和15)	木版多色	30.4×45.0	愛媛県美術館
	スケッチブック〔愛媛風景〕	5点				個人蔵
57-1	浅間山	『二六〇〇年度版　山』より	1940年(昭和15)	木版多色	29.6×44.9	愛媛県美術館
57-2	石鎚山頂	『二六〇〇年度版　山』より	1940年(昭和15)	木版多色	30.0×44.9	愛媛県美術館
57-3	瓶ヶ森(イヨ)	『二六〇〇年度版　山』より	1940年(昭和15)	木版多色	29.5×45.0	愛媛県美術館
57-4	甲州の山	『二六〇〇年度版　山』より	1941年(昭和16)	木版多色	30.5×45.5	愛媛県美術館
57-5	日光の山	『二六〇〇年度版　山』より	1941年(昭和16)	木版多色	30.5×45.5	愛媛県美術館
58	赤阿蘇		1946年(昭和21)	木版多色	29.0×41.5	愛媛県美術館
59-1	阿蘇山	『山岳版画集1』より	1946年(昭和21)	木版多色	16.5×24.0	愛媛県美術館
59-2	石鎚山	『山岳版画集1』より	1946年(昭和21)	木版多色	16.5×24.0	愛媛県美術館
59-3	白根山（渋峠）	『山岳版画集1』より	1946年(昭和21)	木版多色	16.5×24.0	愛媛県美術館
60-1	大野ヶ原(大野原小松池)	『山湖』より	1949年(昭和24)	木版多色	26.0×36.0	愛媛県美術館
60-2	大正池	『山湖』より	1949年(昭和24)	木版多色	26,0×36.4	愛媛県美術館
60-3	河口湖	『山湖』より	1949年(昭和24)	木版多色	26.0×36.5	愛媛県美術館
60-4	志賀高原ビワ池(丸池)	『山湖』より	1949年(昭和24)	木版多色	25.4×36.4	愛媛県美術館
61	黒姫山		1948年(昭和23)	木版多色	30.4×45.5	町田市立国際版画美術館
62	甲斐駒		1949年(昭和24)	木版多色	43.5×51.2	町田市立国際版画美術館
62-I	甲斐駒	〔下絵〕	1949年(昭和24)頃	水彩他		個人蔵
	スケッチブック〔山岳風景〕	7点				個人蔵
	スケッチブック〔山草〕	4点				個人蔵
63-1	赤い壁	『満州』より	1944年(昭和19)	木版多色	24.5×33.0	愛媛県美術館
63-2	泥の家	『満州』より	1944年(昭和19)	木版多色	24.0×33.0	愛媛県美術館
63-3	部落の家	『満州』より	1944年(昭和19)	木版多色	24.0×33.0	愛媛県美術館
63-4	街の家(二)	『満州』より	1944年(昭和19)	木版多色	24.5×33.0	愛媛県美術館
64	土の家		1944年(昭和19)	木版多色	22.2×33.0	愛媛県美術館
65	満州風景		1945年(昭和20)	木版多色	44.7×68.4	個人蔵
	スケッチブック〔満州〕	6点	昭和18～19年頃			個人蔵
	スケッチブック					個人蔵
	畦地康惠宛　葉書(新京より)		昭和18～19年		14.0×9.0	個人蔵
	秋山英一宛　葉書(新京より)	2点	1943(昭和18)年		14.0×9.0	個人蔵
66	子どもたち		1946年(昭和21)	木版多色	65.6×44.5	愛媛県美術館
67	苦力の女房	『一木集』第I集所収	1944年(昭和19)	木版多色	19.7×9.6	愛媛県美術館
68	山	『一木集』第Ⅱ集所収	1946年(昭和21)	木版多色	21.0×18.2	愛媛県美術館

69	赤い表紙	『一木集』第Ⅲ集所収	1948年（昭和23）	木版多色	19.5×11.4	愛媛県美術館
70	子供	『一木集』第Ⅳ集所収	1948年（昭和23）	木版多色	22.4×14.8	愛媛県美術館
71	子供		1945年（昭和20）頃	木版多色	21.1×14.6	愛媛県美術館
72	（美江子像）			木彫	10.1×8.5×高7.1	個人蔵
73	（美江子像）			ガラス絵	18.8×15.2×高2.1	個人蔵
74	梅花			木版多色	10.3×11.9	個人蔵
75	筆硯得佳友〔硯箱〕			木彫	28.7×24.2×高6.5	個人蔵
76	音		1948年（昭和23）	木版多色	44.7×31.2	愛媛県美術館

第3章　山男―山のなかから

No.	作品名		制作年	技法	寸法（縦×横/cm）	所蔵先
77	雪渓		1952年（昭和27）	木版多色	29.0×41.5	愛媛県美術館
78	石鎚山		1953年（昭和28）	木版多色	30.2×40.4	愛媛県美術館
79	槍ヶ岳		1952年（昭和27）	木版多色	39.5×29.0	愛媛県美術館
80	登攀の前（山男）		1952年（昭和27）	木版多色	41.5×21.5	愛媛県美術館
81	山男		1953年（昭和28）	木版多色	39.0×28.5	愛媛県美術館
81−I	山男	〔下絵〕	1953年（昭和28）頃	クレヨン他		個人蔵
82	山小屋の老人		1953年（昭和28）	木版多色	54.0×36.5	愛媛県美術館
83	くろゆり		1954年（昭和29）	木版多色	35.7×25.8	愛媛県美術館
84	ストーブの前		1954年（昭和29）	木版多色	39.1×29.0	個人蔵
85	老スキーヤー		1955年（昭和30）	木版多色	43.6×32.7	愛媛県美術館
86(1)	親子鳥		1955年（昭和30）	木版多色	32.5×45.0	畦地梅太郎記念美術館
86(2)	親子鳥		1955年（昭和30）	木版多色	31.3×40.3	愛媛県美術館
87−1(1)	二人の山男		1955年（昭和30）	木版多色	40.5×28.5	愛媛県美術館
87−1(2)	二人の山男		1955年（昭和30）	木版多色	40.5×29.5	個人蔵
87−2	鳥と山男		1955年（昭和30）	木版多色	40.9×29.6	愛媛県美術館
87−3	老登山家		1955年（昭和30）	木版多色	40.8×29.0	愛媛県美術館
87−4	冬の山男		1955年（昭和30）	木版多色	40.1×28.5	愛媛県美術館
87−5	鳥をいだく（鳥をかかえて）		1956年（昭和31）	木版多色	40.3×29.3	愛媛県美術館
88	わかれ		1956年（昭和31）	木版多色	60.3×41.7	愛媛県美術館
89	めぐりあい		1956年（昭和31）	木版多色	60.2×41.7	愛媛県美術館
90	山男（三）		1956年（昭和31）	木版多色	56.0×36.5	愛媛県美術館
91	山男（四）		1956年（昭和31）	木版多色	56.2×35.6	愛媛県美術館
92	山上に叫ぶ		1956年（昭和31）	木版多色	46.6×31.4	愛媛県美術館
93	雪渓に立つ		1956年（昭和31）	木版多色	57.9×37.2	愛媛県美術館
94	山にねむる		1956年（昭和31）	木版多色	30.5×45.5	愛媛県美術館
95	なげく山男		1957年（昭和32）	木版多色	56.2×35.5	愛媛県美術館
96	山のよろこび		1957年（昭和32）	木版多色	61.8×42.3	愛媛県美術館
97	山の友情		1957年（昭和32）	木版多色	56.3×36.0	愛媛県美術館
98(1)	白い像		1958年（昭和33）	木版多色	70.0×44.9	愛媛県美術館
98(2)	白い像		1958年（昭和33）	木版多色	69.2×45.3	個人蔵
99	山におどる		1958年（昭和33）	木版多色	69.0×45.0	愛媛県美術館
100	雪線上の像		1958年（昭和33）	木版多色	71.0×46.7	愛媛県美術館
101	望郷		1959年（昭和34）	木版多色	69.1×45.2	愛媛県美術館
102	花園		1960年（昭和35）	リトグラフ	48.0×38.5	愛媛県美術館
103	会議		1960年（昭和35）	木版多色	36.5×54.8	町田市立国際版画美術館
104	青凍		1960年（昭和35）	木版多色	68.8×46.0	愛媛県美術館
105	冬山の像		1961年（昭和36）	木版多色	69.0×45.0	畦地梅太郎記念美術館
106	雪の目玉		1962年（昭和37）	木版多色	58.8×40.8	愛媛県美術館
107−1	山男（冬山）	『山の歌声』所収	1962年（昭和37）	木版多色	27.2×24.1	愛媛県美術館
107−2	山のひととき	『山の歌声』所収	1962年（昭和37）	木版多色	27.0×23.5	愛媛県美術館
108−1	山人の季節	『山の太陽』所収	1963年（昭和38）	木版多色	35.0×24.0	愛媛県美術館
108−2	夏の山人	『山の太陽』所収	1962年（昭和37）	木版多色	32.0×24.0	愛媛県美術館
108−3	秋（秋の日差し）	『山の太陽』所収	1963年（昭和38）	木版多色	34.0×24.0	愛媛県美術館
108−4	初冬の声	『山の太陽』所収	1963年（昭和38）	木版多色	32.0×24.0	愛媛県美術館
109	赤い帽子		1965年（昭和40）	木版多色	36.5×27.5	愛媛県美術館
110	山のひととき		1966年（昭和41）	木版多色	58.8×39.4	愛媛県美術館

No.	作品名		制作年	技法	寸法（縦×横/cm）	所蔵先
111	島崎藤村『早春詩抄』	草木屋出版部	1937年（昭和12）	木活字	21.1×15.1	愛媛県美術館
112	若山牧水『富士百首』	草木屋出版部	1937年（昭和12）	木活字	28.1×21.0	愛媛県美術館
113	徳富蘇峰『蘇峰百絶』	草木屋出版部	1937年（昭和12）	木活字	22.2×16.3	愛媛県美術館
114	吉井勇『羈旅百首』	草木屋出版部	1938年（昭和13）	木活字	21.1×15.1	愛媛県美術館
	室生犀星『蟲寺抄』	博文館	1942年（昭和17）		18.6×13.3	畦地梅太郎記念美術館
	室生犀星『杏っ子』	新潮社	1957年（昭和32）		20.0×13.5	畦地梅太郎記念美術館
	室生犀星『杏っ子』	〔版木2枚〕				個人蔵
	室生犀星『好色』	筑摩書房	1962年（昭和37）		19.3×13.5	畦地梅太郎記念美術館
	室生犀星『好色』	〔版木1枚〕				個人蔵
	室生犀星『随筆　李朝夫人』	村山書店	1957年（昭和32）		18.6×13.3	畦地梅太郎記念美術館
	室生犀星『随筆　李朝夫人』	〔版木2枚〕				個人蔵
	室生犀星『哈爾濱詩集』	冬至書房	1957年（昭和32）		19.3×13.5	畦地梅太郎記念美術館
	室生犀星『哈爾濱詩集』	〔版木1枚〕				個人蔵
	室生犀星『夕映えの男』	講談社	1957年（昭和32）		19.7×13.3	畦地梅太郎記念美術館
	室生犀星『随筆　誰が屋根の下』	村山書店	1956年（昭和31）		18.7×13.3	畦地梅太郎記念美術館
115	『左筆庵蔵書抄』		1948年（昭和23）		19.5×14.0	個人蔵
116	『山荵庵蔵票集』	私家版	1949年（昭和24）	木版多色	23.2×17.2	畦地梅太郎記念美術館／個人蔵
117	『EX−LIBRIS　明治生命十三人集』	私家版		木版多色	20.5×17.2	畦地梅太郎記念美術館
118	『EX−LIBRIS　続明治生命十三人集』	私家版	1950年（昭和25）	木版多色	20.8×15.7	個人蔵
118−1	中島蔵書			木版多色	6.1×4.6	
119	『EX−LIBRIS　続々明治生命十三人集』	私家版	1950年（昭和25）	木版多色	18.1×13.3	畦地梅太郎記念美術館／個人蔵
119−1	齋藤蔵本				6.1×4.5	
120	『EX−LIBRIS　No.4 明治生命十三人集』	私家版	1950年（昭和25）	木版多色	15.8×12.0	個人蔵
120−1	EX−LIBRIS A･OSIRO				6.0×4.6	
121	『EX−LIBRIS　14点』	私家版		木版多色	20.0×15.8	畦地梅太郎記念美術館／個人蔵
121−1	永井蔵書			木版多色	7.9×5.7	
122	『EX−LIBRIS　No.5 明治生命十三人集』	私家版	1952年（昭和27）	木版多色	15.3×11.4	畦地梅太郎記念美術館／個人蔵
122−1	竹原蔵書				6.7×4.3	
123	『EX−LIBRIS』	私家版		木版多色	17.1×13.6	個人蔵
123−1	名月軒蔵書				6.4×4.3	
124	『畦地梅太郎蔵書票集』		1978年（昭和53）	木版多色	21.8×16.2	畦地梅太郎記念美術館
125	『畦地梅太郎　書票十作集』			木版多色	16.4×16.0	畦地梅太郎記念美術館
	蔵書票	32点				個人蔵
126	愛書票暦		1966年（昭和41）			愛媛県美術館／個人蔵
127−1	EX･LIBRIS K･TOKIDA	『書票暦』	1952年（昭和27）	木版多色	4.6×8.0	個人蔵
127−2	EX･LIBRIS SATO	『書票暦』	1954年（昭和29）	木版多色	7.6×4.6	個人蔵
127−3	米浪蔵書	『書票暦』	1955年（昭和30）	木版多色	9.3×6.3	個人蔵
127−4	祖川蔵書	『書票暦』	1968年（昭和43）	木版多色	9.7×7.4	個人蔵
127−5	髙木蔵書	『書票暦』	1969年（昭和44）	木版多色	9.3×6.6	個人蔵
127−6	坂本蔵	『書票暦』	1972年（昭和47）	木版多色	9.8×7.2	個人蔵
128−1	『書票暦』7月／EX･LIBRIS石刀	日本書票協会	1962年（昭和37）	木版多色	台紙:20.7×13.2	個人蔵
128−2	『書票暦』10月／ダ=エル･メーエル愛書	日本書票協会	1964年（昭和39）	木版多色	台紙:20.7×13.2	個人蔵
128−3	『書票暦』7月／ふるかわ愛書	日本書票協会	1966年（昭和41）	木版多色	台紙:21.0×13.4	個人蔵
128−4	『書票暦』9月／小鴨愛書	日本書票協会	1967年（昭和42）	木版多色	台紙:21.0×13.4	個人蔵
129	小禽	『書窓』14巻6号所収	1935年（昭和10）	木版多色	22.7×16.4	個人蔵
130−1	『日本版画協会カレンダー』9月	日本版画協会	1941年（昭和16）	木版多色	24.8×12.9	畦地梅太郎記念美術館
130−2	『日本版画協会カレンダー』1月	日本版画協会	1942年（昭和17）	木版多色	24.8×12.8	畦地梅太郎記念美術館
	恩地孝四郎「蜂月」 『日本版画協会カレンダー』8月	日本版画協会	1940年（昭和15）	木版多色	25.0×12.3	畦地梅太郎記念美術館
	平塚運一「神在月」 『日本版画協会カレンダー』11月	日本版画協会	1941年（昭和16）	木版多色	24.8×12.7	畦地梅太郎記念美術館
	阿蘇山	『日本の山水』所収	1946年（昭和21）	木版多色	12.0×15.4	個人蔵
	『日本の山水』	富岳本社	1946年（昭和21）			個人蔵／愛媛県美術館
131	『山上の楽園』	私家版	1950年（昭和25）	木版多色	21.0×15.0	愛媛県美術館

132	『山の絵本』	日本愛書会	1955年（昭和30）	木版多色	36.3×28.2	畦地梅太郎記念美術館
132−1	高千穂の峰（高千穂）	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−2	石鎚山	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−3	杖突峠の宿	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−4	夏の志賀高原	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−5	白馬大雪渓（白馬雪渓）	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−6	小雪渓	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−7	五色原	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
132−8	涸沢	『山の絵本』より	1955年（昭和30）	木版多色	18.0×18.0	愛媛県美術館
133	鳥のよぶ声		1968年（昭和43）	木版多色	49.0×37.0	畦地梅太郎記念美術館
134	『12のめるへん』	緑の笛豆本の会	1977年（昭和52）		32.5×38.5	愛媛県美術館
134−1	入学（白い建物）	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	17.2×23.0	愛媛県美術館
134−2	最初の遠足（五羽の小鳥）	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	16.2×20.0	愛媛県美術館
134−3	家族で峠越え（六人の山）	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	18.3×22.1	畦地梅太郎記念美術館
134−4	傷ついた子バト（傷つく小鳥）	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	18.2×22.7	畦地梅太郎記念美術館
134−5	ベットから　とんだ	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	18.2×23.0	個人蔵
134−6	帆がみえた（白帆のうた）	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	18.0×22.3	畦地梅太郎記念美術館
134−7	雪の座（残雪の宴）	『12のめるへん』より	1977年（昭和52）	木版多色	18.2×22.7	畦地梅太郎記念美術館
135−1	六人の山	『山のつぶやき』より	1978年（昭和53）	木版多色	18.0×21.9	愛媛県美術館
135−2	みずばしょう	『山のつぶやき』より	1978年（昭和53）	木版多色	18.0×21.7	畦地梅太郎記念美術館
135−3	さけぶ鳥たち	『山のつぶやき』より	1978年（昭和53）	木版多色	18.0×21.5	畦地梅太郎記念美術館
135−4	鳥のねぐら	『山のつぶやき』より	1978年（昭和53）	木版多色	18.0×21.5	畦地梅太郎記念美術館
135−5	らいちょう	『山のつぶやき』より	1978年（昭和53）	木版多色	18.0×21.7	畦地梅太郎記念美術館
135−6	遠い山	『山のつぶやき』より	1978年（昭和53）	木版多色	18.0×21.6	愛媛県美術館
136	滝　『山渓』第156号	〔表紙原画〕	1952年（昭和27）頃	木版多色	31.8×23.6	愛媛県美術館
137−1	海のうた	〔表紙原画〕	1977年（昭和52）	木版多色	24.2×18.4	愛媛県美術館
137−2	山の出会	〔表紙原画〕	1977年（昭和52）	木版多色	24.0×18.0	愛媛県美術館
137−3	感じ入ったこと	〔表紙原画〕	1977年（昭和52）	木版多色	24.2×18.2	畦地梅太郎記念美術館
138−1	松山とテレビ塔『南海放送』45号	〔表紙原画〕	1963年（昭和38）	木版多色	21.2×29.4	南海放送株式会社
138−2	瀬戸内海　『南海放送』52号	〔表紙原画〕	1964年（昭和39）	木版多色	21.3×29.4	南海放送株式会社
138−3	石鎚の夜明け　『南海放送』60号	〔表紙原画〕	1965年（昭和40）	木版多色	22.9×32.0	南海放送株式会社
138−4	南予の山々　『南海放送』61号	〔表紙原画〕	1965年（昭和40）	木版多色	23.1×32.1	南海放送株式会社
138−5	カタクリの季節　『南海放送』62号	〔表紙原画〕	1965年（昭和40）	木版多色	23.1×32.0	南海放送株式会社
138−6	梅　『南海放送』63号	〔表紙原画〕	1965年（昭和40）	木版多色	22.8×31.7	南海放送株式会社
138−6−I	梅〔版木4枚〕		1965年（昭和40）頃		31.0×39.3	畦地梅太郎記念美術館
138−7	水道　『南海放送』66号	〔表紙原画〕	1965年（昭和40）	木版多色	23.0×31.8	南海放送株式会社
138−8	アンテナのある風景　『南海放送』70号	〔表紙原画〕	1966年（昭和41）	木版多色	14.2×27.8	南海放送株式会社
139	庄野潤三『夕べの雲』	〔表紙原画〕		木版多色	21.0×15.0	個人蔵
140	遠藤周作『火山』	〔カバー原画〕	1960年（昭和35）頃	木版多色	19.3×13.5	個人蔵
141	木山捷平著『苦いお茶』	〔カバー原画〕	1963年（昭和38）頃	木版多色	21.1×31.2	愛媛県美術館
142	芥川龍之介著『羅生門等』	〔表紙原画〕	1965年（昭和41）頃	木版多色	25.7×17.7	個人蔵
143	尾崎士郎『人生劇場』残侠篇（下）	〔カバー原画〕		木版多色	18.0×28.5	愛媛県美術館
144	尾崎士郎『人生劇場』	〔カバー原画〕		木版多色	17.8×28.5	愛媛県美術館
145	川崎長太郎『歩いた途』	〔表紙原画〕	1980年（昭和55）		19.0×15.4	個人蔵
146	室生朝子『石佛の里にて』	〔表紙原画〕	1978年（昭和53）	木版多色	26.4×35.5	個人蔵
	富士正晴『酒の詩集 おさけにゃ　ふかい　あじがある』	〔挿絵原画〕　6点	1973年（昭和48）頃	木版多色	23.3×14.6	個人蔵
	新美南吉『手ぶくろを買いに』	〔挿絵原画〕	1968年（昭和43）頃	インク、鉛筆		個人蔵
	室生朝子『父　犀星の秘密』	〔扉原画〕	1980年（昭和55）頃	木版多色		個人蔵
	石川達三『稚くて愛を知らず』	〔カバー原画〕	1959年（昭和39）頃	木版多色		個人蔵
	『浪花のれん』5月号（第36号）	〔表紙原画〕	1963年（昭和38）頃	木版多色		個人蔵
	『愛媛アララギ』第9巻第1号	（同誌第62巻第3号で表紙を復刻）〔表紙原画〕	1960年（昭和35）頃	木版多色		個人蔵
	赤沼千尋『山の天辺』	〔挿絵原画〕	1975年（昭和50）頃	木版一色		個人蔵
	『山の足音』	〔挿絵原画〕	1960年（昭和35）頃	木版多色		個人蔵
	『山の眼玉』	〔カバー原画〕	1957年（昭和32）	木版多色		個人蔵
	阿部　恒夫『あるむ雑記』	もんたにゆ会	1977年（昭和52）		15.3×14.5	愛媛県美術館
	河田　楨『かひしなの』	山と溪谷社	1946年（昭和21）		18×12.3	個人蔵
	『山と渓谷』　156号	山と溪谷社	1952年（昭和27）		20.9×14.8	個人蔵
	『山と渓谷』　150号	山と溪谷社	1951年（昭和26）		20.9×14.9	個人蔵

	『山と渓谷』　132号	山と溪谷社	1950年（昭和25）		20.9×14.9	個人蔵
	庄野潤三『夕べの雲』		1971年（昭和46）		14.7×10.8	個人蔵
	芥川龍之介『羅生門・鼻・侏儒の言葉他二編』		1974年（昭和49）		15.2×10.8	個人蔵
	井上靖『凍れる木』	講談社	1959年（昭和39）		19.3×13.1	個人蔵
	石川達三『稚くて愛を知らず』	中央公論社	1959年（昭和39）		19.8×13.5	個人蔵
	室生朝子『随筆　石佛の里にて』	鎌倉書房	1978年（昭和53）		19.5×13.5	個人蔵
	瓜生卓造『遠い湖』	朋文社	1958年（昭和33）		18.7×13.3	愛媛県美術館
	赤沼千尋『山の天辺』	東峰書房	1975年（昭和50）		21.8×16.1	愛媛県美術館
	井伏鱒二『借間あり』	角川文庫	1959年（昭和34）		15.0×10.8	愛媛県美術館
	『形成』第4巻第2号	形成社	1956年（昭和31）		21.0×14.9	個人蔵
	井上靖『凍れる樹』	講談社	1959年（昭和39）		19.3×13.1	畦地梅太郎記念美術館
	佐藤愛子『花はくれない　小説 佐藤紅緑』	講談社	1967年（昭和42）		19.3×13.1	畦地梅太郎記念美術館
	小島六郎『夏の山冬の山』	明玄書房	1954年（昭和29）		18.6×13.1	愛媛県美術館
	木山捷平『苦いお茶』	新潮社	1963年（昭和38）		19.7×13.7	畦地梅太郎記念美術館
	木山捷平『大陸の細道』	新潮社	1962年（昭和37）		19.7×13.5	畦地梅太郎記念美術館
	川崎長太郎『歩いた路』	河出書房新社	1981年（昭和56）		19.3×13.1	畦地梅太郎記念美術館
	遠藤周作『火山』	文藝春秋新社	1960年（昭和35）		19.7×13.3	畦地梅太郎記念美術館
	瓜生卓造『金精峠』	スキージャーナル	1972年（昭和47）		19.5×13.5	畦地梅太郎記念美術館
	富士正晴『書中のつきあい』	六興出版	1979年（昭和54）		17.5×12.0	畦地梅太郎記念美術館
	若杉慧『青春前期』	スキージャーナル	1971年（昭和46）		19.3×13.7	畦地梅太郎記念美術館
	長尾宏也『山のけものたち』小学生全集49	筑摩書房	1954年（昭和29）		20.7×14.8	畦地梅太郎記念美術館
	若山牧水『新編みなかみ紀行』	朋文堂	1956年（昭和31）		18.5×13.1	畦地梅太郎記念美術館
	石橋辰之助『山暦　石橋辰之助句集』	朋文堂	1951年（昭和26）		18.4×12.8	個人蔵
	ぶな葉一『山のみち』鈴の音童話2	教育出版センター	1998年（平成10）		21.6×15.5	愛媛県立図書館
	藤江幾太郎『藤江幾太郎　山の画集』	山と渓谷社	1980年（昭和55）		30.3×21.6	畦地梅太郎記念美術館
	新美南吉 『手ぶくろを買いに』子ども図書館	大日本図書	1968年（昭和43）／第13刷:1975（昭和50）		21.4×19.0	畦地梅太郎記念美術館
	富士正晴『酒の詩集 おさけにゃ　ふかい　あじがある』	光文社	1973年（昭和48）		17.2×10.5	畦地梅太郎記念美術館
	室生朝子『父　犀星の秘密』	毎日新聞社	1980年（昭和55）		19.5×13.5	畦地梅太郎記念美術館／個人蔵
	『蛇の目玉』	緑の笛豆本の会	1971年（昭和46）		11.0×13.8	畦地梅太郎記念美術館／愛媛県美術館
	『畦地梅太郎画文集　ぬくもりの山』	鹿鳴荘	1981年（昭和56）		17.6×16.8	愛媛県美術館
	『よろこびの頂』	鹿鳴荘	1984年（昭和59）		23.6×19.0	愛媛県美術館
	『山の眼玉＜限定本＞』	朋文堂	1957年（昭和32）		23.0×18.6	個人蔵／愛媛県美術館
	『山の眼玉』朋文堂山岳文庫第九巻	朋文堂	1957年（昭和32）		23.0×19.0	愛媛県立図書館、個人蔵
	『山の出べそ』	創文社	1966年（昭和41）		21.4×15.4	愛媛県美術館
	『北と南の話』限定版	創文社	1972年（昭和47）		22.7×15.7	愛媛県美術館
	『北と南の話』	創文社	1981年（昭和56） 初版:1972年（昭和47）		22.9×15.8	愛媛県美術館
	『山の絵本』	日本愛書會	1955年（昭和30）		39.2×28.9	畦地梅太郎記念美術館
	『思慕する山』	桜華書林	1984年（昭和59）		20.4×14.1	畦地梅太郎記念美術館
	『四季の山歩き』	桜華書林	1985年（昭和60）		20.4×14.1	畦地梅太郎記念美術館／個人蔵
	『せつなさの山』	創文社	1969年（昭和44）		21.5×15.2	愛媛県立図書館／愛媛県美術館
	『山の目玉　畦地梅太郎画文集』	美術出版社	1986年（昭和61）		20.9×15.0	愛媛県立図書館
	『山の足音』アルプ選書	創文社	1960年（昭和35）		17.1×13.2	愛媛県立図書館
	『畦地梅太郎作品集I　根雪のくる前』	緑の笛豆本の会	1979年（昭和54）		22.2×16.4	畦地梅太郎記念美術館
	『山のえくぼ』	創文社	1975年（昭和50）		21.9×15.8	愛媛県美術館
	『画文集　とぼとぼ六十年』	講談社	1985年（昭和60）		21.6×15.7	個人蔵
	『書窓』第5巻第1号	アオイ書房	1937年（昭和12）		23.0×16.1	個人蔵
	『山草と高山植物　楽しみ方作り方』	誠文堂新光社	1963年（昭和38）		20.3×15.3	愛媛県美術館
	『遠つびと』第1巻第1号	とほつびと発行所	1935年（昭和10）		22.5×15.3	愛媛県美術館
	『NHKお母さんの勉強室』	日本放送出版協会	1977年（昭和52）－1978年（昭和53）		25.7×18.2	畦地梅太郎記念美術館
	『さち』	幸社	1952年（昭和27）－1971年（昭和46）		20.8×14.7	愛媛県立図書館
	『三予人』	三予人社	1958年（昭和33）		21.0×14.9	愛媛県立図書館

	『四国』	四国出版株式会社	1959年（昭和34）－1960年（昭和35）		20.5×14.8	愛媛県立図書館
	『南海放送』	南海放送株式会社	1964年（昭和39）－1970年（昭和45）		21.0×14.8	南海放送株式会社
	『望星』	東海教育研究所	1977年（昭和52）		21.0×14.8	畦地梅太郎記念美術館
	『愛媛アララギ』	愛媛アララギ会	2013年（平成25）－2015年（平成27）		21.2×14.8	個人蔵
	『なめとこ』	なめとこ発行所	1936年（昭和11）－1937年（昭和12）		22.4×15.4	畦地梅太郎記念美術館
	『山草』	愛媛山草同好会	1970年（昭和45）－1989年（平成1）		21.0×15.2	畦地梅太郎記念美術館
	『浪花のれん』5月号（第36号）	産報	1963年（昭和38）		18.2×12.8	南海放送株式会社
	『大学世界』	全国大学人協会	1978年（昭和53）		21.0×14.8	畦地梅太郎記念美術館
	『あしなか』	山村民俗の会	1949年（昭和24）－1955年（昭和30）		23.8×17.0	個人蔵／愛媛県美術館
	『アルプ』	創文社	1959年（昭和34）－1980年（昭和55）		21.0×14.8	畦地梅太郎記念美術館
	『八幡浜絵葉書』（4枚組）	大阪毎日八幡浜通信部	1938年（昭和13）			個人蔵
	『季刊　R*7』	鹿鳴荘	1986年（昭和61）			愛媛県美術館
	スクラップブック〔文字〕					畦地梅太郎記念美術館
	（マッチラベルスクラップ帖）	2冊				畦地梅太郎記念美術館
	「「椎」の木とともに」	〔原稿用紙6枚〕				個人蔵

第5章　山に帰る

No.	作品名		制作年	技法	寸法（縦×横/cm）	所蔵先
147	浅間山		1968年（昭和43）	木版多色	28.5×22.0	愛媛県美術館
148−1	大天井	『山−北アルプス』より	1967年（昭和42）	木版多色	23.6×30.0	愛媛県美術館
148−2	常念	『山−北アルプス』より	1967年（昭和42）	木版多色	29.5×23.5	愛媛県美術館
148−3	涸沢	『山−北アルプス』より	1967年（昭和42）	木版多色	29.8×23.5	愛媛県美術館
148−3−I	涸沢	〔下絵〕	1967年（昭和42）頃	クレヨン他		個人蔵
149	樹海をとぶ鳥		1967年（昭和42）	木版多色	49.6×37.7	愛媛県美術館
150	圏谷にたつ人		1967年（昭和42）	木版多色	42.6×33.2	愛媛県美術館
151	山男の像		1968年（昭和43）	木版多色	49.0×37.6	畦地梅太郎記念美術館
152	さけぶ三人		1968年（昭和43）	木版多色	51.5×39.0	愛媛県美術館
153	大空の目		1973年（昭和48）	木版多色	22.4×15.9	個人蔵
154	山の家族		1973年（昭和48）	木版多色	44.7×32.6	愛媛県美術館
154−I	山の家族	〔版木6枚〕			44.9×32.5	畦地梅太郎記念美術館
155−1	火の山	『山男誕生』より	1973年（昭和48）	木版多色	23.1×17.2	愛媛県美術館
155−2	よろこびの山	『山男誕生』より	1973年（昭和48）	木版多色	23.5×17.8	愛媛県美術館
155−3	ものの気配	『山男誕生』より	1973年（昭和48）	木版多色	23.7×17.8	愛媛県美術館
155−4	冬山の家族	『山男誕生』より	1973年（昭和48）	木版多色	23.4×17.5	愛媛県美術館
156	ぬくもり		1975年（昭和50）	木版多色	40.8×30.0	愛媛県美術館
157	鳥のすむ森		1975年（昭和50）	木版多色	40.9×30.0	愛媛県美術館
158	山の家族		1975年（昭和50）	木版多色	39.2×28.4	町田市立国際版画美術館
159	ものの気配		1975年（昭和50）	木版多色	51.7×38.8	愛媛県美術館
160−1	遠い山		1978年（昭和53）	木版多色	19.8×21.0	愛媛県美術館
160−2	山のぬくもり		1978年（昭和53）	木版多色	19.6×21.2	愛媛県美術館
160−3	親子よろこぶ		1978年（昭和53）	木版多色	19.6×20.4	愛媛県美術館
160−4	峠を越えた男		1978年（昭和53）	木版多色	19.6×20.4	愛媛県美術館
161	渇き		1980年（昭和55）	木版多色	28.6×39.0	愛媛県美術館
162	一人の山		1980年（昭和55）	木版多色	39.4×28.7	愛媛県美術館
163	火の山におどろく		1980年（昭和55）	木版多色	38.8×28.8	愛媛県美術館
164	水		1980年（昭和55）	木版多色	38.8×28.9	愛媛県美術館
165	山のみち		1980年（昭和55）	木版多色	38.9×29.1	愛媛県美術館
166	みどり、さわやか	〔緞帳原画〕	1985年（昭和60）	木版多色	17.9×54.4	町田市立国際版画美術館
167	石鎚山	〔愛媛県県民文化会館　緞帳原画〕	1985年（昭和60）	木版多色	40.0×80.0	愛媛県美術館

長くつ下のピッピの世界展
リンドグレーンが描く
北欧の暮らしと子どもたち

会　　期： 令和元年９月14日（土）－　11月10日（日）(50日間)
主　　催：「長くつ下のピッピの世界展」愛媛実行委員会（愛媛県、テレビ愛媛、東映）
後　　援： スウェーデン大使館、デンマーク大使館、エストニア大使館、愛媛県教育委員会、松山市、松山市教育委員会、愛媛県市町教育委員会連合会、（公財）愛媛県教育会、愛媛県教育研究協議会、愛媛県小中学校長会、愛媛県ＰＴＡ連合会、愛媛県国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連合会、愛媛県私立幼稚園ＰＴＡ連合会、（一財）愛媛県私立幼稚園協会、愛媛県保育協議会、愛媛県美術会、愛媛美術教育連盟､学校法人河原学園､学校法人松山ビジネスカレッジ､(公財）愛媛観光コンベンション協会、道後温泉旅館協同組合、南海放送、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、愛媛ＣＡＴＶ、ＦＭ愛媛、えひめリビング新聞社
協　　賛： 野崎印刷紙業
協　　力： アストリッド・リンドグレーン社、コピーライツアジア、徳間書店、岩波書店、偕成社、イケア・ジャパン
企　　画： 東映、東京富士美術館
監　　修： 菱木晃子（北欧児童文学翻訳家）
会　　場： 愛媛県美術館　常設展示室１・２

趣　　旨

『長くつ下のピッピ』（1945年）は、スウェーデンが誇る世界的児童文学作家 アストリッド・リンドグレーン（1907－2002）による代表作であり、現在にいたるまで各時代の世界中の子どもたちの愛読書として広く親しまれている。リンドグレーンは作品を通して子どもたちを勇気づけただけでなく、社会における子どもたちの人権保全にも尽力しており、本展ではその活動についても合わせて紹介した。本展では、スウェーデン国外初出品となる、リンドグレーンが愛娘のカーリンにピッピの手描きイラストを入れて贈った『長くつ下のピッピ』原稿を始め、スウェーデン王立図書館所蔵のユネスコ「世界の記憶」に登録された『長くつ下のピッピ』等の原画など、約200点のほぼ日本初公開の資料により紹介した。

観覧者数：8,950名

関連行事

オープニング記念トークショー＆サイン会
日　　時：９月15日（日）　14：00～16：00
講　　師：石井登志子（児童文学翻訳家）
場　　所：美術館講堂
参加人数：延80名

テレビ愛媛アナウンサーによる絵本朗読会
日　　時：９月21日、10月19日　（各土）各11：00～、14：00～
講　　師：橋本利恵／名護谷希慧（テレビ愛媛アナウンサー）
場　　所：美術館研修室
参加人数：延120名

映画「長くつ下のピッピ」上映会
日　　時：10月12日（土）　14：00～
上映作品：
場　　所：美術館講堂　※要観覧券半券
参加人数：103名

「長くつ下のお友だち」をつくろう

日　　時：９月29日（土）　14：00～16：00
講　　師：ecoloplus（井ノ口晴加／山本あゆみ）
場　　所：美術館特別展示室２
材料費等：一組800円（２体分）
対　　象：小学生とその保護者20組
参加人数：45名

ピッピの日無料ご招待

月　　日：９月22日（日）、10月22日（火・祝）
対　　象：ピッピとおそろいのスタイル（ツインテールもしくは左右異なるくつ下）での来館者本人先着50名
参加人数：延100名

ピッピの似顔絵コンクール

月　　日：応募／８月26日（月）～９月30日（月）展示／10月３日（木）～11月10日（日）
場　　所：美術館２階展示室前
参加人数：24名

SNSフォロワーキャンペーン

SNSで本展をフォローした方対象に、くじ引きでオリジナルポストカードをプレゼント。
月　　日：９月14日（土）～11月10日（日）
参加人数：延193名

出品目録

第1章　長くつ下のピッピ

作品番号	作品名	作家名	制作年	所蔵先
1	オリジナル・ピッピ	アストリッド・リンドグレーン作・画	1944年	カーリン・ニイマン（ストックホルム、スウェーデン）
2	オリジナル・ピッピ（復刻版）	アストリッド・リンドグレーン作・画	2015年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
3	『長くつ下のピッピ』初版本	アストリッド・リンドグレーン作 イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
4	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、頭にたまごをかぶる”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
5	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、パンケーキをやく”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
6	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、いじわるな男の子たちを木に投げとばす”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
7	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカとコーヒーをのむ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
8	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカと梨の木の下で”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
9	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、木の上でトミーとアニカとコーヒータイム”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
10	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、みずうみにとびこむ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
11	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカとお菓子屋さんにて”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
12	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画“ピッピ、テントをはる”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
13	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカと馬にのる”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
14	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピとパパ（南の島の王さま）”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
15	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピとサルのニルソンさんと薬”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
16	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、コーヒーをのんでいるおばさまたちをおどろかす”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
17	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、馬と雪道をあるく”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
18	『長くつ下のピッピ』合本 挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカと小屋でバナナをたべる”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
19	『ピッピ 船にのる』挿絵原画“門のところに立つピッピ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945−1946年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
20	『ピッピ 船にのる』挿絵原画 “ピッピ、窓の外でさかさまにぶらさがる”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945−1946年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
21	漫画“ピッピ、ひっこしてくる”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1956−1957年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
22	漫画“ピッピ、どろぼうに入られる”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1956−1957年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
23	漫画“ピッピ、子どもをたすける”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1956−1957年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
24	漫画“ピッピ、クリスマスツリーをかたづける”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1956−1957年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
25	漫画“ピッピ、買いものにいく”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1958年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
26	漫画“ピッピ、無人島へいく”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1958年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
27	漫画“ピッピ、南の島からおうちへ帰る”原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1958−1959年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
28	『長くつ下のピッピ』出版社用ポスター原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1940年代後半	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
29	『こんにちは、長くつ下のピッピ』挿絵案原画（未使用）“ピッピ、手紙をかく”（1996年、アストリッド・リンドグレーンのサイン入り）	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1947年	セリエギャラリーエット（ストックホルム、スウェーデン）
30	『長くつ下のピッピ』表紙案原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
31	『長くつ下のピッピ』挿絵原画 “馬にのったピッピとサルのニルソンさん”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
32	ピッピのスケッチ（未使用）	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945−1959年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
33	『ピッピとうたおう』挿絵原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）

34	『ピッピとうたおう』挿絵原画 “ピッピ、トミー、アニカ、馬、ふたりのおまわりさん”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
35	『ピッピとうたおう』挿絵原画“南の島のピッピ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
36−a	『ピッピとうたおう』挿絵原画“つりをするピッピ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
36−b	『ピッピとうたおう』挿絵原画“ピッピ、トミー、アニカ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
37−a	『ピッピとうたおう』挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカとあそぶ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
37−b	『ピッピとうたおう』挿絵原画“ピッピ、床をそうじする”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
38−a	『ピッピとうたおう』挿絵原画“サーカスでのピッピ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
38−b	『ピッピとうたおう』挿絵原画“木にぶらさがるピッピ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
39	『ピッピとうたおう』挿絵原画 “ピッピ、トミーとアニカとあそぶ”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
40−a,b	『ピッピとうたおう』挿絵原画 “ピッピとサルのニルソンさん、寝室で”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
41−a,b	『ピッピとうたおう』挿絵原画“ピッピ、南の島のパパと”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
42−a,b	『ピッピとうたおう』挿絵原画“ピッピ、学校で”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
43−a	『ピッピとうたおう』挿絵原画“ピッピとどろぼうたち”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
43−b	『ピッピとうたおう』挿絵原画“ピッピとおまわりさん”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
44	青少年のための脚本集の表紙スケッチ	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
45	花柄のズボンをはいたピッピのペーパードール	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
46	ピンクのベストを着たピッピのペーパードール	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1947−1949年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
47	赤いベストを着たピッピのペーパードール	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1947−1949年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
48	青いスカートをはいたピッピのペーパードール	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1947−1949年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
49	ピッピ、サルのニルソンさんと家の中をおそうじ	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1949年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
50	郵便貯金宣伝用ポストカード	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1949年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
51	映画『長くつしたのピッピ』日本語版ポスター	スウェーデン映画協会制作	1973年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
52	ピッピ風の子どもたちのスケッチ	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1950年代後半	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
53	子どもたち、ピッピ、アオアズマヤドリ、昆虫、花の習作	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
54	アオアズマヤドリとその生態の習作、子どもたちのスケッチ	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
55	アオアズマヤドリにかこまれてすわる、 ピッピとサルのニルソンさんのスケッチ	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
56	いろいろなアジアの女の子の習作	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
57	カメのデザインの水着を着たアジアの女の子	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
58	赤い着物を着た日本の女の子	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
59	ツルのデザインの着物を着た日本の女の子	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1957−1959年	ヴァイエン美術館 （ヴァイエン、デンマーク）
60	『長くつ下のピッピ』表紙原画	桜井誠画	1964年	黒姫童話館
61	『長くつ下のピッピ』挿絵原画 “ピッピ、もの発見家になり、けんかをする”	桜井誠画	1964年	黒姫童話館
62	『長くつ下のピッピ』挿絵原画 “ピッピ、おまわりさんと鬼ごっこをする”	桜井誠画	1964年	黒姫童話館
63	『長くつ下のピッピ』挿絵原画 “ピッピ、誕生日パーティーをひらく”	桜井誠画	1964年	黒姫童話館
64	『ピッピ船にのる』表紙原画	桜井誠画	1965年	黒姫童話館
65	『ピッピ船にのる』挿絵原画“ピッピ、市にいく”	桜井誠画	1965年	黒姫童話館
66	『ピッピ船にのる』挿絵原画 “ピッピ、おわかれパーティーをひらく”	桜井誠画	1965年	黒姫童話館

67	『ピッピ 南の島へ』表紙原画	桜井誠画	1965年	黒姫童話館
68	『ピッピ 南の島へ』挿絵原画“ピッピ、船にのる”	桜井誠画	1965年	黒姫童話館
69	『ピッピ 南の島へ』挿絵原画“ピッピはおとなになりたくない”	桜井誠画	1965年	黒姫童話館

第2章　アストリッド・リンドグレーン

作品番号	作品名	作家名	制作年	所蔵先
70	タイプライター	ファシット社	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
71	速記ノート	アストリッド・リンドグレーン作	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
72	アストリッド・リンドグレーン頭像	セニア・ラーション作	1967年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
73	ユネスコ国際図書賞 受賞記念盾	作者不明	1992年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
74	能面	作者不明	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
75	陶製“おやゆび姫”	リサ・ラーソン作	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
76	北欧動物虐待防止協会による“功労賞”表彰オブジェ	マッツ・ヨナソン	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
77	ハトの置物	ヘンリク・アッレルト作	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
78	アストリッド・リンドグレーンの肖像が描かれた20スウェーデン・クローナ紙幣		2015年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
79−a	リンドグレーン 関連切手（スウェーデンのおはなし）		1969年11月17日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）
79−b	リンドグレーン 関連切手（ヨーロッパ切手「著名な女性」）		1996年5月3日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）
79−c	リンドグレーン 関連切手（割引切手シリーズ−アストリッド・リンドグレーンのおはなし）		1987年5月14日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）
79−d	リンドグレーン 関連切手（アストリッド・リンドグレーン）		2002年3月5日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）
79−e	リンドグレーン 関連切手（アストリッド・リンドグレーン生誕100年）		2007年11月8日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）
79−f	リンドグレーン 関連切手（国内用クリスマス切手）		2005年11月10日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）
79−g	リンドグレーン 関連切手（国内用クリスマス切手）		2007年11月8日	ポスト・ミュージアム（ストックホルム、スウェーデン）

第3章　アストリッド・リンドグレーンの生んだ小さなヒーロー&ヒロインたち

作品番号	作品名	作家名	制作年	所蔵先
80	『やかまし村の子どもたち』初版本	アストリッド・リンドグレーン作、イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1947年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
81*	『やかまし村の子どもたち』初版本表紙原画	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945−1946年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
82*	『やかまし村の子どもたち』挿絵原画“カバンをもち、こわがる6人の子どもたち”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1945−1946年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
83*	『やかまし村の春・夏・秋・冬』挿絵原画“いっしょにねる子どもたち”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1948−1949年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
84*	『やかまし村はいつもにぎやか』挿絵原画“サクランボ売り”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ストックホルム、スウェーデン）
85*	『やかまし村はいつもにぎやか』挿絵原画“ザリガニつり”	イングリッド・ヴァン・ニイマン画	1951−1952年	スウェーデン王立図書館（ ストックホルム、スウェーデン）
86	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“オッレになつく犬スヴィップ”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
87	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“ひみつの小屋をたてる”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
88	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“病気の先生にかわり、そうじをする”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
89	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“ジンジャー クッキーをやく”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
90	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“そりあそび”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
91	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“服のあいだにかくれる女の子たち”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
92	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“ピクニック”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
93	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画“おじいさん80歳のたんじょうび”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）

94	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画 “みぞにおちてオッレに泣きつくシャスティン”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
95	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画 “〈夏至の柱〉をかざる枝をあつめる”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
96	『やかまし村の子どもたち』合本 挿絵原画 “たき火をかこむ”	イロン・ヴィークランド画	1954−1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
97	『やかまし村の子どもの日』挿絵原画 “やかまし村の3つの家”	イロン・ヴィークランド画	1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
98	『やかまし村の子どもの日』挿絵原画 “シャスティンに朝のココアをもっていく”	イロン・ヴィークランド画	1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
99	『やかまし村の子どもの日』挿絵原画 “ニワトリにエサをやるシャスティン”	イロン・ヴィークランド画	1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
100	『やかまし村の子どもの日』挿絵原画 “シャスティンに仔牛をみせる”	イロン・ヴィークランド画	1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
101	『やかまし村の子どもの日』挿絵原画 “シャスティンをくるまにのせる”	イロン・ヴィークランド画	1961年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
102	『やかまし村の春』挿絵原画（リトグラフ）“かくれんぼ”	イロン・ヴィークランド画	1961年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
103	『やかまし村のクリスマス』挿絵原画“まきをはこぶ”	イロン・ヴィークランド画	1961年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
104	『やかまし村のクリスマス』挿絵原画 “ジンジャークッキーづくり”	イロン・ヴィークランド画	1961年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
105	『やかまし村のクリスマス』 挿絵原画“クリスマスの朝”	イロン・ヴィークランド画	1961年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
106	『ちいさいロッタちゃん』初版本	アストリッド・リンドグレー作、 イロン・ヴィークランド画	1958年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
107	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “おとなりとのさかいにある木のへいで”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
108	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “ピクニックにバムセをつれていくといいはるロッタ”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
109	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “みずうみでさかなつり”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
110	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “ことりの巣でたまごをみつける”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
111	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “おきわすれたバムセをみつける”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
112	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “汽車でいなかのおばあさんの家へ”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
113	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画“木の上の〈緑のべっそう〉”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
114	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “庭のすみのおもちゃの家で”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
115	『ちいさいロッタちゃん』 挿絵原画“雪だるまをつくる”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
116	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画“クリスマスのお買いもの”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
117	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “ジンジャー クッキーをつくる”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
118	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画 “クリスマスツリーをかざる”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
119	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画“サンタクロースとロッタ”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
120	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画“クリスマスの朝の星空”	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
121	『ちいさいロッタちゃん』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1958−1965年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
122	『ロッタちゃんのひっこし』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1997年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
123	『ロッタちゃんのひっこし』挿絵原画	イロン・ヴィークランド 画	1997年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
124	『ロッタちゃんのひっこし』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1997年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
125	『ロッタちゃんのひっこし』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1997年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
126	『ロッタちゃんのひっこし』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1997年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
127	『ロッタちゃんのひっこし』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1997年	イロン・ワンダーランド （ハープサル、エストニア）
128	『ロッタちゃんとクリスマスツリー』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1977年	アストリッド・リンドグレーン社 （ストックホルム、スウェーデン）
129	『ちいさいロッタちゃん』表紙原画	イロン・ヴィークランド画	1992年	セリエギャラリーエット （ストックホルム、スウェーデン）

130	『ペーテルとペトラ』挿絵原画	クリスティーナ・ディーグマン画	2007年	クリスティーナ・ディーグマン（スウェーデン）
131	『ペーテルとペトラ』挿絵原画	クリスティーナ・ディーグマン画	2007年	クリスティーナ・ディーグマン（スウェーデン）
132	『ペーテルとペトラ』挿絵原画	クリスティーナ・ディーグマン画	2007年	クリスティーナ・ディーグマン（スウェーデン）
133	『親指こぞうニルス・カールソン』表紙原画	イロン・ヴィークランド画	1970年代	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
134	『親指こぞうニルス・カールソン』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1973年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
135	『ミオよ わたしのミオ』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1954年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
136	『ミオよ わたしのミオ』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1954年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
137	『やねの上のカールソンとびまわる』挿絵原画（1996年、アストリッド・リンドグレーンのサイン入り）	イロン・ヴィークランド画	1962年	セリエギャラリーエット（ストックホルム、スウェーデン）
138	『やねの上のカールソンとびまわる』挿絵原画（1996年、アストリッド・リンドグレーンのサイン入り）	イロン・ヴィークランド画	1962年	セリエギャラリーエット（ストックホルム、スウェーデン）
139	『やねの上のカールソン』のためのスケッチ（未使用）	イロン・ヴィークランド画	1955年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
140	『小さいきょうだい』表紙原画	イロン・ヴィークランド画	1959年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
141	『小さいきょうだい』表紙原画	イロン・ヴィークランド画	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
142	『小さいきょうだい』表紙原画	イロン・ヴィークランド画	制作年不明	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
143	『雪の森のリサベット』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1983年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
144	『雪の森のリサベット』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1983年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
145	「エーミル」シリーズより着想を得たイラスト“馬ととりまきの人びと”（作者よりアストリッド・リンドグレーンへ寄贈）	ビョルン・ベルイ画	1971年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
146	『エーミルはいたずらっ子』より着想を得たイラスト“レンネベリヤへの道”（作者よりアストリッド・リンドグレーンへ寄贈）	ビョルン・ベルイ画	1967年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
147	『エーミルはいたずらっ子』より着想を得たイラスト“レンネベリヤへの道”（作者よりアストリッド・リンドグレーンへ寄贈）	ビョルン・ベルイ画	1985年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
148	『はるかな国の兄弟』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1973年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
149	『はるかな国の兄弟』挿絵原画	イロン・ヴィークランド画	1973年	イロン・ワンダーランド（ハープサル、エストニア）
150	「ボダイジュがかなでるとき」をテーマにしたオリジナル・イラスト（アストリッド・リンドグレーンの葬儀の案内状に使用）	イロン・ヴィークランド画	2002年	カーリン・ニイマン（ストックホルム、スウェーデン）

リンドグレーン作品へのトリビュート

作品番号	作品名	作家名	制作年	所蔵先
151	長くつ下のピッピ（ヴィンテージ）	リサ・ラーソン（グスタフスベリ社）	1969−1971年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
152	長くつ下のピッピ（新シリーズ）	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2016年−	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
153a−c	長くつ下のピッピ（新シリーズ） 試作	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2016年	リサ・ラーソン・デザイン
154	馬を持ち上げるピッピ	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2018年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
155a−c	馬を持ち上げるピッピ 試作	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2018年	リサ・ラーソン・デザイン
156	エーミル	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2017年−	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
157a−c	エーミル 試作	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2017年	リサ・ラーソン・デザイン
158	イーダ	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2018年	アストリッド・リンドグレーン社（ストックホルム、スウェーデン）
159a−c	イーダ 試作	リサ・ラーソン（ケラミック・スタジオ、グスタフスベリ）	2018年	リサ・ラーソン・デザイン
160	『山賊の娘ローニャ』メインビジュアル		2014年	NHK
161	『山賊の娘ローニャ』カラーイメージ		2014年	NHK
162−164	『山賊の娘ローニャ』城のイメージスケッチ（ 複製）	宮崎吾朗画	2014年	NHK
165−168	『山賊の娘ローニャ』森のイメージスケッチ（ 複製）	宮崎吾朗画	2014年	NHK
169−a,b	『山賊の娘ローニャ』森の背景美術		2014年	NHK

コレクション特別展
松山藩御用絵師列伝

会　　期： 令和元年 11 月 23 日（土・祝）－令和 2 年 1 月 13 日（月・祝）（40 日間）
主　　催： 愛媛県美術館
会　　場： 愛媛県美術館　常設展示室１・２

趣　　旨

松山城三之丸跡（堀之内・城山公園）に位置する愛媛県美術館では、開館以来、歴代の伊予松山藩主に仕えた御用絵師たちについて、調査研究・作品収集を精力的に進めてきた。本展は、その成果を初めて一堂に紹介するもので、知られざる御用絵師たちの画業に触れるとともに、近世の伊予松山に花開いた文雅の気風を支えた彼らの姿に思いをはせるべく、当館コレクションを中心に寄託品も交えた約50件を展示した。

観覧者数：9,624名

関連行事

講演会Ⅰ「松山藩御用絵師列伝とその系譜」
日　　時：12月15日（日）　14：00～15：30
講　　師：矢野徹志（里山人）（美術史家、元・愛媛県立美術館学芸員）
場　　所：美術館　研修室
参加人数：42名

講演会Ⅱ「《松山城下図屏風》と松平定直」
日　　時：１月11日（土）　14：00～15：30
講　　師：井上淳（愛媛県歴史文化博物館学芸課長）
場　　所：美術館　研修室
参加人数：35名

土曜講座「Who's that 御用絵師？」
日　　時：①12月７日（土）
「御用絵師とは何だったのか？」
②12月14日（土）
「松本山雪と江戸前期の画壇」
各日14：00～15：00
講　　師：①五味俊晶（当館学芸員）
②長井　健
（当館専門学芸員・学芸G担当係長）
場　　所：美術館　ハイビジョンギャラリー
参加人数：①13名　②22名

学芸員によるフロアレクチャー
日　　時：11月23日（土・祝）、１月４日（土）
各日14：00～15：00
場　　所：美術館　企画展示室
参加人数：延44名

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法・形状	寸法（縦×横:cm）	所蔵（表記がないものは当館蔵）	備考
1	松本山雪	製茶風俗図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一双	各161.5×360.0		愛媛県指定有形文化財
2	松本山雪	雄鶏図	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・軸	110.5×51.6		
3	松本山雪	野馬図	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・軸双幅	各100.4×44.5	個人蔵（寄託作品）	
4	松本山雪	馬図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一隻	各108.0×51.0		
5	松本山雪	野馬図押絵貼屏風	江戸時代前期	紙本墨画・六曲屏風一双のうち左隻	各図131.5×53.5	個人蔵（寄託作品）	松山市指定有形文化財
6	松本山雪	山水図	江戸時代前期	紙本墨画・軸双幅	各100.0×43.8	個人蔵（寄託作品）	
7	松本山雪	諸芸遊楽図屏風	江戸時代前期	紙本着色・六曲屏風一双	各143.0×357.2	個人蔵（寄託作品）	
8	松本山雪	枯木叭々鳥図屏風	江戸時代前期	紙本金地墨画・六曲屏風一隻	150.7×352.8	個人蔵（寄託作品）	
9	松本山雪	龍虎花鳥山水人物図押絵貼屏風	寛文9年（1669）頃	紙本着色・六曲屏風一双のうち左隻	各図126.5×54.4	個人蔵（寄託作品）	
10	松本山月	七福神図	江戸時代前期	紙本墨画淡彩・軸	44.7×82.0	個人蔵（寄託作品）	
11	豊田随園	蘇軾騎驢図	享保16年（1731）	絹本墨画・軸	91.6×27.0	個人蔵（寄託作品）	
12	豊田随園	鍾馗図	江戸時代中期	紙本墨画・軸	74.5×35.8		
13	豊田随園	花鳥図押絵貼屏風	江戸時代中期	紙本墨画淡彩・六曲屏風一双のうち右隻	各図128.3×47.8		
14	豊田随園	花鳥人物図押絵貼屏風	江戸時代中期	紙本墨画淡彩・六曲屏風一双のうち左隻	各図132.5×53.6	個人蔵（寄託作品）	
15	武井周発	花鳥図屏風	江戸時代中期	紙本金地着色・六曲屏風一隻	87.3×224.0	個人蔵（寄託作品）	
16	武井周発	山水図屏風	江戸時代中期	紙本着色・六曲屏風一隻	108.0×237.0		
17	武井周発	山水図	江戸時代中期	紙本着色・軸	104.5×42.6		
18	武井周発	双鶴図	宝暦13年（1763）	絹本墨画・軸双幅	各113.2×39.5	個人蔵（寄託作品）	
19	武井周発	寿老人・龍・鯉図	宝暦9年（1759）	絹本墨画・軸三幅対	各113.2×39.5	個人蔵（寄託作品）	
20	武井周発	雲龍図押絵貼屏風	江戸時代中期	紙本墨画・六曲屏風一隻	各図131.0×56.6		
21	武井周発	唐美人図屏風	宝暦13年（1763）	紙本金地着色・六曲屏風一双	各172.0×378.0		
22	豊田随可	五節句之図	江戸時代中期	紙本着色・軸	各119.8×49.7		
23	豊田随可	松鷹図	江戸時代中期	絹本着色・軸双幅	各112.0×29.8	個人蔵（寄託作品）	
24	豊田随可	竹虎図	江戸時代中期	絹本墨画・軸双幅	各105.6×39.0	個人蔵（寄託作品）	
25	豊田随可	旭丹頂・月黒鶴	江戸時代中期	紙本着色・軸双幅	各114.2×71.6	個人蔵（寄託作品）	
26	遠藤広古	雅経卿の歌意	江戸時代後期	絹本着色・軸	82.1×38.6		
27	遠藤広古	架鷹図	江戸時代後期	紙本着色・軸双幅	各108.6×43.2		
28	遠藤広古	紅葉鹿図	江戸時代後期	絹本着色・軸	73.5×25.7	個人蔵（寄託作品）	
29	遠藤広古	猿田彦神図	江戸時代後期	紙本着色・軸	86.9×27.4	個人蔵（寄託作品）	
30	遠藤広古	富士図	文化5年（1808）	紙本墨画・額	56.7×119.8		
31	遠藤広古	富士図（賛・太田南畝）	江戸時代後期	紙本墨画・幅	24.4×53.6	個人蔵（寄託作品）	
32	遠藤広古	模本類	江戸時代後期	紙本墨画・まくり	縦30.6　ほか	個人蔵（寄託作品）	
33	遠藤広実	拾得図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩・軸	128.5×43.0		
34	遠藤広実	関羽図	文化2年（1784）	紙本着色・軸	118.6×25.2		
35	遠藤広実	南天に仔犬図	江戸時代後期	紙本着色・軸	91.5×33.0	個人蔵（寄託作品）	
36	遠藤広実	楽師図	嘉永6年（1850）	紙本着色・軸	81.0×33.7	個人蔵（寄託作品）	
37	遠藤広実	犬追物図	江戸時代後期	絹本着色・軸	54.2×80.0	個人蔵（寄託作品）	
38	遠藤広実	十六羅漢図	江戸時代後期	絹本着色・軸	91.7×43.0		
39	遠藤広実	貴人観楓図	江戸時代後期	絹本着色・軸	81.3×31.6		
40	遠藤広実	源氏物語図	弘化元-2年（1844-45）	絹本着色・軸双幅	各90.0×32.0		下村観山旧蔵
41	遠藤広実	吉野・龍田図	安政3年（1856）	絹本着色・軸双幅	各95.5×30.2		
42	遠藤広実	桜山人物図	弘化元年（1844）	絹本着色・軸	110.6×44.2	個人蔵（寄託作品）	
43	遠藤広実	邸内貴人図	安政3年（1856）	絹本着色・軸	114.8×47.0	個人蔵（寄託作品）	
44	安倍晴洋	雪柳雀図	江戸時代後期	紙本墨画淡彩・軸	131.5×52.0	個人蔵（寄託作品）	
45	安倍晴洋	龍虎図	江戸時代後期	絹本墨画・軸双幅	各119.0×32.4	個人蔵（寄託作品）	
46	安倍晴洋	吉野・龍田図	江戸時代後期	絹本着色・軸双幅	各127.4×50.5	個人蔵（寄託作品）	
47	荻山雅弘	春江帆船図	江戸時代後期～明治時代初期	絹本着色・軸	98.0×36.0	個人蔵（寄託作品）	
48	荻山雅弘	掛花図	江戸時代後期～明治時代初期	絹本着色・軸	107.1×38.4	個人蔵（寄託作品）	
49	荻山雅弘	立雛図	江戸時代後期～明治時代初期	絹本着色・軸	38.6×94.3	個人蔵（寄託作品）	
50	荻山雅弘	瀧に鷹図	江戸時代後期～明治時代初期	絹本着色・軸	117.0×38.9	個人蔵（寄託作品）	
51	荻山雅弘	海岸山岩屋寺図	江戸時代後期～明治時代初期	紙本淡彩・巻子	41.2×135.5	個人蔵（寄託作品）	
52	荻山雅弘	模本類	江戸時代後期	紙本墨画・まくり	41.0×135.0ほか	個人蔵（寄託作品）	

Ⅲ　作品の収集事業及び保存管理

1　収集方針（愛媛県美術館収集方針）

趣旨

古代から瀬戸内海交通の要所として栄え、これまで多くの文人・画家の輩出や来訪があった愛媛の地は、瀬戸内海の島々や石鎚山などの豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、温厚できめ細かな県民性を育んだ。このような歴史と風土から生まれた愛媛の伝統的な文化を受け継ぎながら、豊かで個性的な愛媛の芸術文化を創造するため、愛媛ならではの特色ある収集を行う。

収集分野

日本画、洋画、版画、デザイン、書ほかの平面作品、彫塑、工芸ほかの立体作品、写真、ビデオほかの映像作品等を含む。

基本方針

（1）国内外の優れた作品の鑑賞を通して、県民の審美眼や美意識の涵養を図るため、美術史上重要な作家及びその動向を知る上で欠くことのできない作家の作品及び関連資料を収集する。
（2）本県出身作家及び本県ゆかりの作家を顕彰することにより、本県美術の流れを県民に理解していただくため、本県出身作家及び関連作家の作品並びに関連資料を収集する。

重点方針

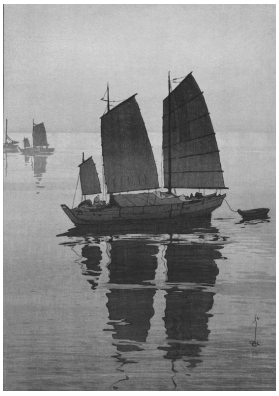
（1）国内外の優れた作品
　ア　19世紀以降現代にいたる美術史の流れを辿れる国内外の優れた作品を中心に収集する。さらに近代の作品をより広い視野でとらえるために18世紀以前の作品も収集の対象とする。
　イ　今日という時代を刻印する作品を収集する。
（2）本県出身作家及び関連作家の作品と関連資料
　ア　松本山雪を基点として、関連する近世絵画を収集する。
　イ　大智勝観、矢野橋村をはじめ、関連する近代日本画を収集する。
　ウ　中川八郎、中野和高、野間仁根らをはじめ、関連する絵画を収集する。
　エ　日本の前衛美術における柳瀬正夢の位置を重視し、その作品及び関連する作品等を収集する。
　オ　グラフィックデザイン史に足跡を残した杉浦非水の作品及び関連する作品等を収集する。

2　取得作品の概要

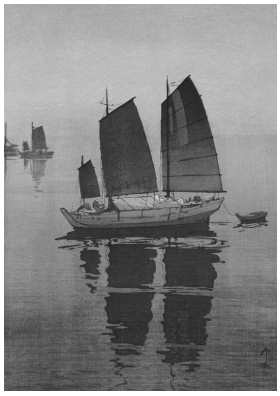
寄贈作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)
1	吉田博	『瀬戸内海集』のうち《帆船　夕》	大正15年(1926)	木版・紙	54.3×38.9
2	吉田博	『瀬戸内海集』のうち《帆船　午前》	大正15年(1926)	木版・紙	55.6×40.7
3	真鍋博	(静物)	昭和27年(1952)	油彩・画布	41.3×52.8
4	真鍋博	(風景)	1950年代	油彩・画布	37.4×45.0
5	真鍋博	《吉田夏彦「人間の自画像―機械」挿図原画》(『最新 現代国語3』1981年、教育出版株式会社、174頁)	昭和56年(1981)	紙、インク、コラージュ、フィルム、墨、TP2枚(鉛筆、色鉛筆)	27.6×20.1
6	真鍋博	《吉田夏彦「人間の自画像―機械」挿図原画》(『最新 現代国語3』1981年、教育出版株式会社、180頁)	昭和56年(1981)	紙、インク、コラージュ、フィルム、墨、TP2枚(鉛筆、色鉛筆)	27.7×19.6
7	真鍋博	《吉田夏彦「人間の自画像―機械」挿図原画》(『最新 現代国語3』1981年、教育出版株式会社、187頁)	昭和56年(1981)	紙、インク、コラージュ、フィルム、墨、TP2枚(鉛筆、色鉛筆)	27.2×19.7
8	柳瀬正夢	裸婦	昭和12年(1937)頃	鉛筆、コンテ・紙	27.7×37.0
9	安藤義茂	花飾りの少女	昭和33年(1958)	刀画(モノクロ)・紙	13.6×8.6
10	古茂田守介	自画像		インク・紙	35.5×26.5
11	古茂田杏子	こっちの水はあまいぞ、あっちの水はにがいぞ	平成9年(1997)	エッチング・紙	20.0×30.0
12	安倍安人	裸婦	平成17年(2005)	鉛筆・紙	29.0×40.0
13	髙階重紀	作品	昭和27年(1952)	油彩・画布	97.0×130.3
14	髙階重紀	作品	昭和51年(1976)	油彩・画布	130.3×97.0
15	髙階重紀	作品R	昭和55年(1980)	油彩・画布	130.3×162.0
16	牧田嘉一郎	卓上の花	昭和8年(1933)	油彩・画布	90.9×72.7
17	森田樵眠	山水人物花鳥図屏風	江戸時代末期	紙本着色・二曲屏風六隻押絵貼	各図126.0×51.0

寄贈作品



1　吉田　博
帆船　夕（『瀬戸内海集』より）
大正15年（1926）
木版・紙
54.3×38.9cm



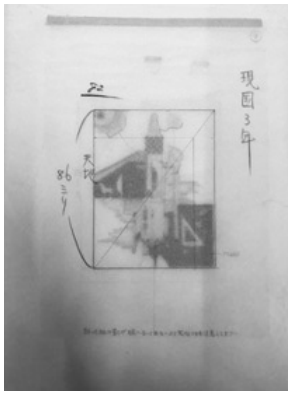
2　吉田　博
帆船　午前（『瀬戸内海集』より）
大正15年（1926）
木版・紙
55.6×40.7cm

3　真鍋　博
〔静物〕
昭和27年　（1952）
油彩・画布
41.3×52.8cm

4　真鍋　博
〔風景〕
1950年代
油彩・画布
37.4×45.0cm

5　真鍋　博
《吉田夏彦「人間の自画像―機械」挿図原画》（『最新 現代国語3』1981年、教育出版株式会社、174頁）
昭和56年（1981）
紙、インク、コラージュ、フィルム、墨、ＴＰ2枚（鉛筆、色鉛筆）
27.6×20.1cm

6　真鍋　博
《吉田夏彦「人間の自画像―機械」挿図原画》（『最新 現代国語3』1981年、教育出版株式会社、180頁）
昭和56年（1981）
紙、インク、コラージュ、フィルム、墨、ＴＰ2枚（鉛筆、色鉛筆）
27.7×19.6cm



7　真鍋　博
《吉田夏彦「人間の自画像―機械」挿図原画》
（『最新 現代国語3』1981年、教育出版株式会社、187頁）
昭和56年（1981）
紙、インク、コラージュ、フィルム、墨、ＴＰ2枚（鉛筆、色鉛筆）
27.2×19.7cm

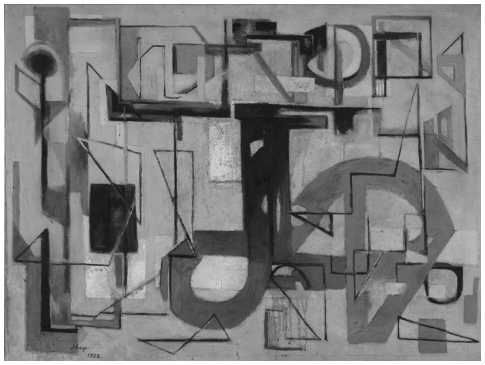
8　柳瀬正夢
裸婦
昭和12年（1937）頃
鉛筆、コンテ・紙
27.7×37.0cm

9　安藤義茂
花飾りの少女
昭和33年（1958）
刀画（モノクロ）・紙
13.6×8.6cm

10　古茂田守介
自画像
インク・紙
35.5×26.5cm

11　古茂田杏子
こっちの水はあまいぞ、あっちの水はにがいぞ
平成9年（1997）
エッチング・紙
20.0×30.0cm

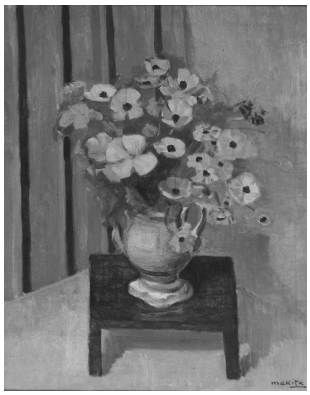
12　安倍安人
裸婦
平成17年（2005）
鉛筆・紙
29.0×40.0cm



13　髙階重紀
作品
昭和27年（1952）
油彩・画布
97.0×130.3cm

14　髙階重紀
作品
昭和51年（1976）
油彩・画布
130.3×97.0cm

15　髙階重紀
作品R
昭和55年（1980）
油彩・画布
130.3×162.0cm



16　牧田嘉一郎
卓上の花
昭和8年（1933）
油彩・画布
90.9×72.7cm

17　森田樵眠
山水人物花鳥図屏風
江戸時代末期
紙本着色・二曲屏風六隻押絵貼
各図 126.0×51.0cm

3　収蔵作品数

分　　野	～平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末	平成23年度末	平成24年度末	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末	令和元年度	合計
日　本　画	437点		64点	10点	110点	2点	26点	6点	1点	24点	17点	1点	698点
海外絵画	9点												9点
油　彩　画	549点	7点	86点	10点		13点	4点		10点	9点		6点	694点
水　彩　画	113点		4点		1点	11点	2点		7点				138点
素　　描	223点		11点			2点						4点	240点
版　　画	456点	235点	29点		16点		14点			1点	81点	3点	835点
書	302点		5点		1点								308点
彫　　塑	33点	5点		2点									40点
工　　芸	44点		1点	1点									46点
写　　真	36点	1点	3点	3点									43点
立体･インスタレーション	17点	2点	10点	4点	18点	6点		3点					60点
デ ザ イ ン	71点					3点	7点						81点
そ　の　他	8,542点						15点		308点			3点	8,868点
計	10,832点	250点	213点	30点	146点	37点	68点	9点	326点	34点	98点	17点	12,060点

4　保存・修復

(1) 収蔵庫燻蒸

内　　容　：　専門業者によるブンガノンＶＡ及びエコミュアーＦＴの薬剤噴霧
期　　間　：　令和元年６月27日
場　　所　：　地階　収蔵部門　収蔵庫１　計908㎡

内　　容　：　専門業者によるブンガノンＶＡ及びエコミュアーＦＴの薬剤噴霧
期　　間　：　令和２年３月17日
場　　所　：　１階　収蔵部門　一時保管庫　77㎡

(2) 収蔵庫清掃

内　　容　：　学芸員の当番制及び博物館実習生による清掃作業（年４回）
場　　所　：　地階　収蔵前室、収蔵庫１・２・３、撮影室、作業室

(3) 館蔵品の修復

内　　容　：　専門業者による修復

No.	作家名	作品名	修復前状態	修復処置	修復場所	修復期間
1	吉田勝彦	《午後の一隅》ほか12点	未マット装	ブックマット装	美術館	令和元年7月1日～8月1日
2	吉田勝彦	《ララバイ（謙介に…）》ほか22点	未マット装	ブックマット装	美術館	令和元年10月30日～11月20日
3	畦地梅太郎	《八幡浜劇場》ほか11点	未マット装	ブックマット装	美術館	令和2年1月6日～1月24日

5　館蔵品貸出状況 令和元年度

作　家　名	作　品　名	貸　出　先	展　覧　会　名	貸出期間
杉浦非水	『非水創作図案集』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
杉浦非水	『非水百花譜』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
杉浦非水	スケッチ（浅間山）	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
杉浦非水	スケッチ （昭和22年8月14日12時25分位噴火）	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
杉浦非水	浅間山噴火	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
	アルバム〔日本〕	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
	アルバム〔フランス留学時代〕	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
	『外国文字集』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
	『名物控帳』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
	『日録代辯』	東京国立近代美術館	イメージコレクター・杉浦非水展	2019.1.31−6.5
	杉浦非水関連資料（顔料8点）	愛媛県総合科学博物館	周期表発見50年　元素のマトリクス 星々から生命への贈り物	2019.2.8−4.16
杉浦非水・翠子	合作色紙（ふもとが村に…）	愛媛県総合科学博物館	周期表発見50年　元素のマトリクス　星々から生命への贈り物	2019.2.8−4.16
森盲天外	美円百光妙霊千化	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
吉田蔵澤	月竹図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
三輪田米山	和歌（ほととぎす…）	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
下村為山	風竹図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
下村為山	孟冬・墨竹に琵琶の花	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
野間仁根	田舎の家族	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
野間仁根	兄弟と昆虫	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
村上三島	王羲之　蘭亭敍	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
正岡子規	河東碧梧桐宛書簡 （明治29年12月11日付）	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
建畠大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
槙江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2019.3.1−2020.3.4
高橋貞次	備前伝刀	林原美術館、刀剣博物館、坂城町鉄の展示館	平成の名刀・名工展	2019.3.7−2020.2.28
高橋貞次	相州伝脇差	林原美術館、刀剣博物館、坂城町鉄の展示館	平成の名刀・名工展	2019.3.7−2020.2.28
クロード・モネ	アンティーブ岬	文化協力公施設法人ジヴェルニー印象派美術館	モネ−オービュルタン、芸術の出会い	2019.3.11−7.18
須田国太郎	杉	三之瀬御本陣芸術文化館	京都洋画壇の三巨匠　須田国太郎と安井曾太郎・梅原龍三郎	2019.4.6−6.16
安井曾太郎	樹蔭	三之瀬御本陣芸術文化館	京都洋画壇の三巨匠　須田国太郎と安井曾太郎・梅原龍三郎	2019.4.6−6.16
梅原龍三郎	裸婦	三之瀬御本陣芸術文化館	京都洋画壇の三巨匠　須田国太郎と安井曾太郎・梅原龍三郎	2019.4.6−6.16

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
岩田壮平	花の形（寄託作品）	香川県立東山魁夷せとうち美術館	植物の力 The Power of Plants　拡大する日本画 岩田壮平　浅見貴子	2019.4.24−6.13
岩田壮平	六々魚（寄託作品）	香川県立東山魁夷せとうち美術館	植物の力 The Power of Plants　拡大する日本画 岩田壮平　浅見貴子	2019.4.24−6.13
ウジェーヌ=ルイ・ブーダン	ブレスト、停泊地	山梨県立美術館、島根県立美術館、神戸市立小磯記念美術館	黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019.6.4−2020.2.15
中川八郎	東横堀	山梨県立美術館、島根県立美術館、神戸市立小磯記念美術館	黄昏の絵画たち 近代絵画に描かれた夕日・夕景	2019.6.4−2020.2.15
近藤英樹	発芽／再生の種	ミウラート・ヴィレッジ	Up And Coming展 ～輝け!えひめの挑戦者たちⅡ	2019.7.1−9.14
近藤英樹	発芽／種子の記憶（寄託作品）	ミウラート・ヴィレッジ	Up And Coming展 ～輝け!えひめの挑戦者たちⅡ	2019.7.1−9.14
正岡子規	梅花	松山市立子規記念博物館	子規と草花　命の輝き	2019.7.27−9.10
杉浦非水（装丁）	あやめ会著『あやめ草』	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水（表紙）	『みつこしタイムス』8巻5号	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水（表紙）	『三越』2巻2号	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水	光風会洋画図按展覧会	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水（表紙）	『文章世界』3月号	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水（装丁）	菊池幽芳著『百合子』上・中・下	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水	三越呉服店　春の新柄陳列会	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水	三越呉服店　新館落成	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水	三越呉服店（エンゼル）	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水	『非水の図案』	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
杉浦非水	南満州鉄道株式会社	千葉市美術館、和歌山県立近代美術館、岡山県立美術館、静岡市美術館	日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオリルク	2019.8.24−2020.6.8
正岡子規	年賀名刺	岡山県立博物館	正岡子規と仲間たち	2019.12.11−2020.2.27
正岡子規	承露盤	岡山県立博物館	正岡子規と仲間たち	2019.12.11−2020.2.27
正岡子規	子規と碧梧桐の句の合作	岡山県立博物館	正岡子規と仲間たち	2019.12.11−2020.2.27
正岡子規	俳句（雪解けや町を走らす裸馬）	岡山県立博物館	正岡子規と仲間たち	2019.12.11−2020.2.27

作家名	作品名	貸出先	展覧会名	貸出期間
正岡子規	長塚節宛書簡	岡山県立博物館	正岡子規と仲間たち	2019.12.11−2020.2.27
マックス・ペヒシュタイン	祭日の焼肉を射る	栃木県立美術館	山田耕作と美術	2019.12.17−2020.4.10
マックス・ペヒシュタイン	水浴する人々	栃木県立美術館	山田耕作と美術	2019.12.17−2020.4.10
真鍋博	MARCH	愛媛国際映画祭実行委員会	第1回愛媛国際映画祭	2020.1.19
真鍋博	潜水艦カシオペア	愛媛国際映画祭実行委員会	第1回愛媛国際映画祭	2020.1.19
真鍋博	宇宙鳥	愛媛国際映画祭実行委員会	第1回愛媛国際映画祭	2020.1.19
真鍋博	追跡	愛媛国際映画祭実行委員会	第1回愛媛国際映画祭	2020.1.19
近藤篤山	諸葛武候戒子書	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
吉田蔵澤	蘭	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
三輪田米山	十字句（暖日生花気豊年…）	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
下村為山	山水之図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
下村為山	柿に雀之図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
野間仁根	星座アンドロメダ	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
野間仁根	昆虫	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
村上三島	元禛　鄂州寓巖潤宅詩	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
建畠大夢	白井雨山像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
土井要輔	子規坐像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
槙江山	義農作兵衛像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
佐々木二六	鐘馗	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
横江嘉純	秋山大将騎馬像	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
秋山好古	達磨図	愛媛県生涯学習センター	愛媛人物博物館常設展示	2020.3.4−2021.3.31
楠井岑昌	ある家族	県民文化会館	ロビー、応接室、会議室展示	2020.3.9−2021.3.7
土田次枝	黄色いテーブル	県民文化会館	ロビー、応接室、会議室展示	2020.3.9−2021.3.7
服部知佳	Fish road	県民文化会館	ロビー、応接室、会議室展示	2020.3.9−2021.3.7
森の樂人	野間仁根	県民文化会館	ロビー、応接室、会議室展示	2020.3.9−2021.3.7
田中敏治	照	県民文化会館	ロビー、応接室、会議室展示	2020.3.9−2021.3.7
竹内節美	わらべ詩	県民文化会館	ロビー、応接室、会議室展示	2020.3.9−2021.3.7

Ⅳ　調査研究事業

下記のテーマで調査研究を行った。

八木誠一 学芸課長

テーマ：公立博物館等における友の会組織の現状と課題

内　容：　当館における友の会組織の改善に資するため、全国の友の会等一般県民の有志組織を持つ公立美術館等を対象に、実施母体や会費、サービス内容などの現状や課題などの聞き取り調査を継続して行い、よりよい運営のあり方について考察した。

長井健 学芸グループ担当係長

テーマ：松山藩を中心とした近世伊予各藩の御用絵師研究、伊予地方の宗教美術研究、杉浦非水と日本のアール・デコ

内　容：

【松山藩を中心とした近世伊予各藩の御用絵師研究】

近年、精力的に進めている近世伊予ゆかりの絵師の調査研究について、本年度も継続的に実施した。特に松山藩については、その成果として、コレクション特別展「松山藩御用絵師列伝」を開催した。

【伊予地方の宗教美術研究】

将来的な企画展開催などを見越して、県内各自治体の仏教・神道美術関係の資料の分布状況や状態について調査研究を行った。

【杉浦非水と日本のアール・デコ】

杉浦非水が近代日本のグラフィックデザイン創成期に果たした役割を検証し、特に、渡欧経験により得たヨーロッパのデザインの様式と理念を、どのように日本に紹介して、いわば「日本のアール・デコ」が展開していったかの調査研究を行った。

武田信孝　専門学芸員

テーマ：欧米と日本を中心とした近現代美術史、工芸デザイン史

内　容：　土曜講座で「モネ《アンティーブ岬》の里帰り」と題し、当館所蔵品のフランス・ジヴェルニー印象派美術館への貸付について、クーリエ用務（平成31年３月11日－17日）の実務経験に基づき紹介した。

令和元年度企画展「国立トレチャコフ美術館所蔵　ロマンティック・ロシア」の開催にあたり、同展関連行事として、「ロシア近代絵画の巨匠クラムスコイの魅力にせまる」と題し土曜講座の講義を行い、マンデー・ショート・レクチャーの講師を18回務め、同展を観覧する団体対象の講座の講師を３回務めた。

開館記念日にあたり、「展示空間ができるまで」と題し西洋美術の展示の実演を行い、学芸員体験講座「作品点検」の講師を２回務めた。

『愛媛県美術館平成30年度年報・研究紀要第18号』（令和２年３月発行）に展覧会評「アングルとナポレオン時代の美術活動展」を寄稿した。

杉山はるか 専門学芸員

テーマ：マウリッツ・コルネリス・エッシャーと当館コレクションとの関連について、県内外の現代作家に関する調査研究

内　容：

【マウリッツ・コルネリス・エッシャーと当館コレクションとの関連について】

エッシャー展の実施に際し、杉浦非水を始めとする平面分割などエッシャー作品との類似がみられる作品や、国内におけるエッシャーの受容に大きな役割を果たした『週刊少年マガジン』での真鍋博の連載について調査しエッシャー展の一コーナーやコレクション展で紹介した。

【県内外の現代作家に関する調査研究】

前年度収蔵した版画家・吉田勝彦の作品を2期に分けてコレクション展で公開するに当たり、その作家活動全般について改めて検証し、講座等を行った。また作家自身によるトークイベントと公開制作を行い、作家に関する認識をより深めた。畦地梅太郎展開催に際し、書籍関連の仕事に着目

した作家略歴を作成するなど全般的な研究を行った。当館収蔵作家でもある版画家・木下恵介の個展開催に際し寄稿した。

五味俊晶 学芸員

テーマ：日本画についての調査研究

内　容：

【千住博に関わる調査研究】

千住博の作品調査を行い、本年度の企画展示へとつなげた。使用顔料や制作手法などについて作家本人や関係者への聞き取りを実施し、作品制作の理解を深めた。

【真鍋博研究】

愛媛県出身のイラストレーター・真鍋博のコレクションを整理・調査し、来年度の特別展に関わる準備を進めた。島根県立美術館での関連作品調査を行い、その成果を研究紀要に発表した。

二宮茂樹 普及グループ担当係長

テーマ：友の会組織の現状と課題

内　容：　友の会会員制度の周知について、学校訪問、県庁掲示板、社会教育団体等での説明等、広報手段の有効活用について引き続き研究を行った。企業等へ訪問し、福利厚生面の充実の方策の一つとして愛媛県美術館友の会への入会についての説明を行った。友の会の案内のチラシ、ポスターについては従来の形式に加え新規の形式を作成し、掲示場所等効果的な周知の方法について検討し試行した。会費の増額による会員数の変動を注視すべき年度でもあるため、会員数の変動をグラフ化し、効果的な周知の方法についても検証をした。

鈴木有紀 専門学芸員

テーマ：「対話」を軸とした常設展示活動の研究

内　容：

【対話を軸とした常設展示活動の研究】

平成27年度～30年度まで実施したえひめ「対話型授業」プロジェクトで得た知見をもとに、常設展示室内で行う「対話的」な活動について実践・模索した。

高木学 教育専門員

テーマ：美術作品への関心を高めるセルフガイドの活用について

内　容：　展示作品について興味を持って鑑賞できるツールとしてのセルフガイドについて調べた。対象とする年齢に応じて発問や活用方法を変えるなど、作品に興味が向かうような工夫があり、それらを参考に小中学校向けに、展示作品と学習内容を結び付けることができる内容のチラシを作成した。今後は、一つ一つの作品を深く鑑賞することのできるセルフガイドの作成を行いたい。

石﨑三佳子 専門学芸員

テーマ：創作活動プログラム、視覚障がい者の美術館利用について

内　容：　創作活動プログラムについては、講座や学校対応、出前ワークショップなどの創作活動を実施するにあたり、対象や目的に適した素材調査や作業工程を検討し、実践した。

視覚障がい者との美術鑑賞や視覚障がい者の美術館利用を検討するため、先進館の取り組みの情報収集を行った。

田代亜矢子 専門学芸員

テーマ：美術館の教育普及活動、技法について

内　容：　創作では、フェルト制作を簡易に行えるように工夫し、講座において小学生から募集し座布団を作成、障がい児はポシェットの制作を行った。

次年度の文化庁事業「みることを考える」で活用するため、触図の試作を行い、視覚障がい者の受け入れWSで活用し改善を図った。

また、昨年度より続けている職場体験やインターンシップ等での受け入れに際し、美術館において自発的な学びの提供プログラム「展示室のひみつ」の改善、試行を繰り返した。

Ⅴ　教育普及事業

1　普及啓発事業

⑴　連続講座

①染め・絞り

内　　容　紙や布を使って絞り体験を行った。
講　　師　田代亜矢子専門学芸員
日　　時　5/12（日）・26（日）　各13：30～15：00
募集対象　一般 12名
受講人数　延　16　名

②めかくしアートゲーム

内　　容　二人一組となり、目隠しをして、作品がみえない人に何が描かれているか伝えるゲームを行った。そして、どうしたら一緒に作品を楽しめるかを探った。
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
日　　時　7/21（日）・8/11（日）　各13：30～14：30
募集対象　小学生　12名
受講人数　延　20　名

③紙粘土でオリジナルマトリョーシカをつくろう！

内　　容　粘土でロシア人形マトリョーシカづくりに挑戦した。
講　　師　高木学教育専門員
日　　時　9/8（日）・22（日）　各13：30～15：30
募集対象　小学生以上　15名
受講人数　延　54　名

④丸く織った座布団をつくろう！

内　　容　原毛を緯糸替わりに織入れて、暖かい丸い座布団を創った。
講　　師　田代亜矢子専門学芸員
日　　時　11/3（日）・4（月）　各13：00～16：00
募集対象　小学生以上　12名
受講人数　延　16　名

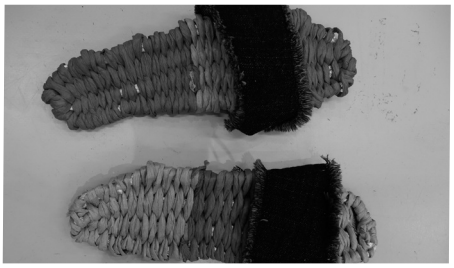
⑤糸からランプシェードづくり　～まんまるのやさしい光～

内　　容　糸を使ってランプシェードづくりに挑戦した。
講　　師　高木学教育専門員
日　　時　1/26（日）・2/2（日）　各13：30～15：00
募集対象　小学生以上　10名
受講人数　延　25　名

⑥企画展講座　畦地の山と、畦地の本
内　　容　郷土の版画家・畦地梅太郎の魅力について連続講座で迫るという内容だったが、コロナウイルス感染症対策のため中止した。
講　　師　喜安嶺学芸員
日　　時　３/７（土）・３/28（土）　14：00～15：00
募集対象　一般　30名
受講人数　―　名

⑵　一日講座（両日、同じ内容を実施）

①自然のオクリモノはタカラモノ
内　　容　堀之内公園で自然からのオクリモノ（葉っぱや小枝、石など）を探し、レイアウトして宝箱をつくった。
講　　師　石﨑三佳子専門学芸員
日　　時　５/２（木）・３（金）　各10：30～12：00
募集対象　幼児以上（各15名）※幼児は保護者同伴
受講人数　延　28　名



②紙糸でつくる籠・ぞうり
内　　容　カラフルな紙糸を使って、ぞうりと籠をつくった。
講　　師　田代亜矢子専門学芸員
日　　時　①ぞうりをつくろう６/16（日）
②籠をつくろう８/４（日）　各13：30～15：30
募集対象　一般　各12名
受講人数　延　15　名

③Tシャツにプリントしよう！
内　　容　自分のデザインをシルクスクリーンでTシャツにプリントし、オリジナルTシャツをつくった。
講　　師　石﨑三佳子専門学芸員
日　　時　６/２（日）・30（日）　各10：00～16：00
募集対象　小学４年生以上　各８名
受講人数　延　13　名

④ピンホールシネマで不思議体験！
内　　容　段ボールで作ったピンホールカメラを頭に被り、逆さまに映る不思議な空間を楽しんだ。
講　　師　二宮茂樹担当係長
日　　時　７/７（日）・28（日）
各13：30～15：30
募集対象　親子　各10組
受講人数　延　38　名

⑤白紙クルクルを飛ばそう
内　　容　白い紙で「飛ぶ種」の模型を折ってエントランスで飛ばし、楽しんだ。
講　　師　田代亜矢子専門学芸員
日　　時　10/13（日）・１/13（日）　各13：30～14：30
募集対象　だれでも参加可
受講人数　延　100　名

⑥白で描こう

内　　容　白い絵具で描いた絵にブラックライトを当てて、表現を楽しんだ。
講　　師　石﨑三佳子専門学芸員
日　　時　11/24（日）・12/１（日）
　　各13：30～16：00
募集対象　小学生以上　各12名
受講人数　延　15　名

⑦ウォールデコに挑戦

内　　容　トイレットペーパーの芯を使って、ウォールデコレーション作りに挑戦した。
講　　師　二宮茂樹担当係長
日　　時　12/15（日）・２/16（日）　各13：30～15：30
募集対象　小学４年生以上　各15組
受講人数　延　21　名

⑧たんけん・はっけん・畦地梅太郎展

内　　容　恒例のたんけんシリーズ第12弾。「畦地梅太郎」の世界を指令書をもとに考える企画だったが、コロナウイルス感染症対策のため中止した。
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
日　　時　３/１（日）・８（日）・15（日）・22（日）・29（日）
　　各 10：30～15：00
募集対象　だれでも参加可
受講人数　―　名

⑶　土曜講座

内　　容　学芸員の調査・研究活動の成果や日々の美術館での活動について紹介する。
講　　師　当館学芸課職員
日　　時　土曜日　各14：00～（他のイベント開催時は休止）
参加人数　延　824　名（開催回数　35回）※３月予定していた４回は感染防止のため中止

No.	開催日	講　座　名	講　　師
1	4/6	空き箱で撮影してみよう	田代亜矢子
2	4/13	こわくないっ！鑑賞道場④	鈴木　有紀
3	4/20	エッシャー展　フロアレクチャー	杉山はるか
4	5/4	真鍋博のアニメーション	石﨑三佳子
5	5/11	エッシャー展　フロアレクチャー	杉山はるか
6	5/18	エッシャーワールドの誕生とその魅力	杉山はるか
7	5/25	みるんみるんツアー	長井　　健
8	6/8	エッシャーに挑戦！合同な図形の平面構成	高木　　学
9	6/15	モネ《アンティーブ岬》の里帰り	武田　信孝
10	6/22	不思議空間！万華鏡を作ろう	二宮　茂樹

11	6 /29	鑑賞道場⑤	鈴木　有紀
12	7 /13	みるんみるんツアー	長井　　健
13	7 /27	鑑賞道場⑥	鈴木　有紀
14	8 / 3	没後50年　八木彩霞フロアレクチャー	長井　　健
15	8 /10	不思議空間！万華鏡を作ろう	二宮　茂樹
16	8/17	絵は語る	五味　俊晶
17	8 /24	魔法の光！まんまるランプを作ろう	高木　　学
18	8 /31	鑑賞道場⑦	鈴木　有紀
19	9 / 7	吉田勝彦の銅版画の世界	杉山はるか
20	9/28	鑑賞道場⑧	鈴木　有紀
21	10/12	お日様写真で陰影を写そう♪	田代亜矢子
22	10/19	鑑賞道場⑨	鈴木　有紀
23	10/26	ロシア近代絵画の巨匠クラムスコイの魅力にせまる	武田　信孝
24	11/23	「松山藩御用絵師列伝」フロアレクチャー	長井　　健
25	11/30	「千住博展」フロアレクチャー	五味　俊晶
26	12/7	Who's that 御用絵師？①　御用絵師とは何だったのか？	五味　俊晶
27	12/14	Who's that 御用絵師？②　松本山雪と江戸前期の画壇	長井　　健
28	12/21	鑑賞道場⑩	鈴木　有紀
29	1/4	「松山藩御用絵師列伝」フロアレクチャー	長井　　健
30	1/18	千住博展フロアレクチャー	五味　俊晶
31	1 /25	手で見る美術館～感覚や感触の体験～	高木　　学
32	2/1	フェルトでミニポシェット	田代亜矢子
33	2 / 8	はんこづくり	石崎三佳子
34	2 /15	ギャラリートーク	喜安　　嶺
35	2 /29	手で見る美術館～触図の体験～	高木　　学

⑷　コレクショントーク　鑑賞の初心者を対象にした対話による作品鑑賞

内　　容　「みる・考える・話す・聴く」という思考サイクルと「どこからそう思う？」という質問を通して物事の見方・考え方の育成を目的とした鑑賞プログラム。ガイドボランティアが鑑賞のナビゲーターを務める。

講　　師　当館学芸員・当館作品ガイドボランティア

日　　時　水・金・日曜日　各14：00～15：00

参加人数　延　183　名　（開催回数　21回）

2　創作活動支援事業

⑴　アトリエの設置

創作活動ができる場として、アトリエ１（版画全般）、アトリエ２（染織、木工、写真等）を設置し、県民に開放している。

アトリエ利用状況　　（単位：開館日数以外は人）

区　分	開室日数	利用人数			計
		アトリエ1	アトリエ２	アトリエひろば	
4月	26	20	58	36	114
5月	27	42	78	15	135
6月	26	37	107	52	196
7月	26	39	130	52	221
8月	27	33	178	51	262
9月	25	72	172	28	272
10月	27	20	85	17	122
11月	27	66	81	77	224
12月	24	25	115	80	195
1月	24	25	91	115	231
2月	25	61	103	25	189
3月	26	29	73	3	105
計	310	469	1271	551	2266
1日平均		1.5	4.1	1.8	7.3

⑵　創作学習の支援

アトリエ等での創作活動を行うにあたって、制作方法や技法などについて相談にのり、アドバイスを行った。また、アトリエの利用促進のため、下記の事業を開催した。

①アトリエ教室

初めてアトリエを利用する方に、利用者の要望に対応した基本的な機材の使い方や制作手順を指導するワークショップを開催した。

日　　時　アトリエ１（版画）　第１・３水曜日・土曜日
　　アトリエ２（多目的）　第２・４水曜日・土曜日
種　　目　シルクスクリーン、ウォーターレス・リトグラフ、ポリリト、コラグラフ、エッチング、ドライポイント、織り、紡ぎ、染め（インド藍・草木染め）、フェルトなど
対 応 者　高木学教育専門員・石﨑三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員
参加人数　延　123　名（開催回数　46回）

②アトリエひろば

いつでも気軽に創作遊びができる空間をアトリエ前に設置した。

日　　時　美術館開館日・開館時間
内　　容　ブロック遊び。
参加人数　延　551　名

③夏休みちょこっとアート

子どもから大人まで美術館で気軽に創作体験ができる夏休みイベントを実施した。

「マジカルうちわ」
日　　時　８/３（土）・10（土）　各10：30～12：00
内　　容　蓄光絵の具を使い、好きな絵を描いて光るうちわを作った。
参加人数　延　128　名

３　美術情報関係事業

⑴　美術館情報発信

①ホームページの公開

美術館の概要、展覧会や講座の案内などを紹介している。（https：//www.ehime-art.jp/）

②年間予定表「みるん・するん」

みるん（展覧会スケジュール）・するん（教育普及プログラム）を掲載したイベントスケジュールを半期毎に変形６折れで、各10,000部発行した。

③美術館ニュース「Canforo（カンフォロ）」の発行

第58号（令和元年７月）、第59号（令和２年１月）をＡ４版、４頁で各2,000部刊行した。

【第58号】

【第59号】

④メールマガジンの配信

メールマガジン「カンフォロ」を月１回配信している。

⑵　美術情報の提供

①美術館情報図書コーナーの設置

新館１階に美術情報図書コーナーを開設、一般の利用に役立てている。

収蔵図書数　計39,918冊（閉架を含む）

②ＤＶＤ上映ブース

美術情報図書コーナー内に２台のＤＶＤ上映ブースを設置し、希望者が視聴できる。

上映ＤＶＤ数　計46番組

４　他機関との連携事業

⑴　館内プログラム

美術館活用を希望する団体からの研修依頼に応え、当館学芸員及び職員が講師を務めた。

①教員研修の受け入れ

	研　修　名	日　　時	対　象　者	人　数	研　修　内　容
1	令和元年度中学校及び県立学校キャリアアップ研修Ⅱ	8/8（木） 12：30～16：00	中学校教諭　　３名 中高一貫校教諭　１名	4	対話型鑑賞、コラグラフ
2	松　　山　　市	8/8（木） 10：00～16：00	小学校教諭　　１名	1	作品整理、コラグラフ
合　　計				5	

②学校団体等の受け入れ

ア　職場体験の対応

	研修名	日時	対象者	人数	研修内容
1	松山市立南第二中学校	7/1（月）・3～5（金） 9：30～15：00	中学2年生	4	施設見学、作品調査、試作作成、展示室補助、触図作成等
2	松山市立日浦中学校	7/31（水）～8/2（金） 9：30～15：30	中学2年生	1	施設見学、展示室のひみつ探し、対話型鑑賞体験、作品整理等
3	重信町立重信中学校	8/20（火）～23（金） 9：30～15：00	中学2年生	2	施設見学、監視業務補助、展示室補助、触図作成、WS補助、展示室のひみつ探し等
4	松山市立鴨川中学校	8/20（火）～23（金） 9：30～15：00	中学2年生	2	
5	松前町立松前中学校	8/27（火）～29（金） 9：30～15：30	中学2年生	2	施設見学、作品整理、監視業務補助、展示室のひみつ探し等
6	松山市立東中学校	9/25（水）・26（木） 9：30～15：00 ※二日目は12：00	中学2年生	2	施設見学、対話型鑑賞体験、展示室のひみつ探し、試作作成等
7	松山市立津田中学校	9/25（水）～27（金） 9：30～15：00	中学2年生	2	
8	松山市立久谷中学校	9/26（木）・27（金） 9：30～15：00	中学2年生	2	
9	松山市立小野中学校	11/12（火）～15（金） 9：30～15：00	中学2年生	2	施設見学、監視業務補助、藍染め体験、展示室のひみつ探し、作品整理、看板作成等
10	松山市立雄新中学校	11/12（木）～15（金） 9：30～15：00	中学2年生	2	
11	松山市立旭中学校	11/26（火）～29（金） 9：30～15：00	中学2年生	1	施設見学、監視業務補助、触図作成等
合　　計				22	

イ　体験学習の受け入れ

学校団体等の要望により、アトリエでの創作体験学習の対応をした。

※人数の（　）は引率者数

	学校名	日時	対象者	人数	活動内容
1	大阪市立咲くやこの花中学校	5/16（木） 14：00～16：40	3年生	20 （2）	対話型鑑賞体験、 WS大きな風船であそぼう
2	第一学院高等学校 松山キャンパス	7/5（金） 13：00～15：00	高校生	18 （1）	コラグラフ体験
3	学校法人　大護学園　大護さとやま認定こども園	8/5（月） 13：00～14：30	小学生 1～3年生	19 （5）	対話型鑑賞体験、 ピンホール・カメラ撮影
4	愛媛大学附属中学校美術部	8/5（月） 9：40～10：40	美術部	13 （1）	ピンホール・カメラ撮影
5	東雲第2児童クラブ	8/22（木） 11：00～14：30	小学 3・4年生	24 （6）	インド藍染め体験
6	松山ビジネスカレッジクリエイティブ校	9/10（火） 9：40～16：20	学生	5 （1）	シルクスクリーン体験
7	放課後等デイサービス ピーターパンたかおか	9/15（日） 11：00～14：30	障がい児	9 （4）	フェルト制作体験
8	県社会福祉協議会 第36期県高齢者大学校	9/19（木） 13：30～16：00	高齢者	56 （2）	対話型鑑賞体験　フロッタージュ
9	松山市立松山北中学校	12/11（水） 10：00～11：30	中学生	11 （5）	WS白で描こう
10	重信町立川内中学校 特別支援学級	1/24（金） 9：40～11：40	障がい児	9 （4）	ピンホール・カメラ撮影 フォトグラム体験
11	東温市教育委員会 重信わんぱく広場	2/23（日） 10：10～11：40	小学生	37 （5）	大きな風船で遊ぼう
合　　計				221 (36)	

ウ　展覧会観覧受入れ

	展覧会名	児童・生徒数						合計
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	大学・専門学校	特別支援学校等	
1	ミラクル　エッシャー展	1校	6校	10校	10校	3校	1校	31校
		47名	424名	458名	564名	52名	6名	1,690名
2	魔法の美術館	53校	18校	5校		2校	1校	79校
		1,606名	858名	78名		38名	6名	2,934名
3	ロマンティック・ロシア		4校	7校	5校	2校		18校
			233名	79名	46名	99名		457名
4	千住博展		3校	6校	6校	1校	3校	19校
			149名	72名	397名	29名	23名	670名
5	畦地梅太郎　山のなか、本のなか		10校		1校			11校
			690名		12名			702名
6	長くつ下のピッピの世界展	3校	2校	4校	2校			11校
		39名	136名	50名	11名			236名
7	コレクション展				1校		2校	3校
					17名		28名	45名
合計		57校	43校	32校	25校	8校	7校	172校
		1,692名	2,490名	737名	1,047名	218名	63名	6,247名

③インターンシップ研修等

	研修名	日時	対象者	人数	研修内容
1	愛媛県 インターンシップ研修会	9/18（水）～22（日） 9：30～18：15	鳥取大学 愛媛大学	2	施設見学、書庫整理、WS補助、対話型鑑賞体験、講座補助等

⑵　館外プログラム

施設や団体等の美術に関する事業依頼に応じ、当館学芸員及び職員を派遣した。

【講義・レクチャー】

①「対話型鑑賞」体験セミナー

内　　容　対話型鑑賞
日　　時　5/16（木）　19：00～21：00、5/17（金）　13：00～15：00
場　　所　英治出版イベントスペース
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　延　70　名

②令和元年度図画工作科「人権ポスターの制作」

内　　容　人権ポスターの着色
日　　時　6/4（火）　13：50～15：30
場　　所　松山市立姫山中学校
講　　師　高木学教育専門員
参加人数　82　名

③総合的な学習の時間「職業科」

内　　容　視覚伝達デザイン（ポスター・ポップ）
日　　時　6/14（金）、20（木）、7/4（木）　13：30～15：20

場　　所　松山市立小野中学校
講　　師　高木学教育専門員
参加人数　24　名

④総合的な学習の時間「日本文化に学ぼう」
内　　容　絵手紙
日　　時　6/21（金）、28（金）、7/5（金）　各13：30～15：20
場　　所　松山市立東中学校
講　　師　高木学教育専門員
参加人数　91　名

⑤コミュニティ・カレッジ愛媛の博物館・研究機関講座／愛媛県生涯学習センター
内　　容　愛媛県美術館の版画コレクションより　銅版画家・吉田勝彦を中心に
日　　時　7/5（金）　13：30～15：30
場　　所　愛媛県総合科学博物館
講　　師　杉山はるか専門学芸員
参加人数　11　名

⑥坂の上の雲ミュージアム連続講座
内　　容　近代国家の成立と女性画家の誕生―河崎蘭香を中心に
日　　時　7/13（土）　14：00～15：30
場　　所　坂の上の雲ミュージアム
講　　師　五味俊晶学芸員
参加人数　35　名

⑦松山市図画工作科主任会　夏季実技研修会
内　　容　対話型鑑賞
日　　時　7/23（火）　13：30～15：30
場　　所　松山市立塩見小学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　45　名

⑧第51回美術教育夏季研修会／愛媛美術教育連盟
内　　容　対話型鑑賞を体験してみよう！～畦地梅太郎作品を中心に～
日　　時　7/26（金）　9：30～11：00
場　　所　宇和島市岩松公民館
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　50　名

⑨地域でつくる“休日子どもカレッジ”社会教育プログラム／特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ
内　　容　対話型鑑賞
日　　時　7/27（土）　10：00～12：00
場　　所　松山大学
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　13　名

⑩校内研修
内　　容　対話型鑑賞法を活用した図画工作や対話型授業の実際について
日　　時　7/30（火）　13：30～15：30
場　　所　松山市立道後小学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　30　名

⑪課題別実践力向上セミナー／松山市教育研修センター
内　　容　写生会の指導方法
日　　時　8/7（水）　9：30～12：00
場　　所　松山市教育研修センター
講　　師　高木学教育専門員
参加人数　8　名

⑫令和元年度中学校及び県立学校キャリアアップ研修Ⅱ教科指導研修／愛媛県総合教育センター
内　　容　対話型鑑賞、コラグラフ
日　　時　8/8（木）　10：00～16：00
場　　所　愛媛県美術館
講　　師　鈴木有紀専門学芸員、石﨑三佳子専門学芸員
参加人数　5　名

⑬課題別研修「【小・図画工作】新学習指導要領を踏まえた図画工作の授業づくり」
内　　容　対話型鑑賞の考え方と基本スキルについて
日　　時　8/19（月）　10：10～12：00
場　　所　愛媛県総合教育センター
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　7　名

⑭課題別実践力向上セミナー／松山市教育研修センター
内　　容　船・港を描いてみよう
日　　時　8/27（火）　13：30～16：00
場　　所　松山市教育研修センター　※雨天のため会場を変更した。
講　　師　二宮茂樹普及グループ担当係長
参加人数　3　名

⑮コミュニティ・カレッジ愛媛の博物館・研究機関講座／愛媛県生涯学習センター
内　　容　畦地梅太郎と南予の版画家たち
日　　時　9/20（金）　13：00～15：00
場　　所　宇和島市立南予文化会館
講　　師　長井健学芸グループ担当係長
参加人数　27　名

⑯校内研修会
内　　容　対話型鑑賞を取入れた授業
日　　時　10/15（火）　13：30～、18（金）13：50～、21（月）13：50～、23（水）14：00～
場　　所　大洲市立大洲小学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　120　名

⑰愛媛新聞カルチャースクール特別講座「いよ食談会」
内　　容　令和元年度下半期企画展についての広報
日　　時　10/16（水）　11：30～13：30
場　　所　東京第一ホテル
講　　師　長井健学芸グループ担当係長
参加人数　35　名

⑱第３回オープンカレッジ／日本福祉大学教育実践研究センター
内　　容　えひめ対話型授業プロジェクトについて
日　　時　11/４（月）　13：00～15：00
場　　所　日本福祉大学
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　100　名

⑲歴史文化講座
内　　容　御用絵師たちの姿―伊予松山藩を中心に
日　　時　12/22（日）　13：30～15：00
場　　所　愛媛県歴史文化博物館
講　　師　長井健学芸グループ担当係長
参加人数　42　名

⑳愛媛県高等学校教育研究大会芸術部会講演
内　　容　対話型授業のススメ
日　　時　12/23（月）　14：20～15：50
場　　所　愛媛県立松山南高等学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　93　名

㉑図画工作科校内研修
内　　容　対話型鑑賞法
日　　時　12/27（金）　10：00～15：00
場　　所　福山市立桜丘小学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　30　名

㉒図画工作研修
内　　容　対話型鑑賞法を活用した授業
日　　時　12/19（木）　８：35～９：20、９：30～10：15、10：35～11：20、11：30～12：15
場　　所　松山市立道後小学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　120　名

㉓コミュニティ・カレッジ愛媛の博物館講座／愛媛県生涯学習センター
内　　容　日本画家・千住博
日　　時　１／９（木）　13：20～15：20
場　　所　愛媛県美術館
講　　師　五味俊晶学芸員
参加人数　25　名

㉔ミカジマ学びデザインプロジェクト
内　　容　対話型鑑賞教室
日　　時　２／７（金）　８：30～11：45
場　　所　所沢市立三ヶ島中学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　60　名

㉕特別展「たば塩コレクションに見る　ポスター黄金時代」講演会
内　　容　杉浦非水のデザインワークとその生涯について
日　　時　２/８（土）　14：00～16：00
場　　所　たばこと塩の博物館
講　　師　長井健学芸グループ担当係長
参加人数　100　名

㉖第 99 回愛媛教育研究大会
内　　容　基調講演　対話型授業のススメ
日　　時　２/14（金）　14：50～16：20
場　　所　愛媛大学教育学部附属中学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　130　名

㉗Ｎ－ジオチャレ／野村地域自治振興協議会　NPO 法人　シルミルのむら
内　　容　対話型鑑賞授業
日　　時　３/14（土）　13：30～15：00
場　　所　野村公民館
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　―　名　※コロナウイルス対策のため中止

㉘出前鑑賞ワークショップ
内　　容　対話型鑑賞
日　　時　３/４（水）・10（火）　各10：20～16：00
場　　所　八幡浜市立白浜小学校
講　　師　鈴木有紀専門学芸員
参加人数　92　名

【ワークショップ】
①東雲第一児童クラブ
内　　容　マジカルうちわ
日　　時　７/23（火）　10：30～12：00
場　　所　東雲児童クラブ
講　　師　石﨑三佳子専門学芸員・高木学教育専門員・田代亜矢子専門学芸員・創作ボランティア１名
参加人数　34　名程度

② 松山市立素鷲小学校
内　　容　大きな風船
日　　時　７/26（金）　10：00～11：30
場　　所　松山市立素鷲小学校
講　　師　石﨑三佳子専門学芸員・田代亜矢子専門学芸員
参加人数　52　名

③ 松山市立素鷲小学校
内　　容　レインボーつぶつぶ
日　　時　７/26（金）　10：00～11：30
場　　所　松山市立素鷲小学校
講　　師　高木学教育専門員・創作ボランティア１名
参加人数　34　名

④北条児童クラブ運営委員会
内　　容　新聞紙で遊ぼう
日　　時　８/２（金）　10：00～12：00
場　　所　松山市立北条小学校
講　　師　田代亜矢子専門学芸員・高木学教育専門員・石﨑三佳子専門学芸員
参加人数　101　名

⑤双葉児童クラブ
内　　容　大きな風船であそぼう
日　　時　８/９（金）　10：00～11：30
場　　所　松山市立双葉小学校
講　　師　田代亜矢子専門学芸員・高木学教育専門員・石﨑三佳子専門学芸員
参加人数　79　名

⑥小野地区青少年健全育成連絡協議会
内　　容　インド藍染め体験
日　　時　８/19（火）　8：00～12：00
場　　所　小野公民館
講　　師　田代亜矢子専門学芸員・高木学教育専門員・石﨑三佳子専門学芸員・創作ボランティア１名
参加人数　215　名

⑦道後みらいクラブ
内　　容　木っ端deスタンプ
日　　時　８/20（火）　10：00～11：30
場　　所　松山市社会福祉センター
講　　師　田代亜矢子専門学芸員・石﨑三佳子専門学芸員
参加人数　35　名

⑧松山市立北条南中学校
内　　容　針金アート
日　　時　10/27（日）　９：30～12：00
場　　所　松山市立北条南中学校
講　　師　田代亜矢子専門学芸員・高木学教育専門員
参加人数　25　名

⑨ボーイスカウト砥部第一団
内　　容　ピンホール・カメラ
日　　時　２/23（日）　13：00～16：00
場　　所　さかえ集会所
講　　師　田代亜矢子専門学芸員・高木学教育専門学芸員・創作ボランティア３名
参加人数　23　名

⑶　大学との連携
①令和元年度　博物館実習
学芸員資格取得のための博物館実習の受け入れを行った。
実習期間　８/２（金）～８（木）　各９：30～18：00　※ただし、８/６（火）は休日。
受入大学　広島大学文学部、愛媛大学法文学部、愛知教育大学教育学部、関西学院大学文学部
実 習 生　９　名

②愛媛大学理学部「博物館資料保存論」
学芸員資格取得のための博物館学課程科目の授業を行った。
日　　時　9/19（木）　13：30～15：30
講　　師　長井健学芸グループ担当係長・杉山はるか専門学芸員
参加人数　55　名

⑷ 調査員・委員・審査員

①弓削島荘総合調査事業の美術工芸品調査
日　　時　4/23（火）　10：30～16：30
依 頼 先　上島町教育委員会
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

②内子町所蔵の戦没画家・上岡美平絵画作品の保存・活用にかかる調査
日　　時　5/16（木）　10：00～17：00
依 頼 先　内子町教育委員会
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

③護国山高昌寺所蔵「涅槃図」調査
日　　時　5/28（火）　13：00～16：00
依 頼 先　内子町教育委員会
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

④堂本印象作品（六曲屏風一隻）調査（県内・個人宅）
日　　時　6/1（土）　13：00～15：00
依 頼 先　京都府立堂本印象美術館
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

⑤全国かまぼこ板の絵展覧会知事賞選考審査
期　　間　5/28（火）15：00～15：30
依 頼 先　愛媛県文化振興課
対 応 者　高木学教育専門員

⑥令和元年度第47回えひめこども美術展運営委員会
日　　時　6/15（土）　13：00～15：00
依 頼 先　愛媛県美術教育連盟
対 応 者　高木学教育専門員

⑦弓削島荘総合調査事業の美術工芸品調査
日　　時　6/17（月）　13：00～16：30
依 頼 先　上島町教育委員会
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

⑧水への絵はがき応募作品の審査
期　　間　7/18（木）　10：00～12：00
依 頼 先　松山市水資源対策課
対 応 者　高木学教育専門員

⑨地域資料に基づく四国遍路の総合的研究調査（徳島・地蔵寺）
日　　時　8/29（木）～8/31（土）
依 頼 先　愛媛大学法文学部
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

⑩受信環境クリーン図案コンクール審査
期　　間　9/6（金）　13：30～15：30
依 頼 先　四国受信環境クリーン協議会
対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

⑪歯ロの健康に関する図画・ポスターコンクール審査
期　　間　9/10（火）　14：00～16：00
依 頼 先　愛媛県歯科医師会
対 応 者　高木学教育専門員

⑫愛鳥週間ポスター原画コンクール審査
期　　間　9/12（木）　10：00～11：00、13：00～15：00
依 頼 先　愛媛県自然保護課
対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

⑬愛媛県薬物乱用防止啓発用ポスター審査
期　　間　9/17（火）　10：30～12：00
依 頼 先　愛媛県薬務衛生課
対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

⑭明るい選挙啓発ポスターコンクール審査
期　　間　9/25（水）　9：00～11：00
依 頼 先　愛媛県選挙管理委員会
対 応 者　高木学教育専門員

⑮障害者週間ポスター審査
期　　間　9/25（水）　10：00～12：00
依 頼 先　愛媛県愛媛県障がい者社会参加推進センター
対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

⑯人権尊重の意識を高めるためのポスター審査
期　　間　9/27（金）　10：00～11：20
依 頼 先　愛媛県人権教育課
対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

⑰松山市・太山寺の文化財調査
日　　時　10/4（金）　10：00～16：30
依 頼 先　愛媛県教育委員会
対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

⑱松山市民によるいじめをなくすポスター審査
期　　間　10/4（金）　13：30～16：30
依 頼 先　松山市教育委員会
対 応 者　高木学教育専門員

⑲木造住宅耐震化啓発ポスター作品選定審査
期　　間　10/7（月）　14：30～15：00
依 頼 先　愛媛県住宅建築課
対 応 者　高木学教育専門員

⑳緑化キャンペーンポスター原画審査
期　　間　10/10（木）　13：30～16：00
依 頼 先　愛媛の森林基金
対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

㉑土砂災害防止に関する作品コンクール審査
　期　　間　10/15（火）　13：00～14：30
　依 頼 先　愛媛県砂防課
　対 応 者　高木学教育専門員

㉒上島町防波堤アート事業～しましまかみじまアートプロジェクト審査
　期　　間　10/15（火）　14：00～15：30
　依 頼 先　上島町商工観光課
　対 応 者　八木誠一学芸課課長

㉓ごはん・お米とわたし図画愛媛県コンクール審査
　期　　間　10/18（金）　10：00～12：00
　依 頼 先　愛媛県農業協同組合中央会地域農業対策部
　対 応 者　二宮茂樹普及グループ担当係長

㉔環境啓発ポスターコンクール審査
　期　　間　10/18（金）　13：00～16：00
　依 頼 先　愛媛県環境政策課
　対 応 者　高木学教育専門員

㉕障がい者芸術文化祭愛顔ひろがるえひめの障がい者アート展審査
　期　　間　11/28（木）　14：00～16：00
　依 頼 先　愛媛県障がい者アートサポートセンター
　対 応 者　八木誠一学芸課課長

㉖町指定有形文化財等妙寺所蔵仏画にかかる指導調査
　日　　時　12/６（金）　９：00～15：00
　依 頼 先　鬼北町教育委員会
　対 応 者　長井健学芸グループ担当係長

㉗第２回南海放送CM大賞審査員
　期　　間　３/３（水）～３/６（金）（ウェブ上での審査）
　依 頼 先　南海放送株式会社
　対 応 者　杉山はるか専門学芸員

５　その他

⑴　第21回愛媛県美術館開館記念イベント

　にぎわいのある美術館づくりを目指し、愛媛県美術館開館記念日である11月27日を多くの方に美術館に親しんでいただく特別な日として祝し、11月17日（日）に各種事業を実施した。

①講座『展示空間ができるまで』
　時　　間　10：30～（約１時間）
　場　　所　常設展示室１・２
　内　　容　何もない展示室に作品を展示するまでの説明を聞く。
　講　　師　当館学芸グループ学芸員
　参加人数　35　名

②学芸員体験講座『作品点検』
　時　　間　14：30～、15：30～（各約30分）
　場　　所　常設展示室２
　内　　容　いろいろなものを作品に見立てた作品点検を体験する。
　講　　師　当館学芸グループ学芸員
　参加人数　38　名

③ミュージアムコンサート／愛媛県美術館友の会協賛事業
　時　　間　①11：30～　②13：30～（各30分程度）
　場　　所　美術館前庭
　内　　容　楽団minamoによるスチールドラムバンドの演奏を実施する。
　参加人数　1000　名

④てづくりワークショップ
　時　　間　①10：30～12：00　②③13：00～15：00
　場　　所　美術館前庭
　内　　容　①ピンホールカメラ、②冬のリースづくり、③花火玉でコマづくり
　参加人数　①　58　名　　②　75　名　　③　67　名

⑤大地は大きな黒板だ！
　時　　間　10：30～12：00、13：00～15：00
　場　　所　美術館前庭
　内　　容　石だたみにチョークで大きな絵を自由に描く。
　参加人数　263　名

⑥図録進呈
　①②④の参加者を対象に過去の展覧会図録を進呈した。
　配布冊数　124冊

⑦コレクション展無料
　入 場 者　292　名

Ⅵ　貸館事業

1　展示施設の利用方法

県民の美術活動の推進及び創作成果の発表の場として、新館特別展示室（1～３）、講堂、研修室、南館県民ギャラリー（１～12）、を有料で貸与している。

⑴　仮受付

使用日の１年前の月の初日に仮受付を行う。ただし、研修室のみ使用日の６ヶ月前からの仮受付となる。

⑵　申請

使用日の２ヶ月前頃に、使用許可申請書の様式を利用者に発送し、使用者の申請により使用を許可する。

⑶　使用料納付

使用許可後、納入通知書を利用者に送付し、利用者は、使用前に納入する。

⑷　利用時間及び休館日

利用時間：午前９時40分～午後６時。

休館日：毎週月曜日（第１月曜日を除く）、第１月曜日の翌日及び12月29日～１月３日。

（祝日及び振替休日にあたる場合は、その翌日）

⑸　搬出入

貸館は、原則として１週間単位で実施している。（新館講堂、研修室は除く。）

搬入は使用期間内の初日に、搬出は日曜日に実施している。

⑹　使用料

別表のとおり。

（別表）　愛媛県美術館施設使用料　　（令和２年３月31日現在）

区分				使用料（１日）
新館	特別展示室１		入場料が無料の場合	5,070円
			入場料が有料の場合	8,110円
	特別展示室２		入場料が無料の場合	3,570円
			入場料が有料の場合	5,710円
	特別展示室３		入場料が無料の場合	5,930円
			入場料が有料の場合	9,480円
	講堂	入場料が無料の場合	午前９時40分から正午まで	1,840円
			午後１時から午後６時まで	3,060円
			全　日（午前９時40分から午後６時まで）	4,900円
		入場料が有料の場合	午前９時40分から正午まで	2,940円
			午後１時から午後６時まで	4,890円
			全　日（午前９時40分から午後６時まで）	7,830円
	研修室	午前９時40分から正午まで		2,030円
		午後１時から午後６時まで		2,650円
		全　日（午前９時40分から午後６時まで）		4,680円
南館	県民ギャラリー１			15,110円
	県民ギャラリー２			11,870円
	県民ギャラリー３			3,230円
	県民ギャラリー４			4,310円
	県民ギャラリー５			4,310円
	県民ギャラリー６			2,150円
	県民ギャラリー７			2,150円
	県民ギャラリー８			6,470円
	県民ギャラリー９			2,800円
	県民ギャラリー10			2,900円
	県民ギャラリー11			2,900円
	県民ギャラリー12			3,230円
	すべての県民ギャラリー			54,480円

2　展示施設の利用状況

新館

	展　覧　会　名	会　期	展示室	日数	内　容	入場者数	観　覧　料		
4月	MINIATURE LIFE展 田中達也　見立ての世界	3/16～4/7	特別展示室1～3	6 (20)	ミニチュア作品、 ミニチュア写真の展覧会	8,656 (23,021)	区分	当日	前売
							一般	1,000円	900円
							大学生 65歳以上	900円	800円
							高大生	600円	500円
							無料：小中生以下		
	「かなしきデブ猫ちゃん」原画展	4/30～5/6	特別展示室3	7	イラスト原画の展示会	2,081	無　料		
平成31年4月合計				13		10,737			
5月	星野文昭絵画展	5/17～5/19	特別展示室1	3	水彩画	157	無　料		
	松田一遺作展	5/22～6/2	特別展示室1～3	11	鉛筆、水彩、アクリル、油彩、 立体	1,594	無　料		
令和元年5月合計				14		1,751			
6月	第49回世界児童画展四国展	6/14～6/16	特別展示室1～3	3	3歳～15歳までの国内及び 世界の児童画作品の展示	602	無　料		
	第21回いろどりの書作展	6/19～6/23	特別展示室1～3	5	書道団体書朋会の定期発表	497	無　料		
令和元年6月合計				8		1,099			
7月	第18回スマイルキッズ& 地域交流美術展	7/17～7/21	特別展示室1～3	5	油彩、水彩画、日本画、書道、 写真などの展示	1,014	無　料		
	第53回東雲児童美術展	7/26～7/28	特別展示室2、3	3	水彩画、クレヨン画、立体工作	590	無　料		
令和元年7月合計				8		1,604			
9月	紙縒りアート「彩」IRODORI	9/19～9/22	特別展示室3	4	紙縒りアート	442	無　料		
令和元年9月合計				4		442			
10月	愚人だらけ　ミノのビーナス展	10/2～10/13	特別展示室3	11	立体を動かす、日々変化する 立体と平面の展示	1,312	無　料		
	第48回公募墨雲書道展	10/16～10/20	特別展示室1～3	5	書作品　習練の成果の発表	522	無　料		
	「6年分の正直」くつなまい展	10/23～10/27	特別展示室3	5	アクリル画	300	無　料		
	第10回三騎会展	10/30～11/3	特別展示室1～3	5	油画、版画、シルクスクリーン、 木彫	621	無　料		
令和元年10月合計				26		2,755			
11月	CCE　AWARD　2019	11/14～11/16	特別展示室1～3	2	愛媛を中心とするクリエーターた ちの仕事の展示、一般公開審査	290	無　料		
	21世紀えひめの 伝統工芸大賞展示会	11/20	特別展示室1～3	1	事業応募作品の展示会	205	無　料		
令和元年11月合計				3		495			
12月	障がい者芸術文化祭 ～愛顔ひろがる 　えひめの障がい者アート展～	12/5～12/14	特別展示室1～3	9	絵画、デザイン、書、陶芸、その 他立体作品	1,895	無　料		
令和元年12月合計				9		1,895			
2月	2020松山ビジネスカレッジクリエイティ ブ校卒業進級制作展	2/1～2/9	特別展示室1～3	8	綜合デザイン学科・ファッション ビューティ学科学生の作品展示	440	無　料		
	第67回愛媛県学生書道展	2/14～2/16	特別展示室1～3	3	愛媛県下の小・中・高校生の書 道作品の展示	1,156	無　料		
	済生会松山乳児保育園第7回いのち かがやく子ども美術展	2/21～2/23	特別展示室1～3	3	絵・造形・写真	424	無　料		
令和2年2月合計				14		2,020			
令和元年度合計				99		22,798			

南館

	展　覧　会　名	会　期	展示室	日数	内　容	入場者数	観　覧　料
4月	第67回春季県展（前期・後期）	4/18～4/26 4/29～5/6	ギャラリー1～12	16	アンデパンダン方式の公募展 前期:洋画・版画・写真・デザイン 後期:日本画・彫刻・工芸・書道	5,653	区分 / 当日 / 団体 / 前売 一　般 / 600円 / 500円 / 500円 65歳以上 / 400円 / 300円 / — 高大生 / 400円 / 300円 / — 無料：小中生、身障者
平成31年4月計				16		5,653	
5月	聿友社書作展	5/15～5/19	ギャラリー1	5	書道展	354	無　料
	松山すみれ会押花作品展	5/23～5/26	ギャラリー1	4	押花展	464	無　料
	現美展	5/29～6/2	ギャラリー2・3	5	油彩・水彩・アクリル画・写真展	535	無　料
	ふくいかよこ古希（+1）作品展	5/30～6/2	ギャラリー1	4	創作パッチワーク作品展	630	無　料
令和元年5月計				18		1,983	
6月	新女流美術2019展	6/5～6/9	ギャラリー2	5	洋画・日本画・工芸展	621	無　料
	第11回馬の目会日本画展	6/12～6/16	ギャラリー2・3	5	日本画展	790	無　料
	第32回八石之会水石展	6/21～6/23	ギャラリー3	3	水石展	220	無　料
	2019コピスの会展	6/25～6/30	ギャラリー2	6	水彩画・油絵・色鉛筆画・パステル画展	840	無　料
	第14回キルトin愛媛	6/26～6/30	ギャラリー3～6	5	パッチワークキルト作品展	1,294	無　料
令和元年6月計				24		3,765	
7月	HiRo彩霞展	7/3～7/21	ギャラリー9	17	絵画・パピエマッシュ展	401	無　料
	日本版画会四国支部展	7/10～7/15	ギャラリー5	6	版画展	428	無　料
	第35回記念春風会書展	7/12～7/14	ギャラリー1	3	書道作品展	389	無　料
	有重麻由アート作品展覧会	7/12～7/14	ギャラリー7	3	水彩画・クレヨン画展	506	（一般）500円 障がい者と 介助者1名は半額 中学生以下無料
	第42回愛媛女流書家連盟展	7/17～7/21	ギャラリー 1・2・3・7	5	書作品展	1,403	無　料
	第17回えひめ版画協会展	7/23～7/28	ギャラリー3	6	会員版画作品発表展	258	無　料
	令和元年度手をつなく子らの作品展	7/30～8/4	ギャラリー2～5	6	障がいのある児童生徒の作品展 （絵画・版画・デザイン・書等）	615	無　料
令和元年7月計				46		4,000	
8月	第48回書芸展	8/14～8/18	ギャラリー1～8	5	書道展	1,493	無　料
	第71回毎日書道展四国展	8/21～8/25	ギャラリー1～12	5	書道展	6,560	（一般）500円 （大学生）300円 高校生以下と 65歳以上は無料
	第38回書神会全国書道展覧会	8/29～9/1	ギャラリー1～12	4	書道展	381	無　料
令和元年8月計				14		8,434	

	展　覧　会　名	会　期	展示室	日数	内　容	入場者数	観　覧　料
9月	第30回記念愛媛独立書展	9/4～9/8	ギャラリー1～9･12	5	(企画展)三輪田米山の書の展示 団員の書道作品の展示	1,204	無　料
	松山大学写真部学外展･OB展	9/10～9/15	ギャラリー8･9･12	6	写真展	144	無　料
	第6回えひめ文化健康センター ひめぶん水墨画展	9/11～9/15	ギャラリー2	5	水墨画展	522	無　料
	第18回 牛子華中国水墨山水画研究会展	9/11～9/15	ギャラリー5･6	5	水墨画展	388	無　料
	絵画展 口と足で表現する世界の芸術家たち	9/13～9/15	ギャラリー1	3	口や足で描いた絵画50点の展示(油彩画･水彩画等)障がい者画家の実演	653	無　料
	こてんこてんまつり	9/16～9/22	ギャラリー2	6	創作人形･キャンドルスタンド･アクリル画･パステル画の展示	510	無　料
	2019年近美四国支部展	9/18～9/22	ギャラリー1	5	洋画･日本画･ミクストメディア作品の展示	910	無　料
	第107回日本水彩松山展 第56回愛媛水彩展	9/18～9/22	ギャラリー8～12	5	水彩画展	1,274	無　料
	第33回抱墨書展 併設　森脇宥暢個展	9/25～9/29	ギャラリー2･3	5	書道作品、陶芸作品の展示	620	無　料
	第13回新作能面展	9/25～9/29	ギャラリー4	5	能･狂言面の展示	617	無　料
	第49回愛媛新興美術展	9/25～9/29	ギャラリー5･6	5	日本画展	579	無　料
	第8回愛媛電友会･NTTグループ 趣味の作品展	9/25～9/29	ギャラリー8～12	5	洋画･日本画･版画･書道･写真･陶工芸･手芸･水石等の展示	760	無　料
	第27回書神会松山支部展	9/27～9/29	ギャラリー1	3	書道展	460	無　料
令和元年9月計				63		8,641	
10月	令和元年度県民総合文化祭 第68回秋季県展(前期) 日本画･彫刻･工芸･書道	10/22～ 10/29	ギャラリー1～12	7	県民各層より美術作品を公募し、入選、入賞作品約1800点を展示(日本画･彫刻･工芸･書道)	4,226	区分 / 当日 / 団体 / 前売 一　般 / 600円 / 500円 / 500円 65歳以上 / 400円 / 300円 / — 高大生 / 400円 / 300円 / — 無料：小中生、障がい者
令和元年10月計				7		4,226	
11月	令和元年度県民総合文化祭 第68回秋季県展(後期) 洋画･版画･写真･デザイン	11/1～ 11/8	ギャラリー1～12	7	県民各層より美術作品を公募し、入選、入賞作品約1800点を展示(洋画･版画･写真･デザイン)	4,882	区分 / 当日 / 団体 / 前売 一　般 / 600円 / 500円 / 500円 65歳以上 / 400円 / 300円 / — 高大生 / 400円 / 300円 / — 無料：小中生、障がい者
	令和元年度県民総合文化祭 第33回愛媛県高等学校総合文化祭 美術･工芸･書道･写真展	11/14～ 11/17	ギャラリー1～12	4	県内の高等学校、中等教育学校後期課程及び特別支援学校高等部の生徒による美術･工芸、書道、写真部門の総合的な作品展	3,167	無　料
	松山写真倶楽部写真展	11/20～ 11/24	ギャラリー3	5	写真展	525	無　料
	第26回国際交流合同写真愛媛展並びに2019松山国際写真集団展	11/20～ 11/24	ギャラリー4～6	5	写真展	684	無　料
	令和元年度県民総合文化祭 第16回中学生美術作品展	11/23～ 11/24	ギャラリー1･2	2	県内の中学生が制作した美術作品の展示(コンクールではなく、参加を希望した学校ごとに出展)	305	無　料
	第4回愛媛水墨画展	11/27～12/1	ギャラリー2･7	5	水墨画展	717	無　料
	第41回双樹会愛媛支部展	11/27～ 12/1	ギャラリー3･4	5	絵画平面作品展(日本画･洋画･水墨画･水彩画･ペン画等、小物陶芸約60点)	546	無　料
	第101回チャーチル会松山展	11/27～12/1	ギャラリー5･6	5	油絵･水彩画･鉛筆画等の展示	338	無　料
	第43回愛光幼稚舎作品展	11/27～12/1	ギャラリー8～12	5	水彩画･土粘土作品の展示	1,317	無　料
	第16回愛媛一先会かな書展	11/29～12/1	ギャラリー1	3	かな書道展	363	無　料
令和元年11月計				46		12,844	

	展　覧　会　名	会　期	展示室	日数	内　容	入場者数	観　覧　料
12月	第46回松山市医師会趣味の美術展	12/4～12/8	ギャラリー1	5	書･絵画等の展示	469	無　料
	徳田政志個展	12/4～12/8	ギャラリー3	5	洋画･鉛筆画（リアリズム）の展示	169	無　料
	第30回MOA美術館松山児童作品展	12/7～12/8	ギャラリー5･6	2	幼児･児童の絵画展	573	無　料
	第36回愛媛県高等学校書道教員書作展	12/10～12/15	ギャラリー1	6	書道作品展	579	無　料
	第9回アトリエ版画グループ展	12/10～12/15	ギャラリー10	6	版画展	509	無　料
	済美展2019（済美高等学校）	12/11～12/15	ギャラリー2･5･6･7	5	済美高等学校美術科3年生の卒業制作展及び1･2年生と教員の美術作品展（日本画･洋画･デザイン･彫刻･情報メディアデザイン･素描）	894	無　料
	済美展2019（済美幼稚園）	12/11～12/15	ギャラリー3･4	5	済美幼稚園児の作品展（絵画･制作･習字）	1,101	無　料
	第2回愛媛県高等学校美術教員作品展	12/11～12/15	ギャラリー8･9	5	絵画･彫刻･デザイン･工芸･インスタレーション作品展	925	無　料
令和元年12月計				39		5,219	
1月	第47回えひめこども美術展	1/4～1/13	ギャラリー1～12	9	県内在住の幼児･児童生徒の作品展（幼稚園･認定こども園･保育所、小学校、中学校、中等教育学校前期課程、特別支援学校、特別支援学級の平面、立体、書写など約1,500点の作品を展示）	5,307	無　料
	第44回書界展	1/22～1/26	ギャラリー1～12	5	書作品展	1,933	無　料
	第32回愛媛県高等学校文化連盟写真展	1/29～2/2	ギャラリー3～6	5	写真展	422	無　料
	第55回松山南高等学校砥部分校デザイン科卒業制作展	1/29～2/2	ギャラリー8～12	5	作品展示（グラフィックデザイン･CG･絵画･立体･陶芸）	801	無　料
令和2年1月計				24		8,463	
2月	創元会 近藤悳志作品展	2/5～2/9	ギャラリー1	5	洋画展（油彩･水彩･デッサン）	281	無　料
	松山市中学校美術科教員展	2/15～2/16	ギャラリー6･7	2	絵画･デザイン･工芸･彫刻･写真等展	164	無　料
	第58回愛媛県学生書道展	2/15～2/16	ギャラリー9～12	2	書道展	369	無　料
	第59回愛媛日本画会展	2/19～2/23	ギャラリー2･7	5	日本画展	576	無　料
	第1回裸婦展	2/19～2/23	ギャラリー3	5	裸婦をモチーフとした洋画･日本画展	465	無　料
令和2年2月計				19		1,855	
3月	第45回愛媛県美術館友の会美術展	3/4～3/8	ギャラリー8～10･12	5	洋画･日本画･書道･かな書道･工芸･写真展	416	無　料
	こどもたちの造形遊び教室 アトリエ若 第10回軌跡展	3/6～3/8	ギャラリー4･5	3	こどもたちの造形遊びの作品と活動記録展	223	無　料
	37+8ここでいがんだ展	3/5～3/8	ギャラリー3	4	絵画教室の小中学生及び一般の25名の作品展	164	無　料
	象社の書25	3/18～3/22	ギャラリー1･2	5	前衛書･古典臨書中心の書道作品展	334	無　料
令和2年3月計				17		1,137	
令和元年度合計				333		66,220	

Ⅶ　入館者の状況

本館（新館、南館）

年　月	総入館者数	常設展					企画展				
		総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均	総観覧者	有料観覧者	無料観覧者	開催日数	一日平均
10 ～ 30年度合計	7,466,517	1,038,379	105,944	932,435	5,800	179.03	2,659,590	2,010,123	649,467	4,705	565.27
31年4月	31,825	2,384	176	2,208	26	91.69	6,459	4,816	1,643	17	379.94
元年5月	34,606	5,023	151	4,872	27	186.04	12,627	9,181	3,446	27	467.67
元年6月	32,043	711	17	694	26	27.35	15,853	11,344	4,509	26	609.73
元年7月	27,672	2,730	265	2,465	26	105.00	10,748	7,932	2,816	26	413.38
元年8月	38,673	4,250	435	3,815	28	151.79	15,646	11,886	3,760	28	558.79
元年9月	30,306	2,860	205	2,655	25	114.40	5,687	4,166	1,521	25	227.48
元年10月	38,837	4,668	87	4,581	27	172.89	10,805	8,044	2,761	27	400.19
元年11月	39,599	3,199	177	3,022	26	123.04	8,606	5,978	2,628	17	506.24
元年12月	25,515	3,977	222	3,755	24	165.71	6,837	5,254	1,583	24	284.88
2年1月	42,570	5,673	338	5,335	26	218.19	17,656	13,890	3,766	26	679.08
2年2月	19,388	2,438	138	2,300	25	97.52	5,083	3,216	1,867	24	211.79
2年3月	10,731	1,633	90	1,543	26	62.81	3,916	2,598	1,318	26	150.62
元年度合計	371,765	39,546	2,301	37,245	312	126.75	119,923	88,305	31,618	293	409.29
総　計	7,838,282	1,077,925	108,245	969,680	6,112	176.36	2,779,513	2,098,428	681,085	4,998	556.13

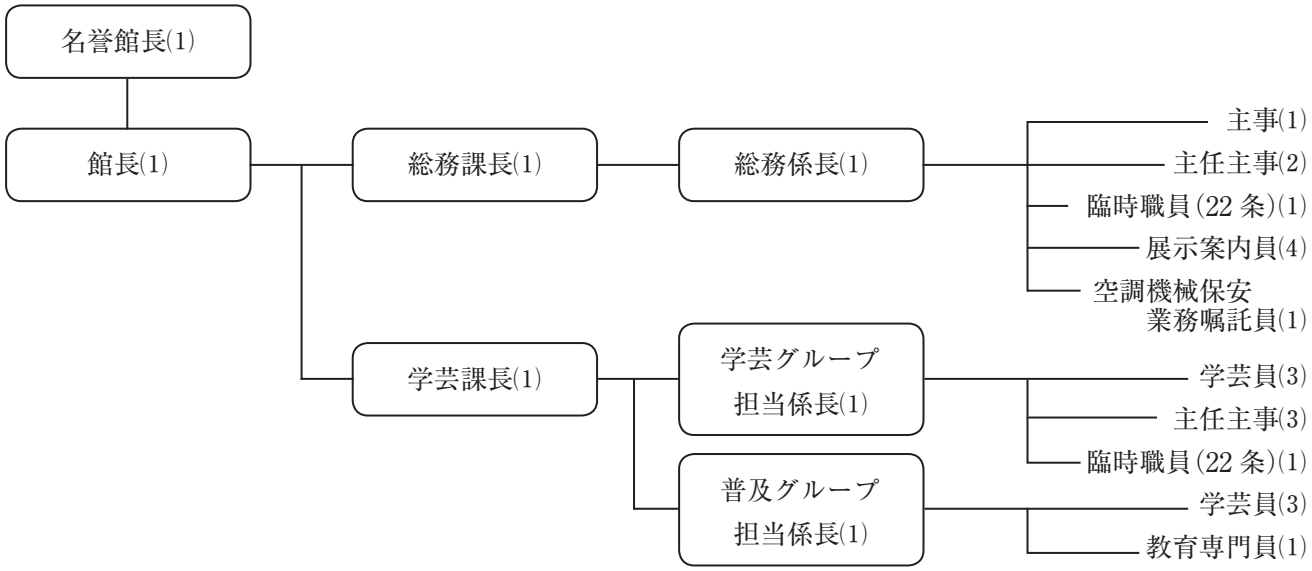
年　月	施設利用人数							自主事業参加者（再掲）		備　考
	県　民 アトリエ※1	その他 （南館相談等）	県　民 ギャラリー	ハイビジョン ギャラリー等	図　書 コーナー	その他 （講堂・研修室・特別展示室ほか）	計	講　座	その他※2	
10 ～ 30年度合計	350,494	233,394	2,037,536	82,480	218,537	846,107	3,768,548	23,626	26,377	
31年4月	567	1,480	3,623	0	541	16,771	22,982	53	1,480	
元年5月	594	1,142	3,679	0	609	10,932	16,956	326	1,300	
元年6月	650	1,054	4,389	69	571	8,746	15,479	13	524	
元年7月	627	875	3,476	0	446	8,770	14,194	71	1,100	
元年8月	672	821	9,156	0	587	7,541	18,777	124	1,058	
元年9月	776	1,366	8,923	132	605	9,957	21,759	200	1,504	
元年10月	456	1,655	4,280	83	664	16,226	23,364	187	2,396	
元年11月	576	1,267	12,390	128	613	12,820	27,794	629	2,512	
元年12月	606	706	6,049	52	398	6,890	14,701	52	410	
2年1月	668	898	7,655	0	590	9,430	19,241	205	1,878	
2年2月	602	932	2,663	0	486	7,184	11,867	207	328	
2年3月	105	972	1,137	0	380	2,588	5,182	6	0	
元年度合計	6,899	13,168	67,420	464	6,490	117,855	212,296	2,073	14,490	0
総　計	357,393	246,562	2,104,956	82,944	225,027	963,962	3,980,844	25,699	40,867	0

※1　施設利用人員の「県民アトリエ」には、友の会実技教室も含まれる。
※2　エントランス等にて開催された、美術館主催による事業の参加人数

Ⅷ　組織及び職員構成

1　組織図

職員数／27名



2　職員名簿

職　名	氏　名	職　名	氏　名
名誉館長	玉井日出夫	学芸課長	八木　誠一
館長	俊野　忠彦	学芸G担当係長	長井　健
総務課長	川吾　公政	専門学芸員	武田　信孝
総務係長	奥川　博文	〃	杉山はるか
主事	影浦　梨沙	学芸員	五味　俊晶
主任主事（再）	相原　祥二	主任主事（再）	門田　伸治
〃	桐木　敏幸	〃	宮岡　清子
臨時職員（22条）	池田　元子	〃	黒田　秀嗣
展示案内員	山﨑　さり	臨時職員（22条）	藤田　明
〃	佐山　明子	普及G担当係長	二宮　茂樹
〃	中井悠記子	教育専門員	高木　学
〃	河野みなみ	専門学芸員	鈴木　有紀
空調機械保安業務嘱託員	東　朝紀	〃	石﨑三佳子
		〃	田代亜矢子

Ⅸ　愛媛県美術館協議会委員名簿

令和２年３月31日現在

役　職	氏　　名	現　　職
会　　長	本田　元広	㈱愛媛銀行会長
副会長	秋山　一夫	前　愛媛県美術会会長
委　　員	尾崎　正明	元独立行政法人国立美術館理事 元京都国立近代美術館長・茨城県近代美術館長
〃	山脇佐江子	元姫路市立美術館長 独立行政法人国立美術館監事
〃	稲畑ルミ子	名勝依水園・寧楽美術館　学芸参与
〃	関　　厚子	セキ美術館副館長
〃	足立　一志	愛媛県小中学校長会長
〃	池田　　浩	愛媛県高等学校文化連盟会長
〃	宮﨑　　恵	愛媛県ＰＴＡ連合会副会長
〃	飯野　敦子	（公募）

設置：平成12年７月21日　（任期：２年）

X　関係法規（令和元年 10 月 1 日現在のものを掲載しています。）

1　愛媛県美術館使用料条例

（使用料の徴収）

第１条　愛媛県美術館（以下「美術館」という。）を使用する者から、この条例の定めるところにより、使用料を徴収する。

（使用料の額）

第２条　前条に規定する使用料（以下「使用料」という。）の額は、別表に定める額の範囲内で教育委員会が定める額とする。

２　前項に定めるもののほか、特別の企画による展示に係る観覧料は、当該特別の企画による展示に要する費用を勘案して教育委員会がその都度定める額とする。

（使用料の納付時期）

第３条　使用料は、美術館の使用の前に納付しなければならない。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、後納させることができる。

（使用料の減免）

第４条　教育委員会は、特に必要と認める者に対しては、その使用料を減免することができる。

（使用料の不還付）

第５条　既に納付した使用料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当するときは、この限りでない。

⑴　天災その他美術館を使用する者の責めに帰することができない理由により使用が不能となったとき。

⑵　別表施設使用料の項に掲げる施設を使用する者又は美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料の閲覧、撮影、複写、模写、模造等若しくはこれらにより得たものの展示若しくは刊行物への掲載（以下「特別利用」という。）をする者が教育委員会が定める日までに使用又は特別利用の取消しを申し出て、教育委員会がやむを得ないと認めたとき。

（委任）

第６条　この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

一部改正〔平成 12 年条例 30 号〕

附　則

この条例は、平成 10 年 10 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 24 日条例第 30 号）

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 16 年 3 月 26 日条例第 18 号）

この条例は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 21 年 3 月 24 日条例第 28 号）

1　この条例は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

2　改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、この条例の施行の日以後の許可に係る特別利用について適用する。

附　則（平成 26 年 3 月 28 日条例第 9 号抄）

（施行期日）

1　この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。（後略）

（経過措置）

3　第 16 条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

附　則（平成 29 年 3 月 24 日条例第 5 号抄）

（施行期日）

1　この条例は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。（後略）

（経過措置）

3　第 16 条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の使用に係る使用料で、施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で、施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

附　則（令和元年 7 月 9 日条例第 3 号抄）

（施行期日）

1　この条例は、令和元年 10 月 1 日から施行する。（後略）

（経過措置）

3　第 15 条の規定による改正後の愛媛県美術館使用料条例別表の規定は、施行日以後の試験、検査、鑑定、調査、研究、分析、使用、占用等（以下「試験等」という。）に係る使用料で施行日以後にその全額又は未徴収額について徴収するものについて適用し、施行日前の試験等に係る使用料並びに施行日以後の試験等に係る使用料で施行日前にその全額について徴収したものについては、なお従前の例による。

別表（第２条、第５条関係）

種　別			単　位	金　額
常設展観覧料			１人１回につき	500 円
施設使用料	展示室		１室１日につき	29,450 円
	講堂		１日につき	7,830 円
	研修室		１日につき	4,680 円
	県民ギャラリー	全室使用	１日につき	54,480 円
		単室使用	１室１日につき	15,110 円
特別利用料			１点１回につき	5,230 円

2　愛媛県美術館管理規則

（目的）

第１条　この規則は、愛媛県美術館（以下「美術館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（事業）

第２条　美術館は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第３条に規定する事業を行う。

（開館時間）

第３条　美術館の開館時間は、午前９時 40 分から午後６時までとする。

２　館長は、特別の事情があると認めるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。

（休館日）

第４条　美術館の休館日は、次のとおりとする。

⑴　毎月の第１月曜日以外の月曜日及び当該第１月曜日の翌日（これらの日が国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、当該休日の直後の休日でない日）

⑵　１月１日から３日まで及び 12 月 29 日から 31 日まで

２　館長は、特別の事情があると認めるときは、臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

（入館の制限）

第５条　館長は、次の各号のいずれかに該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

⑴　美術館の秩序を乱し、又は乱すおそれのある者

⑵　美術館が収集し、保管し、若しくは展示する美術品及び美術に関する資料（以下「美術館の美術品等」という。）又は美術館の施設、附属設備等を滅失し若しくは損傷し、又は滅失し若しくは損傷するおそれのある者

⑶　その他美術館の職員の指示に従わない者

（観覧券の交付）

第６条　館長は、美術館が展示する美術品及び美術に関する資料を観覧しようとする者が観覧料を納付したときは、観覧券を交付する。

（使用の許可）

第７条　美術館の施設のうち、次の各号に掲げる施設を使用しようとする者は、それぞれ当該各号に定める期間内に愛媛県美術館使用許可申請書（様式第１号。以下「使用許可申請書」という。）を教育委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

⑴　企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー　使用日の１年前から７日前まで

⑵　研修室　使用日の６月前から２日前まで

２　教育委員会は、前項の規定による使用の許可の申請があった場合において、使用が適当であると認めるときは、使用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館使用許可書（様式第２号。以下「使用許可書」という。）を交付するものとする。この場合において、美術館の管理運営上又は公益上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

３　教育委員会は、第１項に定める期間外に使用許可申請書の提出があった場合であっても、特に理由があると認めるときは、同項の使用の許可をすることがある。

（許可の基準）

第８条　教育委員会は、美術館を使用しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、前条第１項の使用の許可をしないものとする。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

⑴　美術館の秩序を乱すおそれがあるとき。

⑵　美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷するおそれがあるとき。

（使用の許可の変更）

第９条　第７条第１項の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、使用日時、入場料徴収の有無その他教育委員会が定める事項を変更しようとするときは、あらかじめ愛媛県美術館使用変更許可申請書（様式第３号）に使用許可書を添えて教育委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

（使用の許可の取消し等）

第 10 条　教育委員会は、使用者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、その使用の許可を取り消し、又は使用を制限し、若しくは停止することがある。美術館の管理運営上やむを得ない理由があるときも、同様とする。

⑴　この規則に違反し、又は美術館の職員の指示に従わないとき。

⑵　偽りその他不正な手段により使用の許可を受けたとき。

⑶　風俗を乱すおそれがあるとき。

⑷　使用の許可の条件に違反したとき。

（使用料の額）

第 11 条　愛媛県美術館使用料条例（平成 10 年愛媛県条例第 26 号。以下「条例」という。）第２条第１項に規定する教育委員会が定める使用料の額は、別表に掲げるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 12 条　教育委員会は、条例第４条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、観覧料を免除する。

⑴　教育課程に基づく学習活動として展示室を観覧する県内の高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の生徒及びその引率者

⑵　身体に障害を有する者で、本人又はその保護者が身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）第 15 条に規

定する身体障害者手帳の交付を受けているもの及びその介護者

⑶　都道府県又は地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第１項の指定都市から療育手帳の交付を受けている者及びその介護者

⑷　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者

⑸　65歳以上の者

２　教育委員会は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第４条の規定に基づき、観覧料を免除し、又はその一部を減額することがある。

３　前２項の規定にかかわらず、特別の企画による展示に係る観覧料の減免については、教育委員会がその都度定める。

４　第１項第１号の規定により観覧料の免除を受けようとするときは、あらかじめ、学校長が愛媛県美術館観覧料免除申請書（様式第４号）を教育委員会に提出しなければならない。

５　第１項第２号から第５号までの各号の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、当該各号に該当することを証する書類を提示しなければならない。

（特別利用料の減免）

第13条　教育委員会は、条例第４条の規定に基づき、次に掲げる者に対しては、特別利用（条例第５条第２号に規定する特別利用をいう。以下同じ。）に係る使用料（以下「特別利用料」という。）を免除する。

⑴　美術に関する教育、学術上の調査研究又は啓発のために特別利用をする者で、教育委員会が必要と認めるもの

⑵　美術館の広報に関し効果があると認められる用途に供することを目的として特別利用をする者

２　教育委員会は、前項に定めるもののほか、必要と認めるときは、条例第４条の規定に基づき、特別利用料を免除し、又はその一部を減額することがある。

（使用料の還付）

第14条　条例第５条第２号に規定する教育委員会が定める日は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

⑴　企画展示室、常設展示室、特別展示室、講堂及び県民ギャラリー　使用日の30日前の日

⑵　研修室　使用日の７日前の日

⑶　美術館の美術品等　特別利用日の前日

第15条　条例第５条ただし書の規定により、教育委員会は、次の各号に掲げる場合においては、それぞれ当該各号に定める額を還付する。

⑴　条例第５条第１号に該当する場合　使用料の全額

⑵　条例第５条第２号に該当する場合　使用料の50パーセントに相当する額

２　前項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、愛媛県美術館使用料還付申請書（様式第５号）を教育委員会に提出しなければならない。

（美術館の美術品等の特別利用）

第16条　美術館の美術品等の特別利用をしようとする者は、館長に愛媛県美術館美術品等特別利用許可申請書（様式第６号）を提出し、その許可を受けなければならない。

２　前項の場合において、特別利用に係る美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同項の申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

３　館長は、第１項の規定による特別利用の許可の申請があった場合において、特別利用が適当であると認めるときは、特別利用の許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館美術品等特別利用許可書（様式第７号）を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

（美術館の美術品等の館外貸出し）

第17条　館長は、美術館の業務に支障がない場合であって、美術に関する学術上の調査研究又は啓発のために特に必要と認められ、かつ、美術館の美術品等の取扱い上の安全が確認できるときは、美術館の美術品等の館外貸出しを行うことができる。

２　前項の規定により美術館の美術品等の館外貸出しを受けようとする者は、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可申請書（様式第８号）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。この場合において、当該美術館の美術品等が寄託されたものであるときは、同申請書に、当該美術館の美術品等の寄託者の承諾書を添付しなければならない。

３　館長は、前項の規定による館外貸出しの許可の申請があった場合において、館外貸出しが適当であると認めるときは、館外貸出しの許可を決定し、当該申請をした者に対し、愛媛県美術館美術品等館外貸出許可書（様式第９号）を交付しなければならない。この場合において、美術館の美術品等の管理上必要があると認めるときは、許可に条件を付することがある。

４　美術館の美術品等の館外貸出期間は、50日以内とする。ただし、館長がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りでない。

５　館長は、館外貸出期間中であっても、館外貸出しを許可した美術館の美術品等の返還を求めることができる。

（美術品等の寄贈又は寄託）

第18条　美術館は、美術品及び美術に関する資料（以下こ

の条において「美術品等」という。）の寄贈又は寄託を受けることができる。

2　美術館に美術品等を寄贈しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄贈申出書（様式第10号）を、美術品等を寄託しようとする者は愛媛県美術館美術品等寄託申請書（様式第11号）を館長に提出しなければならない。

3　館長は、前項の規定による寄贈の申出又は寄託の申請があった場合において、当該寄贈の申出又は寄託の申請に係る美術品等の受入れが適当であると認め、当該美術品等の寄贈又は寄託を受けたときは、寄贈者又は寄託者に対し、愛媛県美術館寄贈美術品等受領証（様式第12号）又は愛媛県美術館寄託美術品等預り証（様式第13号）を交付しなければならない。

4　寄託を受ける美術品等の取扱いについては、館長が寄託しようとする者と協議して定める。

5　美術館は、寄託を受けた美術品等の不可抗力による損害に対しては、その責めを負わないものとする。

（損害賠償等）

第19条　自己の責めに帰すべき理由により、美術館の美術品等又は美術館の施設、附属設備等を滅失し、又は損傷した者は、原状回復をし、又はそれによって生じた損害を賠償しなければならない。

（補則）

第20条　この規則に定めるもののほか、美術館の管理運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附　則

1　この規則は、公布の日から施行する。

2　この規則施行の際現に愛媛県美術館使用規則（平成10年愛媛県規則第50号）の規定により、知事若しくは館長が行った処分その他の行為で現にその効力を有するもの又は現に知事若しくは館長に対してなされている申請その他の行為は、この規則施行の日以後においては、この規則の相当規定により、教育委員会若しくは館長が行った処分その他の行為又は教育委員会若しくは館長に対してなされた申請その他の行為とみなす。

附　則（平成13年3月30日教育委員会規則第4号）

（施行期日）

1　この規則は、平成13年4月1日から施行する。

（経過措置）

2　この規則施行の際現に提出されている改正前のそれぞれの規則の様式の規定による申請書その他の書類は、改正後のそれぞれの規則の様式の規定による申請書その他の書類とみなす。

3　この規則施行の際現にある改正前のそれぞれの規則の様式の規定による書類の用紙は、当分の間、これを訂正して使用することができる。

附　則（平成13年4月1日教育委員会規則第6号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成14年3月29日教育委員会規則第5号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附　則（平成17年3月29日教育委員会規則第3号）

1　この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2　第3条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表1の表の規定は、この規則の施行の日以後に徴収する常設展観覧料について適用し、同日前に徴収した常設展観覧料については、なお従前の例による。

附　則（平成17年4月1日教育委員会規則第7号抄）

（施行期日）

1　この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成18年3月31日教育委員会規則第2号）

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附　則（平成18年4月1日教育委員会規則第6号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成18年9月1日教育委員会規則第11号）

（施行期日）

1　この規則は、公布の日から施行する。

（経過措置）

2　この規則施行の際現に改正前のそれぞれの規則の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後のそれぞれの規則の様式の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3　この規則施行の際現にある改正前のそれぞれの規則の様式の規定による書類の用紙は、平成18年度に限り使用することができる。

附　則（平成19年3月30日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則（平成19年3月30日教育委員会規則第5号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附　則（平成20年8月29日教育委員会規則第17号）

1　この規則は、平成20年9月1日から施行する。

2　この規則施行の際現に改正前の愛媛県美術館管理規則様式第1号及び様式第2号の規定により提出され、又は交付している書類は、それぞれ改正後の愛媛県美術館管理規則様式第1号及び様式第2号の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附　則（平成21年3月31日教育委員会規則第5号）

1　この規則は、平成21年4月1日から施行する。

2　この規則施行の際現に改正前の愛媛県美術館管理規則様式第1号、様式第2号及び様式第5号から様式第13号までの規定により提出され、又は交付している書類は、それぞれ改正後の愛媛県美術館管理規則様式第1号、様式第2号及び様式第5号から様式第13号までの規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附　則（平成22年4月1日教育委員会規則第4号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成26年3月28日教育委員会規則第2号抄）

（施行期日）

1　この規則は、平成26年4月1日から施行する。

（経過措置）

2　第4条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、この規則の施行の日（以下「施行日」という。）以後の使用に係る使用料で施行日以後に徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で施行日前に徴収したものについては、なお従前の例による。

附　則（平成26年4月1日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成28年3月31日教育委員会規則第2号抄）

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

附　則（平成29年3月24日教育委員会規則第2号抄）

1　この規則は、平成29年4月1日から施行する。

2　改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、この規則の施行の日（以下「施行日」という。）以後の使用に係る使用料で施行日以後に徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で施工日前に徴収したものについては、なお従前の例による。

附　則（平成30年4月1日教育委員会規則第2号抄）

1　この規則は、公布の日から施行する。

附　則（令和元年7月30日教育委員会規則第2号抄）

（施行期日）

1　この規則は、令和元年10月1日から施行する。

（経過措置）

2　第4条の規定による改正後の愛媛県美術館管理規則別表の規定は、この規則の施行の日（以下「施行日」という。）以後の使用に係る使用料で施行日以後に徴収するものについて適用し、施行日前の使用に係る使用料及び施行日以後の使用に係る使用料で施行日前に徴収したものについては、なお従前の例による。

別表（第11条関係）

1　常設展観覧料

区　分	一　般	団体（20人以上）
1　高等学校及び中等教育学校の後期課程の生徒、大学の学生その他これらに類する者	200円	160円
2　15歳以上の者（中学校及び中等教育学校の前期課程の生徒並びに1に該当する者を除く。）	310円	250円

2　施設使用料

区　分			使用料
企画展示室1	入場料が無料の場合		15,040円
	入場料が有料の場合		24,060円
企画展示室2	入場料が無料の場合		15,040円
	入場料が有料の場合		24,060円
常設展示室1	入場料が無料の場合		13,610円
	入場料が有料の場合		21,770円
常設展示室2	入場料が無料の場合		18,410円
	入場料が有料の場合		29,450円
常設展示室3	入場料が無料の場合		12,030円
	入場料が有料の場合		19,240円
特別展示室1	入場料が無料の場合		5,070円
	入場料が有料の場合		8,110円
特別展示室2	入場料が無料の場合		3,570円
	入場料が有料の場合		5,710円
特別展示室3	入場料が無料の場合		5,930円
	入場料が有料の場合		9,480円
講　堂	入場料が無料の場合	午前9時40分から正午まで	1,840円
		午後1時から午後6時まで	3,060円
		全日（午前9時40分から午後6時まで）	4,900円
	入場料が有料の場合	午前9時40分から正午まで	2,940円
		午後1時から午後6時まで	4,890円
		全日（午前9時40分から午後6時まで）	7,830円
研　修　室	午前9時40分から正午まで		2,030円
	午後1時から午後6時まで		2,650円
	全日（午前9時40分から午後6時まで）		4,680円
県民ギャラリー1			15,110円
県民ギャラリー2			11,870円
県民ギャラリー3			3,230円
県民ギャラリー4			4,310円
県民ギャラリー5			4,310円
県民ギャラリー6			2,150円
県民ギャラリー7			2,150円
県民ギャラリー8			6,470円
県民ギャラリー9			2,800円
県民ギャラリー10			2,900円
県民ギャラリー11			2,900円
県民ギャラリー12			3,230円

注　県民ギャラリーをすべて使用する場合の使用料は、この表の規定にかかわらず、54,480円とする。

3　特別利用料

区　分	単　位	金　額
閲覧	1点1日につき	520円
模写・模造	1点1日につき	5,230円
撮影・複写	1点1回につき	5,230円
原版使用	1点1回につき	5,230円

注1　文書は、1葉を1点とする。
2　びょうぶは、1隻を1点とする。
3　1そろいをなす巻子は、1巻を1点とする。
4　掛軸は、1幅を1点とする。
5　小型の物で1組又は1箱となっているものは、1組又は1箱を1点とする。
6　多数の物で1そろい又は1具となっているものは、数量に応じて数点に分けるものとする。
7　その他の資料は、各個を1点とする。

※　様式については、掲載を省略します。
施設使用許可申請書が必要な場合は、愛媛県美術館ホームページ(https://www.ehime-art.jp/)を参照してください。

3　愛媛県博物館協議会設置条例

(設置)

第1条　博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館に、それぞれ同表の右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

愛媛県総合科学博物館	愛媛県総合科学博物館協議会
愛媛県歴史文化博物館	愛媛県歴史文化博物館協議会
愛媛県美術館	愛媛県美術館協議会

(任命の基準)

第2条　協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命する。

(定数)

第3条　委員の定数は、それぞれ14人以内とする。

(任期)

第4条　委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第5条　この条例に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

4　愛媛県美術館協議会運営規則

(趣旨)

第1条　この規則は、愛媛県博物館協議会設置条例(平成12年愛媛県条例第31号)第5条の規定に基づき、愛媛県美術館協議会(以下「協議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条　協議会に会長及び副会長1人を置く。

2　会長及び副会長は、協議会の委員(以下「委員」という。)の互選による。

3　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代行する。

(招集)

第3条　協議会の会議(以下「会議」という。)は、愛媛県美術館長が招集する。

2　会議の日時、開催場所及び会議に付議する事項は、あらかじめ委員に通知しなければならない。

(会議)

第4条　会議は、会長が主宰する。

2　会議は、委員の過半数が出席しなければ、開くことができない。

3　会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条　協議会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

(委任)

第6条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

附　則(平成24年3月27日教育委員会規則第1号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

5　愛媛県美術品等収集評価委員会設置要綱

(設置)

第1条　美術作品の収集等に関する事務を適正かつ円滑に行うことを目的として、愛媛県美術品等収集評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(任務)

第2条　委員会は、次の事項について教育長の諮問に応じて審議を行う。

(1)　美術作品の選定及び評価に関すること。
(2)　美術作品の情報提供に関すること。
(3)　その他必要な事項に関すること。

（組織）

第３条　委員会は、委員７人以内をもって組織する。

２　委員は、美術に関する知識を有する者の中から、教育長が委嘱する。

（委員長及び副委員長）

第４条　委員会に委員長及び副委員長各１人を置く。

２　委員長は、委員のうちから互選し、副委員長は委員長が指名する。

３　委員長は、会務を総理する。

４　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第５条　委員会の会議は、委員長が招集する。

２　委員会の会議には、委員長が必要に応じて、委員でない者の出席を求めることができる。

（任期）

第６条　委員の任期は、委嘱の日から２年間とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（庶務）

第７条　委員会の庶務は、愛媛県美術館において処理する。

（その他）

第８条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は教育長が定める。

附　則

この要綱は、平成 12 年４月１日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 14 年２月５日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 16 年２月 20 日から施行する。

附　則

この要綱は、平成 18 年３月３日から施行する。

Ⅺ　施設・設備の概要

○ 新　　館

(1) 施　　設

所 在 地　愛媛県松山市堀之内
設　　計　株式会社日建設計
施　　工
　建　　築　大成・野間共同企業体
　電　　気　四電工・三信電設共同企業体
　空　　調　須賀・日比谷共同企業体
　衛　　生　株式会社ダイイチマリン
　昇 降 機　三菱電機株式会社
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造　地上３階地下１階
敷 地 面 積　7,199.73㎡
建 築 面 積　3,218.78㎡
延 床 面 積　10,365.46㎡
仕 上 げ　外　　部　特注磁器質ボーダータイル
　　打込ＰＣ版
　屋　　根　鋼板段葺・アルミハニカムパネル
　　アスファルト防水の上コンクリートパネル敷
　特 殊 工 法　ＰＣ版圧着構造・外壁大型カーテンウォール

(2) 設　　備

空 調 設 備
　空調方式　中央ダクト方式・パッケージ方式・ファンコイル方式
　主要熱源機　直だき吸収冷温水機・空気熱源ヒートポンプユニット
　熱源設備　（ガス焚吸収式冷温水機）＋（空気熱源回収形ヒートポンプ）
　　＋（冷温水蓄熱槽）組み合わせ方式
　容　　量　ガス焚吸収式冷温水機　150R ton×１台
　　空気熱源熱回収形ヒートポンプ　100R ton×１台
空調系統・空調方式　展 示 室　８系統　単一ダクト変風量
　収 蔵 庫　４系統　単一ダクト定風量方式
　　一部ファンコイル併用
　一　　般　15系統　単一ダクト定風量方式
　　単一ダクト変風量
　　（ファンVAV）方式
　１Ｆ中監盤室、講師控室、ボランティア室
　　ビル用マルチパッケージ方式
　換 気 設 備　熱源機械室、電気室、特殊ガスボンベ室、荷捌室、EV機械室他は第１種換気とし、便所、湯沸他は第３種換気とする。
　排 煙 設 備　自然排煙…エントランスホール等
　機械排煙…BF廊下、企画展示室(1)、(2)、常設展示室(1)、(2)、展示ロビー(3)、搬入口、荷解室、ハイビジョンギャラリー
　蓄 熱 槽　冷水槽…540㎥、温水槽…170㎥

(床下二重ピット利用)

電 気 設 備
　引　　込　高圧・架空
　電　　灯　Tr200KVA×３台
　動　　力　Tr500KVA×２台
　コンデンサ　低圧　50KVr×６台
　リアクトル　低圧　3KVr×６台
　発 電 機　３φ３W220∀　205K∀A・240PS　１φ３W　110∀
　　６Kw　ディーゼル軽油

直流電源　サイリスタ全自動式整流器　３φ３Ｗ　200V　10時間　MS－E　300Ah／54セル
放送機器　出力（非常・業務）720W　出力（BGM）360w
　　卓上型２台　ワイヤレス　800MHz
テレビ共聴　VHF・UHF・BSアンテナ
電　　話　PCM時分割方式　一般内線 90/120内線 10/10回線 64局線 1/10回線　PHS接続装置10/10回線　アナログ局線10/12回線　INS1500局１／４回線
ｲﾝﾀｰﾎﾝ　身障者用・夜間訪問用
電気時計　ダイチ製　DC－3002、DC－3006
火報防火扉　GP型１級50回線　副表示20L　諸警報55L　防排煙130L　ガス漏れ５L
表示設備　DC24V発光ダイオード（２モード形）

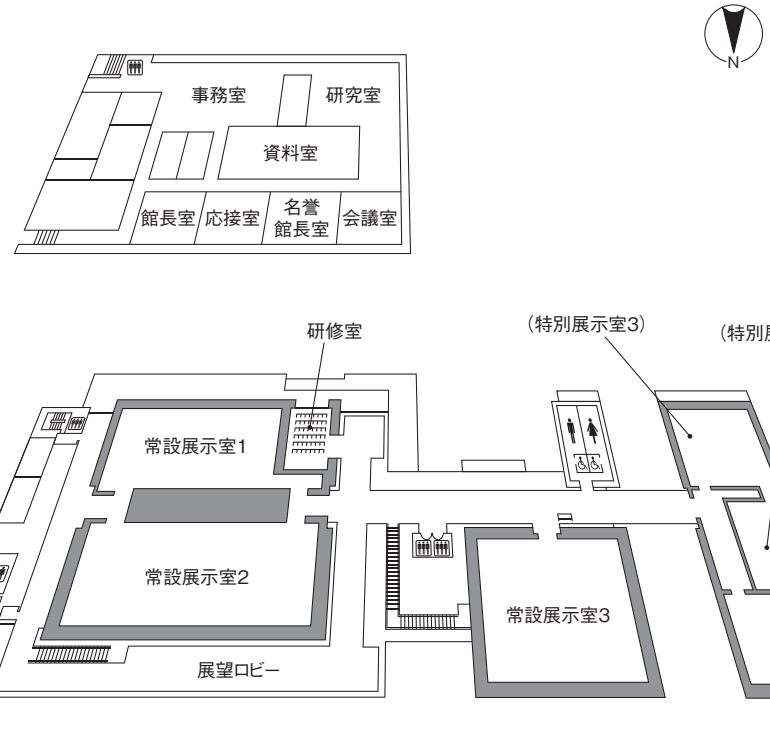
衛生設備
給水設備　飲　用　松山市上水道引き込み（50mm）→受水槽（11㎥）加圧ポンプ方式
　　雑　用　雨水利用+井水→受水槽（28㎥）　加圧ポンプ方式
給湯設備　中央給湯方式（太陽熱利用）＋局所方式
　　真空式温水ヒーター　100,000kcal/H２台
　　貯湯槽　２㎥　２台
　　電気湯沸器　30リットル８台
排水設備　建物内汚水・雑排水分流方式（雨水は分流）
都市ｶﾞｽ設備(中圧)　吸収式冷温水機及び真空式温水ヒーターに供給
消火設備　屋内消火栓設備、連結散水設備（５系統）、イナージェン消火設備（６系統）、
　　消火器設備、移動式粉末消火設備、フード消火設備（厨房）
その他　太陽熱利用設備、雨水再利用設備（有効水量206㎥）、井水設備
昇降機設備　乗用油圧エレベーター（15人乗　車椅子対応）２台
　　乗用油圧エレベーター（11人乗　車椅子対応）１台
　　荷物用油圧エレベーター（4,200kg Wカゴ3,500mm×D4,800mm×H3,000mm）１台

○　南　　館
(1)　施　　設
所在地　愛媛県松山市堀之内
構　　造　鉄筋コンクリート造
　　地上３階地下１階
敷地面積　2,301.50㎡
建築面積　921.20㎡
延床面積　4,296.69㎡

区　分		室　名	面　積（㎡）
南館	創作部門	県民ギャラリー１～12	2,004
		県民アトリエ１	68
		県民アトリエ２	105
		実技教室	124

● 館内案内図 ●

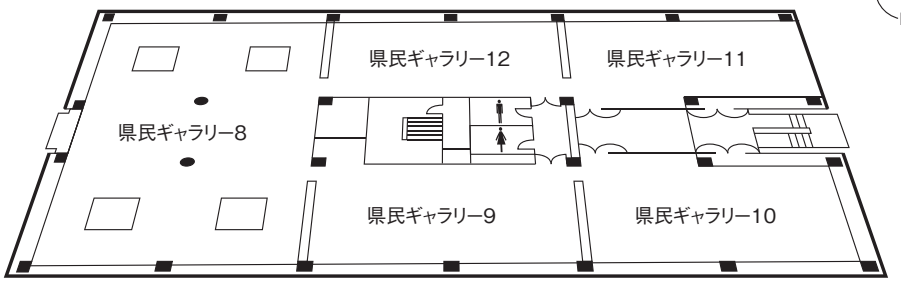
新館フロア


N
3階
事務室
研究室
資料室
館長室
応接室
名誉館長室
会議室
2階
研修室
(特別展示室3)
(特別展示室2)
常設展示室1
常設展示室2
常設展示室3
展望ロビー
(特別展示室1)
1階
南館へ
多目的ルーム
(ハイビジョンギャラリー)
中庭
講堂
搬入口
荷解室
企画展示室1
企画展示室2
エントランスホール
総合案内
一時保管庫
機械室
ミュージアムショップ
レストラン
ハイビジョンブース
美術情報・図書コーナー
地下1階
燻蒸室
作業室
展示備品倉庫
機械室
機械室
第3収蔵庫
第1収蔵庫
第2収蔵庫
撮影室
機械室
電気室
機械室

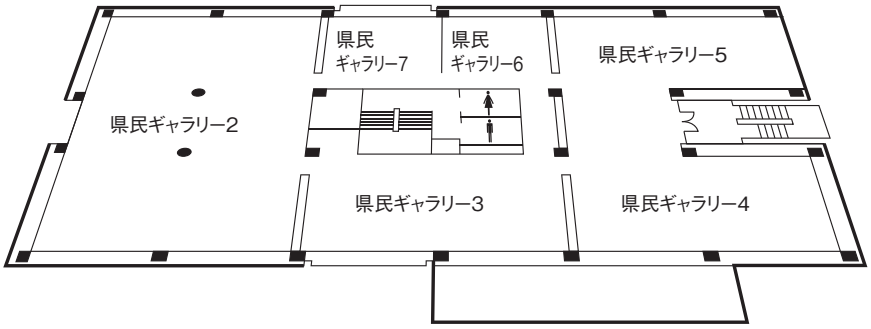
● 館内案内図 ●

南館フロア

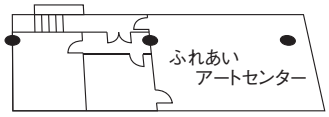
3階



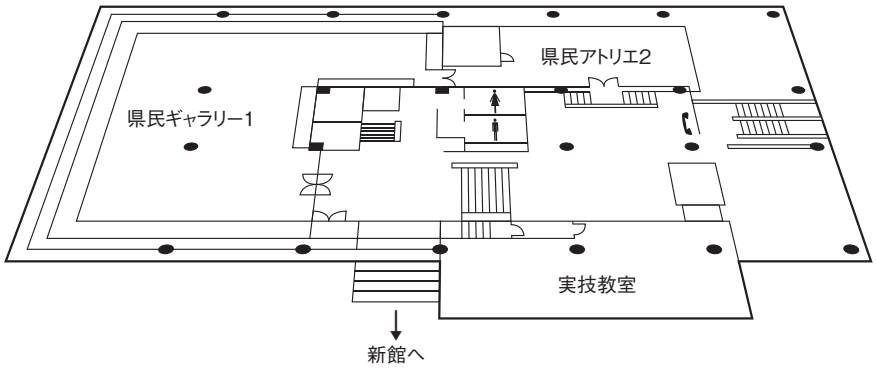
2階



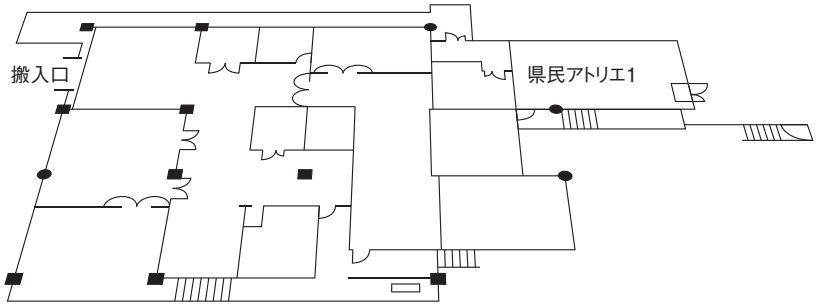
中2階



1階



地下1階



愛媛県美術館

研究紀要　第19号

BULLETIN

THE MUSEUM OF ART,EHIME

開催報告「1970 ⇔ 2020　未来へ　愛媛県立美術館設立 50 周年記念展」

杉山　はるか

はじめに

愛媛県美術館[i]の前身である愛媛県立美術館は、1970（昭和45）年9月1日に開館した。2020年は開館50周年を記念する年であり、記念展として県立美術館が設立された50年前に遡り、開館前後の愛媛県内の美術について振り返るとともに、その遺産を次の世代へと引き継いでゆく契機とすることを目的とした展覧会を企画した。

県立美術館誕生の原動力となったのは、愛媛県美術会を始めとする多くの人々の熱意であった。多くの芸術家たちに切望された、美術品を展示するためだけに特化した美術館について語る上で、その設立を巡る歴史的背景を検証することは重要な道標となるだろう。

また、50年前の愛媛県内の美術の状況に目を向けると、1952（昭和27）年に創設され20年近く精力的に活動を続けていた愛媛県美術会が主催する県展が開かれていたことに加え、新たな美術の動きも芽生えていた。そのひとつが、1965（昭和40）年に結成された高階重紀を委員長とする愛媛現代美術家集団であり、また、森堯茂や坪内晃幸を筆頭に前衛美術の動きが県内のあちらこちらで起こっていた。

本展ではこのような時代背景の中で建設された、美術館の建築自体にも着目し、その魅力を再発見する機会とした。そして、開館記念展となった「郷土作家展」。愛媛ゆかりの芸術家たちが約300人参加し、全館を使用して開催された盛大な展覧会であった。この展覧会出品作の内約20点が美術館に寄贈され、美術館の最初の収蔵作品となったのである。今回はこの郷土作家展を再現するとともに、開館初期に収蔵された作品を一望することにより、館のコレクションの成り立ちを改めて振り返ることとなった。

以下4章から成る本展を章ごとにまとめることとしたい。

1章　愛媛県立美術館設立への道

県内における総合美術展を振り返ると大正期に遡る[ii]が、会場は県公会堂であり、美術展だけではなく式典や講習会など様々な催しが開催された建物であった。その後も大規模な展覧会は県図書館や市庁ホール、三越百貨店、ヤママン百貨店、愛媛新聞社などの複数の会場に分けて開催されている。愛媛県美術会が発足し、第2回県展以降は、丹下健三が設計し、堀之内公園内に建設された愛媛県民館で開催されることとなったが、この建物は本来国体開催に際して設計されたものであり、美術展開催のためには仮設壁の設営や照明のことなど多くの不便が伴っていた。第2回県展の際の目録（図1）には、建築部[iii]の出品作として「美術館草案」が掲載されている。美術会では県展の開催に当たり未来の美術館の設計図を募集し、これに対して20点の作品が寄せられたのである。

一方で、県内における「美術館」の起源をたどる中で着目したのが、1927（昭和2）年の春の出来事である。国鉄予讃線の開通を祝して堀之内公園で開催された全国産業博覧会の関連事業として、現代美術展覧会（主催：松山美術協会[iv]）が道後公園内で開かれたのであるが、そのために仮設ではあるものの「道後美術館」（図2）が建設された。芸術家たちが主導で立ち上げられた美術館の姿に、県立美術館の姿が重なってみえる。

美術館設立に向けての動きが視覚的に如実に表れているのが、歴代県展のポスターである。1963（昭和38）年11月に開催された第12回秋季県展のポスター（図3）において初めて、「愛媛美術館建設推進のための」というキャッチコピーがタイトルの一部として大きく謳われている。その後も継続してこのコピーがポスターデザインに組み込まれ、さらには展覧会には美術館設立資金募集のための募金展が併設されていることも見て取れる。県の美術界の支柱として長らく中心的役割を果たしてきた藤谷庸夫、そしてその志を継いで県展の理事長となった河本一男、小泉政孝、また小泉と

ともに双璧として県展を率いた石井南放らによる長年の県や県内の経済界への熱心な働きかけが実を結び、いよいよ県知事・久松定武を会長とした「愛媛美術博物館建設期成会」が発足したのが1965（昭和40）年5月のことであった。本展では、美術館設立協力団体として、設立の際に期成会への参加や寄付を賜るなど様々な側面で支援してくださった団体を再調査して図録へと記載させていただいた。[v]

この期成会発足の同年1965（昭和40）年の1月に結成されたのが、愛媛現代美術家集団（通称：現美）である。髙階重紀、岡本鐵四郎、三輪田俊助らが中心となり、抽象表現を軸にした新しい傾向の作品が愛媛新聞社4階ホールで開催された第1回展で発表された。この現美においても、第4回展では美術館設立募金のための即売小品展を開催し、目録でも大きく美術館設立への協力を謳っている。（図4）

この現在も継続する現美結成においても支援した愛媛新聞社は、その長い歴史の中で、総合美術展などの大規模展も主導する[vi]など県内文化の発展に大きく貢献した企業である。美術館設立当時の取締役社長・高橋士は前述の期成会に向けての準備委員会においても中心的な役割を果たしている。

2章　愛媛野外美術展の時代

また、50年前は、愛媛県内でも前衛美術が大きく花開いた時代でもあった。その象徴ともいえるのが、1969（昭和44）年と翌年に開催された愛媛野外美術展である。会場は県立美術館が開館することになる堀之内公園を取り囲む、堀の堤や水辺であった。周辺には県庁や松山市庁舎が隣接し、見上げると松山城を望むこの場所は、現在も変わらず愛媛県の中心地といえるが、この場所に色とりどりで様々な材質から成る斬新な形状をした作品群が立ち並ぶ光景は、さぞかし見応えがあったことだろう。

この展覧会を中心となって支えたのは、坪内晃幸であった。坪内は吉原治良を中心に発足した具体美術協会に初期から参加し、松山に拠点を置きながらも精力的に出品を続けていた。県外で活動するだけではなく、その経験を生かして県内でもグループ展を企画し、県内での前衛美術の興隆の基盤を築きつつあった。そうした中で1966（昭和41）年に坪内が立ち上げたNEO BLOCKには、向井正孝、橘松子、中平達子、沢井善一が参加し、開廊したばかりのプランタン画廊で結成展が開かれた。時を同じくしてそのひと月後に同プランタン画廊で創立展を開催したのが三八会のメンバーである。同じ愛媛大学教育学部に学んだ矢野徹志、土居進、福井壽泰らがグループを結成し、それぞれの個性を発揮した展覧会を開催するだけではなく、県内美術全体の活性化を念頭に置いた会報誌を作成した。1968（昭和43）年から翌年にかけて3回のみ発行された『ART EHIME』（図5）は、若手作家から県展の理事長である小泉政孝まで、また文化部記者や画廊経営者なども含めあらゆる立場の美術に関連する人々の声を拾い、当時の県内美術をたどる上で貴重な資料となっている。矢野徹志は、1970（昭和45）年4月から新設の県立美術館の職員として勤務し、自らも作家として活動を続けながら、初代学芸員としてその後の前衛美術を始めとする様々な展覧会の開催の上でも重要な役割を担うことになった。

さらに本展では、新居浜市における美術の発展についても新居浜市美術館学芸員・井須圭太郎氏の協力を得て特化して取り上げることができた。[vii]住友の基盤となった別子銅山を配する新居浜では、県内でも独自の文化が発達した。新居浜で受け継がれてきた美術の流れを汲んだ新たな美術グループ「新創作」が発足したのが1964（昭和39）年。中心的立場にあった筒井年男や西原元らが現美にも参加し、またその後のグループ展を松山でも開催するなど、その活動は新居浜市内に留まることはなかった。

また、森堯茂の存在も忘れてはならない。上京し、抽象表現による彫刻の騎手として関東を中心に全国各地の野外展を始めとする展覧会に出品を重ねていた森は、1965（昭和40）年に松山に拠点を移した。森が1968（昭和43）年11月のNEO BLOCK展に招待作家として参加したことを機に、野外展の実現へ向けて急速に動き出したといえるだろう。県内では新しい画廊も次々と生まれており、人々が活発に美術作品を制作し、発表をしていた時分でもあった。新しい美術が大きく花開く下地が整っていたのである。

具体的な愛媛野外美術展の概要やその後の展開については、本展図録の拙文を参照していただきたいが、ここでは展覧会会期中に新たに収集した情報について触れさせていただく。第2回愛媛野外美術展の目録に出品作家として記載されている木田山日出夫は、出品の有無は依然不明ではあるが、美術評論家としてのみならず教育学者、また俳人として、拠点であった香川県内だけではなく、全国の有識者たちを相手に活発に活動しており、愛媛県内の作家や美術関係者とも幅広

く交流していた。[viii]また、同じく香川県から第2回展に参加した和田守弘が遺していた写真の中に、共に野外展に出品した嶝野寿蔵の作品制作を手伝う様子が写っていたことから、嶝野が所持していた同様の写真に写っている人物のひとりが和田であることが判明した。二人は当時同じ多摩美術大学で学んでおり、親しく交流していたことがうかがわれる。さらに、和田と嶝野双方が保管していた写真には、こちらも現時点では制作者不明であるが、水辺に浮かぶ作品を小舟に乗って展示する様子が写されていた。[ix]（図6）このように出品作家たちが互いに協力して作品制作や展示に当たった様子が見て取れるが、判明していない作家や作品についてなど、今後また継続して調査を進めることとしたい。

また本展では、当時の出品作家らの協力を得て、野外展出品作等の再制作が実現し、展覧会の大きな見どころとなった。（図7）

3章　愛媛県立美術館誕生と郷土作家展

愛媛県立美術館は、「愛媛県立美術博物館」という名称で設立準備が進められた[x]。その基礎設計の時点より、大きく関わっていたのは当然のことながら愛媛県美術会であり、県展を中心とした大規模展の実施という具体的な目的に即して様々な意向が汲み取られた。3者による競技設計を経て最終的に設計を担当することになったのは、大阪を拠点に現在も続く三座建築事務所であった。その創設者のひとりであり、所長でもあった徳永正三は、愛媛県今治市出身であり、その尋常小学校時代の同窓生には丹下健三がいた。丹下が設計した愛媛県民館の南側に、徳永の手による愛媛県立美術館が建つことになったのである。新設美術館は、周囲の豊かな木々の緑に溶け込むモダンな建物として誕生することになるが（図8）、本展では県建築住宅課の橘主幹に論考を依頼し、同氏の調査の成果である、三座建築事務所に残されていた貴重な設計図や写真などから、この美術館の新しい魅力を発掘した。[xi]この当時の建物は現在の美術館の南館であり、改修工事や耐震化工事を経て、ギャラリーや創作活動のための空間として活用を続けている。

1970（昭和45）年9月1日にオープンした美術館の開館記念展として、「郷土作家展」が開催された。9月1日から3日までという3日間のみの実施ではあったが、県ゆかりの作家約300名が参加し、地域に根差した美術館の幕開けにふさわしい内容であった。本展に出品された作品の内、野間仁根を始めとする県外で活躍する作家らの作品19点の寄贈が決まり[xii]、これらは当館の最初の所蔵品群となっている。本展ではこれらの作品を始め、郷土作家展に出品した作家の作品をコレクションから主に選定して出品し、郷土作家展を再現して紹介した。半世紀前の愛媛県内における美術の様相がこの展示により明らかになり、今後の美術館の進むべき道を模索する上でもひとつの大きな手掛かりとなった。日本画の好永紫芳、菅野剛吉、また洋画の吉金一郎、二神常貞、版画の池下昌徳など、今回の展示を機に改めて再調査すべき作家が多数出てきたことも本展の大きな成果としたい。改めて本展開催にあたり貴重な情報提供などの協力をいただいた方たちに感謝を申し上げたい。

また、開館記念展として郷土作家展に続いて開催された二つの展覧会についても言及した。ひとつは「改組第1回日展　松山展」、もうひとつは「愛媛古美術展」である。美術館設立の目的のひとつは、中央の大規模な展覧会の招聘であり、現に、開館記念展として郷土作家展よりも先にまず決定していたのは、日展の開催であった。日本を代表する気鋭の美術家たちの作品を間近でみることができるようになったことは、愛媛県の文化の歴史の中でもやはり大きな第一歩であったであろう。また愛媛古美術展も、美術館の次長であった乗松茂が特に力を入れていた分野でもあり、県内各地の文化財を借り受けて展示する画期的な内容であった。

4章　愛媛県立美術館の初期コレクション

最後の章では、県立美術館が設立されてからおよそ5年間で収蔵された初期コレクションを厳選して紹介した。[xiii]

この美術館が生まれた大きな契機となったのが芸術家たちの作品の展示公開の場や、全国や世界の美術を紹介する大規模展の開催を求める声であったこともあり、美術館は建物ありきでコレクションはゼロの状態でオープンした。

とはいえ、収集活動は美術館の大きな使命として設立時の指針のひとつに掲げられ、その開館当初より地道な調査活動が行われた。県内の収集家たちを探してその所蔵品を譲り受け、また館の設立にも協力をした県内企業の代表者たちも、自ら作品を収集するなど文化に明るい人々が多く、こうした人々からも作品の寄贈を受けた。そしてもちろん作家本人やその遺族からの寄贈もコレクションの大部分を占めている。今回の

展覧会出品作の内所蔵品はほとんど寄贈作品であるが、この章に限り寄贈者名を明記させていただいた。杉浦非水、畦地梅太郎、野間仁根、古茂田守介、天野方壺などの現在の主要コレクションを含むこれらの寄贈作品の数々は、現在に引き継がれている館のコレクションの礎となる重要な作品群であることが今回の展示でより明らかになった。

ここで、本章で紹介した作家の内、陶芸家・阿部祐工と写真家・新山清について簡単に触れておきたい。まず阿部祐工であるが、本県西条市出身で1950年代に砥部に拠点を置き、日本大学で師事した濱田庄司を始め、柳宗悦やバーナード・リーチ、また富本憲吉らを砥部に招いて共に作陶するなど積極的に活動した。北九州市に拠点を移した後のことではあるが、阿部本人からの寄贈を受けた花瓶（図9）からも、その大胆で素朴な文様や形状などから、大きく影響を受けたであろう民芸独特の特徴が見受けられる。また、新山清（図10）は本県松山市出身で、東京の理化学研究所に入所した後に独学で写真を学び、パーレット同人会に所属してアマチュア写真家として精力的に活動した。ドイツの写真家で、写真家の人間性や個性に重きを置いた、「主観主義写真」の提唱者として知られるオットー・シュタイネルトからも着目され、石元泰博らとともに展覧会に招待されるなど目覚ましい活躍を見せた。[xiv]疎開を機に暮らした郷里の愛媛県でも県展の前身となる美術展の理事を務めるなど貢献し、後進を育てることにも力を注いだ。PENTAXを生み出した旭光学の東京サービスセンター所長も務めている。

このように、本展を通じて新たな情報を得た作家も多く、3章でも述べた通り今後の継続した調査を課題としたい。

結びに

本展では美術館の設立という半世紀前の一大事業を中心に、県内の美術史を多角的な視点から振り返ることとなった。まだ、当時を直接知る世代が存命であり、聴き取りや資料の提供などを通して、作家や美術史家、美術館職員と様々な立場において引き継がれてきた貴重な遺産の数々を掘り起こし、わずかながらも光を当てることができたことは、本展の大きな成果である。本展を機に、今後の新たな半世紀を見据え、さらなる愛媛県の美術文化の発展のために貢献できる美術館を目指したい。

註

ⅰ　既存の建物の北側に建物を新築し、1998（平成10）年11月に旧館と合わせて名称を愛媛県美術館として開館。

ⅱ　第1回伊予美術展覧会は、1923（大正12）年10月12日から19日まで開催された。

ⅲ　第1回展の審査員には日本近代建築史上で重要な役割を果たした松村正恒ら6名が名を連ねている。その後応募者が少なく、1955（昭和30）年には商業美術部と合併した。

ⅳ　松山美術協会は、現代美術展覧会開催のために組織された作家による団体。筒井昇が代表として愛媛新聞に寄稿し、美術展は本来全国産業博覧会自体の中に組み込まれるべきと嘆いている。（「松山美術協会主催の展覧会に就いて　筒井昇」海南新聞　1927（昭和2）年3月4日7面）

ⅴ　高木学編（2020）「愛媛県立美術館　設立協力団体一覧」,『1970⇔2020　未来へ　愛媛県立美術館設立50周年記念展　図録』p.159, 愛媛県美術館.

ⅵ　1946（昭和21）年の1月29日から2月2日まで開催された県代表美術展を主導。これを機に愛媛県美術会の前身となる愛媛県美術協会が発足した。

ⅶ　井須圭太郎（2020）「『ふたつのローカル』を超えて－新居浜における戦後前衛美術史　概観」,『1970⇔2020　未来へ　愛媛県立美術館設立50周年記念展　図録』pp.71-74, 愛媛県美術館.

ⅷ　会期中に木田山（北山）節子氏（木田山日出夫夫人）より連絡があり、話を伺った。

ⅸ　和田弥生氏（和田守弘夫人）、嶝野純子氏（嶝野寿蔵夫人）より提供。

ⅹ　土居聡朋（2020）「『愛媛県立美術博物館』から『愛媛県立美術館』へ　―愛媛県による美術館設立の経緯を巡って」,『1970⇔2020　未来へ　愛媛県立美術館設立50周年記念展　図録』pp.81-83, 愛媛県美術館.

ⅺ　橘亮「今、愛媛県美術館南館を想う」, 同上, pp.76-80

ⅻ　愛媛新聞「野間仁根の『薔薇』も　郷土作家展の19点県立美術館に贈る」1970（昭和45）年9月9日7面に詳細が掲載されている。実際に書類の手続きが完了したのは翌年。畦地梅太郎作品のみ出品作《さけぶ3人》とは別の作品《山のひととき》が寄贈された。

ⅹⅲ　長井健（2020）「県美コレクション事始め」,『1970⇔2020　未来へ　愛媛県立美術館設立50周年記念展　図録』pp.118-120, 愛媛県美術館.

ⅹⅳ　シュタイネルトが企画した「Subjektive fotografie 2」（1954年）には出品を断念するも、新山は主観主義写真の主要な写真家のひとりとして西欧でも評価されている。

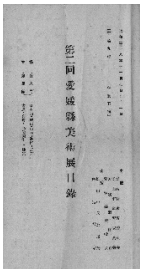
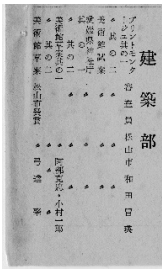



図1

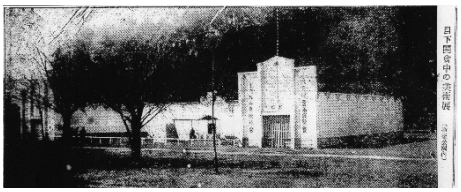
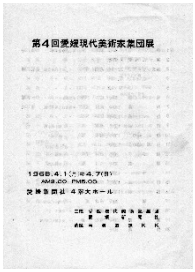


図2

図3



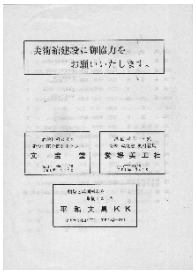
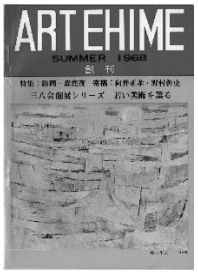
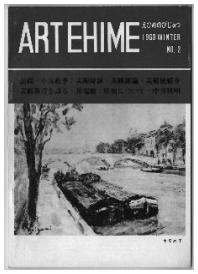


図4





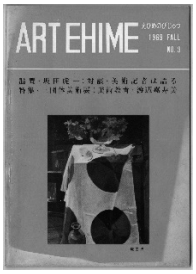
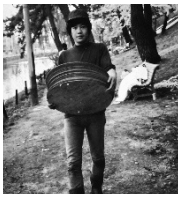


図5

図6 ①

②

③

④

図7 ①

②

③

④

図8

図9

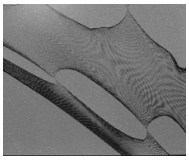


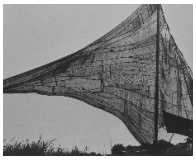
図10 ①

②

図1　「第二回愛媛県美術展目録」1953（昭和28）年　新居浜市美術館（西原元アーカイブ資料）蔵
図2　「目下開会中の美術展（道後公園内）」海南新聞　1927（昭和2）年4月9日（夕刊）1面　提供：愛媛新聞社
図3　「愛媛美術館建設推進のための第12回秋季県展」1963（昭和38）年　愛媛県美術会蔵
図4　「第4回愛媛現代美術家集団展」1968（昭和43）年　愛媛現代美術家集団蔵
図5　『ART EHIME』創刊号、第二号、第三号　1968-69（昭和43-44）年　個人蔵
図6　第2回愛媛野外美術展展示風景より　①嶝野寿蔵《SAKUHIN》展示風景　②作者不詳作品　③作品を運ぶ和田守弘
　　④展示作業中の嶝野寿蔵他　①③④各個人蔵
図7　本展展示風景より　①②展示室内再制作作品展示風景　③福井壽泰《作品》　④土居進《テープA》
図8　完成当時の愛媛県立美術館
図9　阿部祐工《花瓶》1971（昭和46）年頃
図10　新山清　①《網（1）》1950（昭和25）年頃、②《網（2）》1954－55（昭和29－30）年

実践報告
来館者の持っている力を引き出す②
―コレクション展Ⅲ『屏風 Traveling －展示室で旅気分－』―

鈴木　有紀

1　はじめに

世界中が新型コロナウイルス対策に奔走することとなった2020年春、愛媛県美術館でもそれまで「普通」に行われていた美術館活動の殆どを見直さざるを得ない状態になった。そして2021年2月現在、今も完全に元通りでないのが、展示室内や県民アトリエ等で、鑑賞者と美術館が物理的にも心理的にも距離を縮めていく博物館教育の活動である[(1)]。特にこの15年間、当館で継続的に実施してきた「展示室内での対話型鑑賞」は再開の目途が立っていない[(2)]。コロナ禍はまた、予定していた展覧会の中止や延期、日程や内容の変更等、年間の展示計画にも大きな影響を及ぼした。ここではそのような中、実際には鑑賞者と対話できない展示室で実施した小さな対話の試み―コレクション展Ⅲ『屏風Traveling』についてその概要を報告する。

2　実施までの経緯

実はコレクション展Ⅲ『屏風Traveling』は年度当初、計画されていなかった。本展は新型コロナウイルス対策により中止・延期となった企画展の代わりに実施することになったコレクション展である。『屏風Traveling』はまた予算の制約上、受付以外は監視スタッフを常駐させることが出来なかったため、全ての作品をウォールケース内に展示せざるを得ず、鑑賞者と作品の間に「距離」が生まれるという環境下で計画をスタートした。しかし、展示計画を練るにあたり、一つの展覧会事例が頭にあった。

これまでのやり方や経験に縛られないで、来場者のもっている能力を引き出せるような、別のやり方を探ってみるのは充分に意味がある。また実際に世界各地の美術館で、今もこうした試みに意欲的にとりくんでいる人々がいる。たとえば2001年バルセロナで開かれる現代美術の大規模な展覧会では、展示品の約半分に、1つではなく7つのラベルが添えられることになった。ラベルは作品の脇に映写機を使って投影され、来場者はこれを読めば、ただ学芸員の言葉だけではなく、10歳の子ども、若手研究者、お年寄り、家事手伝い、作家、そして美術館の警備員の考えも知ることができる。

これは、日本に対話型鑑賞を紹介した国外の専門家の一人、元ニューヨーク近代美術館のエデュケーターで美術史家のアメリア・アレナスが紹介した、2001年バルセロナのラ・カイシャ財団で開催された現代美術の展覧会[(3)]の様子である。

実は当館ではこのバルセロナの活動を参考・応用したコレクション展をこれまでにも実験・実施してきた[(4)]。しかしコロナ禍により、少なからず「これまで通り」が通用しなくなった。そのため、今回は前述のバルセロナの例に学び、ウォールケース内に展示した11の作品全てに、1つではなく5つのラベルを添え、鑑賞者がこれを読めば「学芸員（当館以外の学芸員にも協力してもらった）の言葉だけではなく、10歳の子ども、80歳高齢者、作家（当該作品の作家ではなく現在作家活動を行っている洋画家・版画家・染織家ら）、美術館警備員」の考えを知ることができるようにし、何度も作品そのものを「みる」ことを繰り返しながら、更にそこに作品をみた鑑賞者自身の考えも加わることで、あたかも鑑賞者と「5人」が作品をめぐって対話を行い、鑑賞が深まるような「場」を準備した。コレクション展Ⅲ『屏風Traveling』の概要は次のとおりである。

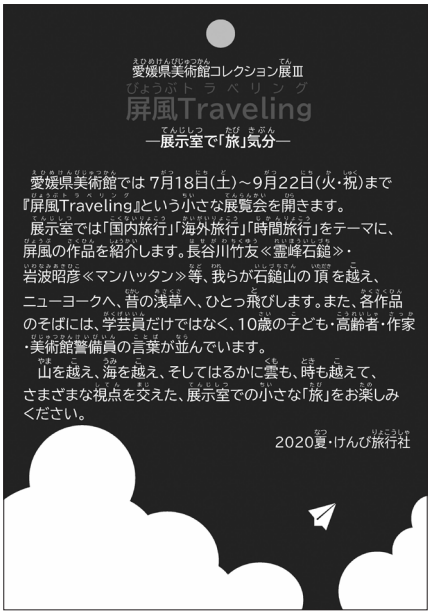
3　コレクション展Ⅲ『屏風Traveling』

（1）会期・場所等

会期：2020年7月18日（土）～9月22日（祝日）
場所：本館2館常設展示室1
期間来場者数：2,791人

（2）展示構成

「国内旅行」「海外旅行」「時間旅行」をテーマに屏風と軸11点で次のとおり構成した。



資料１挨拶パネル

まず「旅」のプロローグとして、瑞雲に乗って飛ぶ「十六羅漢」の姿を描いた、遠藤広実の《十六羅漢図》江戸時代後期・絹本著色・軸・91.7×43.0cmを配置するところから展示をスタートした。

①　第一章『屏風で「旅」しよう』

「旅」のはじまりとして次の三つの作品―長谷川竹友の《霊峰　石鎚》制作年不詳・紙本着色・六曲屏風一隻・174.5×373.0cm、岩波昭彦《マンハッタン》・平成3年（2003）・紙本着色・四曲屏風一隻・152.0×304.0cm、木和村創繭郎《浅草寺》・昭和11年（1936）・紙本着色・二曲屏風一隻・175.5×181.0cmを国内旅行・海外旅行・時空旅行の位置づけで展示した。

②　第二章『屏風は3D』

次に屏風に目が慣れて来たところで、屏風の大きな特徴である、入り尾瀬と出尾瀬を巧みに使って表現した二つの作品―野田青石の《瀞八丁図》・昭和元年（1926）・　紙本着色八曲屏風一双・109.0×351.0cm、高倉観涯《唐人図屏風》制作年不詳・紙本金地着色・六曲屏風一双・寄託作品、を使って、屏風の面白さに触れてもらえるような内容にした。また今回、《唐人図屏風》に描かれた「煮茶図」と画題を同じくする沖冠岳の《花前煮茶図》・明治四年（1871）・紙本着色・軸・寄託作品も併せて展示し、「旅」の合間に「ちょっと一服」として、煎茶の歴史に思いを馳せてもらえるようなコーナーを作った。

③　第三章『此方より・彼方より』

更に、第三章では日本は四方を海に囲まれていることから、舟に乗って旅をする人々の姿を描いた、英一蝶の《乗合船川渡之図》・制作年不詳・絹本著色・軸・寄託作品や、遠く海の彼方をイメージさせる伝狩野探幽《桐鳳凰図屏風》・制作年不詳・紙本金地着色・六曲屏風一双・寄託作品や逆に海の向こうから、やって来る者をイメージさせる、松本山月《七福神図》・江戸時代中期・紙本墨画淡彩・軸・寄託作品を展示し、最後にエピローグとして、遠藤広古《猿田彦神図》・江戸時代後期・紙本着色・軸・寄託作品を展示し、展示室を出た後の、鑑賞者の旅の安全を願う構成とした。

（4）５つのラベルについて

次に作品のそばに添えた５つのラベルについて、どのようなものだったのか、その中の一つを紹介する。なお実際のラベルの漢字には全てルビをふった。

写真１　野田青石《瀞八丁図》・昭和元年（1926）・紙本着色八曲屏風一双・109.0×351.0cm

①　学芸員のまなざし

ど――――ん！と断崖が迫ってくる！出オゼ（屏風の出っ張っているところ）の部分に巨石や岩が描かれ、景色に遠近感が生まれています。モティーフの描き込みが少なく、彩色もあまり施されていないことが、逆にいろいろな想像を膨らませます。きっと、深緑色の川でおいしい魚が釣れるはず！断崖上部での生活など、妄想にふけってしまいました。船に乗って洞窟探検したいなぁ・・・。

②　10歳のまなざし

人が渡ってる。舟に乗ってる。マンガみたい→理由は全部白黒だし、丁寧に描かれているし。絵をさ

かさまにしても、みられそう。

③　80歳の高齢者のまなざし

二曲の屏風の絵の繋がり具合からすると筏の方が左で、釣舟の方が右にある方がしっくりくるような気がする。理由は石置き屋根の家並みの配置から。絵の上下に多くの余白を残し中央部の断崖絶壁とそこの植生（松か？）もデフォルメされ省略され、水墨画の特色が活かされて素晴らしい。釣舟と筏で水面を表しているが、流れが感じられず静寂そのもの。この屏風の前ではよく眠れそう。

④　作家（版画家）のまなざし

立ち上がる岩に木々が枝を伸ばし広い水面に人々が浮かぶ。過不足なく絵筆が走るのは風景の境界。墨を乗せることで描かれた白。何もないはずの余白に断崖と水の流れをみる。

⑤　美術館警備員のまなざし

筏流しや舟が描かれているが、川の流れが感じられない。静かな作品です。

なお、③の高齢者の言葉の中にある「二曲の屏風の絵の繋がり具合からすると筏の方が左で、釣舟の方が右にある方がしっくりくるような気がする」という視点を受けて、日本美術担当の学芸員と相談し、会期後半には右隻と左隻を入替えて鑑賞してみる、といった展示替えを行った。以下はその告知文である。

> 本作品《瀞八丁図（どろはっちょうず）》のスタンダートな配置は展示のとおりです。ですが、この作品は右左を入れ替えて、違った景色を楽しむことも想定していると思われます。8月26日から右隻と左隻を入替える予定です。お楽しみに！

またこの『屏風Traveling』では「旅気分」の小さな演出として、受付で「どこまでもいける飛行機チケット」と称した栞を鑑賞者に配布した。さらに、展示出口付近には、コロナ禍が過ぎ去った後には、実際の場所に旅に出て楽しんでほしいという想いから展示作品に登場した、石鎚山（愛媛）・浅草寺（東京）・瀞峡（和歌山）・猿田彦神社（三重）の観光パンフレット等の資料を配架した。

4　鑑賞者からの「声」と今後の課題

最後に会期途中から再開したアンケートから垣間見えた鑑賞者の「声」をみて、今後の課題を考えたい。

（1）　作品に関する「声」

①　長谷川竹友《霊峰　石鎚》

・山伏の表情や行動から色々な想像がふくらむ。
・石鎚山の屏風素晴らしかったです。

②　岩波昭彦《マンハッタン》

・夜に輝く都市の光が再現されていて印象的
・屏風に現代のNYの夜景を描いていたのは意外でしたが…とても幻想的で今はコロナの影響でなかなか海外渡航できないだけに惹かれました。
・向い岸の光が魂のようだというのに共感できた。
・ずっと好きな作品で今回じっくり見られて更に好きになりました。奥行きのある情感たっぷりの夜景に、外出・旅行のままならない今を慰められました。
・マンハッタンの夜景が細かいところまで描かれており、迫力を感じました。
・現代の絵で屏風になっているものが珍しいと思いました。また色の青と黒のバランスと深さが良かった。

③　木和村創繭郎《浅草寺》

・赤い寺が素敵でした。すいかを売っていたのが面白かった。

④　松本山月《七福神図》

・暗い作品だったが、内容はとてもめでたいものばかりで興味深い絵だった。龍が出たり、鯛が釣りをしていたり。
・釣られる対象の鯛が釣りをしていたので。
・めでたさの詰め合わせのような感じで気に入りました。ポストカード等あればこれを買うかなと思います。

⑤　伝狩野探幽《桐鳳凰図屏風》

・確かな画力ですばらしいと思った。

⑥　遠藤広古《猿田彦神図》

・猿田彦之命の眼光、印象的

（2）『屏風Traveling』に関する「声」

①　展示環境について

・《マンハッタン》を座ってずっと眺められて本当に楽しめました。ベンチ、畳に座布団、どれも楽しく座れて良い空間だったと思います。

・光の具合など落ち着いて、じっくり鑑賞できました。
・畳の上で子どもと一緒にゆっくりみられました。
・畳が敷いてあったのが、作品をより楽しめるような工夫で面白かったです。
・屏風絵はゆったりと心が開かれますね。
・屏風を畳に座って見るのは面白かったが離れて立って見たい人にとっては不便かと思いました。

② 屏風の見方について
・屏風の見方を初めて知りました。右→左・左→右・そして畳に座らせてもらって正面から見ました。名ガイドありがとうございます。
様々な所へ旅に行けました。

③ ５つのラベルについて
・今回「旅」気分の展示は工夫されていて面白かった。いろいろな人の感想もあって、ついつい読んでしまった。少し見えにくかったので、位置や背景をもっと白にして見やすくするなど、さらに工夫をされると良い。屏風も良いなあと感じた。ありがとうございました。
・特殊と言えば特殊な状況ですが、自分一人と作品たちとの空間を楽しめました。ただ作品毎のコメントにはしっかり鑑賞のガイド役になってもらいました。
・ありがとうございました。80歳の方のコメントが面白かったです。
・展示室でちょっとした「旅気分」を味わえて、楽しかったです。お子さん、高齢の方、学芸員さんなど５人５様、それぞれの見方、感じ方があって興味深くて面白かったです。私も同じように感じたり、全く違ってたりと５人の方と対話するように拝見させていただきました。
・子どもや80代等、いろんな立場からの視点・感想が面白かったです。
・様々な人の言葉が展示品と一緒に展示されていて、年齢、職業、知識による感じ方の違いが面白かった。
・10才や80才などいろいろな人の考え方が書いてあり、ふつうにみるより、楽しくみれた。
また来たいです。
・キャプションの字が大きく少なく簡潔だとより良いと思います。

④ 今回の企画について
・どの作品も「旅気分」を盛り上げてくれました。
・本当に旅に出かけたようで楽しめた。
・いい名所でした。また参りたいです。

まず、コロナ禍にも関わらず、期間中約3,000人の鑑賞者が訪れてくれたことに心からの感謝を述べたい。

次に作品に関する「声」では印象に残った作品として、特に岩波昭彦の《マンハッタン》が挙げられており、またラベル（他者の視点）をみての発言もみられる。しかしこのアンケートは厳密に『屏風Traveling』のふりかえり用に作成したものではなく、広くコレクション室運営改善のために採っているものである。ただ今回のように直接鑑賞者の学びの様子を聞き取ることが難しい場合でも、アンケートという形を取ることで、鑑賞者の学びの様子を少しでも考察できる可能性に気付いた。展覧会の評価にあたり、今後に活かしたい。

更に５つのラベルについては、おおむね良好であり、

> 私も同じように感じたり、全く違ってたりと５人の方と対話するように拝見させていただきました。

といったようにフラットに他者の視点を取り入れながら、自分の視点も交えて、そこから作品鑑賞を深めようとする姿が垣間見える。今後は各ラベルの文章量や、大きさに配慮するとともに、意図的にとはいかないまでももっと鑑賞者に深い鑑賞体験を提供するための、ラベル内容の在り方について探っていきたい。

最後に受付スタッフが度々知らせてくれた、鑑賞者からよく聴かれた「声」として、『一人で来たが、ラベルの５人と話しながら鑑賞出来て、寂しくなかった。楽しい「旅」だった』というものと『小さな展覧会で、作品も11点と少なかったが、かえってじっくりと落ち着いて見られた』というものがあった。このことについて、鑑賞者にみる＝考えるための、「場」を提供できたことを嬉しく思う。と、同時に展示する作品の点数について今回考えさせられた。計画当初、たった11点では鑑賞者はもの足りないのではないか、と一方的に思っていたためである。企画者としては、鑑賞者にみてもらいたい作品はたくさんあり、ついつい多くを展示してしまいがちになる。

今年度は新型コロナウイルス対策のため、様々な美術館活動を改めて考え直すということを行った一年になった。しかし、たとえコロナ禍であってもなくても、鑑賞者自身がじっくりと考えられ、自分のペースで学

びを進めていける場を創っていくためにも、今後もベストを尽くしていきたい。

註

（1）展示室内での学芸員による解説、作品ガイドボランティアによる対話型鑑賞は鑑賞者と距離を近くするため、現在は休止している。同じく館内でのワークショップ活動も、人数制限を行い、参加者どうしで制作可能な内容の活動実施している。

（2）2021年2月現在は美術館講堂を使って、鑑賞者どうしの距離を確保しながらスライドでの対話型鑑賞を実施している。

（3）アメリア・アレナス著　木下哲夫訳『みる・かんがえる・はなす・きく鑑賞教育へのヒント』(2001、淡交社） p 167

（4）拙稿「実践報告　来館者の持っている力を引き出す①―コレクション展「なぞなぞ美術館」の試み―」『愛媛県美術館研究紀要』第18号（2018、愛媛県美術館）pp. 121-132

謝辞

展覧会の開催にあたり、５つのラベル作成に協力いただいた、斎藤華氏、鈴木洋氏、版画家のむらこしなおこ氏、近藤英樹氏、土居明生氏、染織家の野本久美氏、洋画家の渡辺利彦氏、越智辰雄氏、俳人のキム・チャンヒ氏、デザイナーの山野薫氏、京都国立近代美術館主任研究員の梶岡秀一氏、愛媛県教育委員会文化財保護課学芸員の松井壽氏、愛媛県スポーツ・文化部まなび推進課学芸員の喜安嶺氏、久万高原町町立久万美術館学芸員の中島小巻氏、愛媛県美術館学芸課の土居聡朋氏、石﨑三佳子氏、長井健氏、高木学氏、五味俊晶氏、愛媛県美術館警備員の荒木隆博氏、そして、「旅先」のパンフレット等資料を提供いただいた、西条市観光振興課、十津川観光協会、熊野御坊南海バス（株）、猿田彦神社　本社、そして金龍山浅草寺のみなさまに対し、この場を借りまして御礼申し上げます。

No.17 真野暁斎《班女図》

No.18 真野暁斎《童子逍遥図》

No.19 真野暁斎《羅漢図》

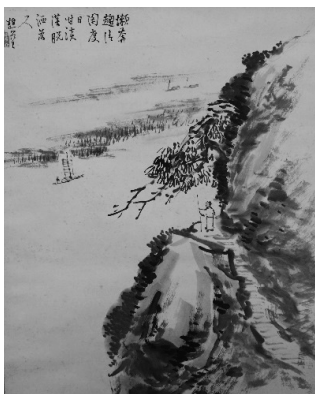
No.20 真野暁斎《化生水鏡図》

No.21 真野暁斎《鼈図》

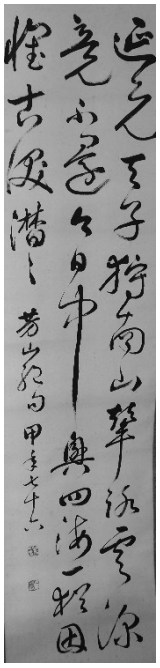
No.22 真野暁斎《唐美人図》

No.23 真野暁斎《釣童図》

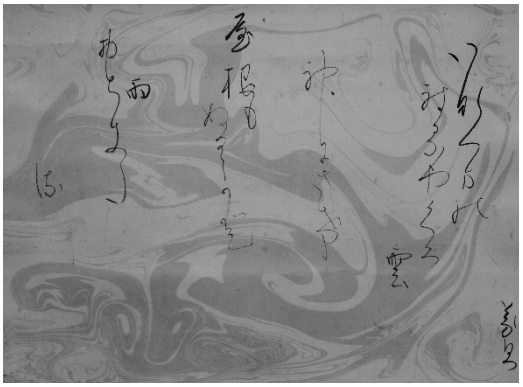
No.24 草刈樵谷《風帆遠望図》



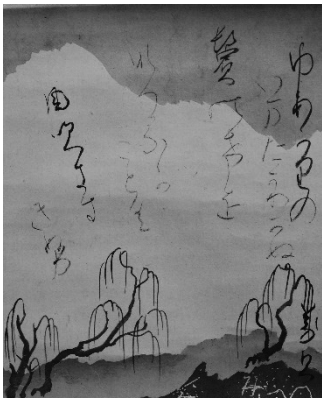
No. 9　長尾雨山《七言絶句》



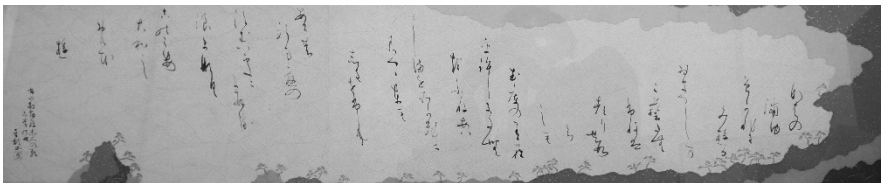
No. 11　吉澤義則《和歌　いなつまの》（上田星邨料紙）



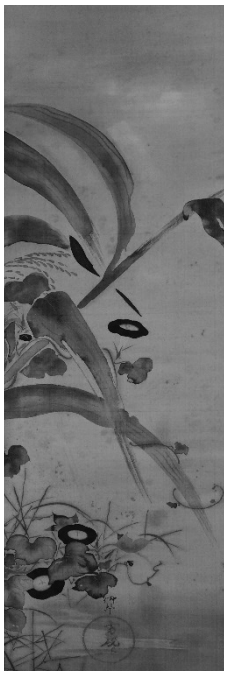
No. 12　吉澤義則《和歌　ゆふくれの》（上田星邨料紙）



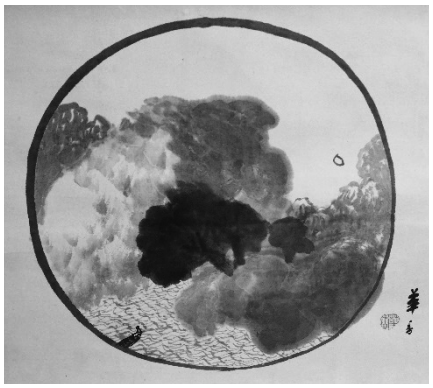
No. 13　上田星邨《万葉集　山部赤人の歌》（自作料紙）



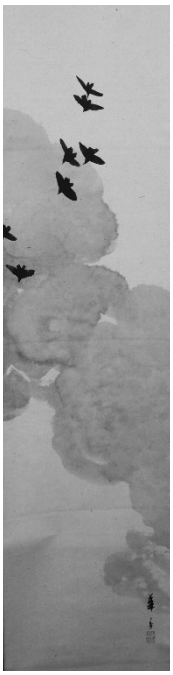
No. 14　立林何帛《朝顔図》

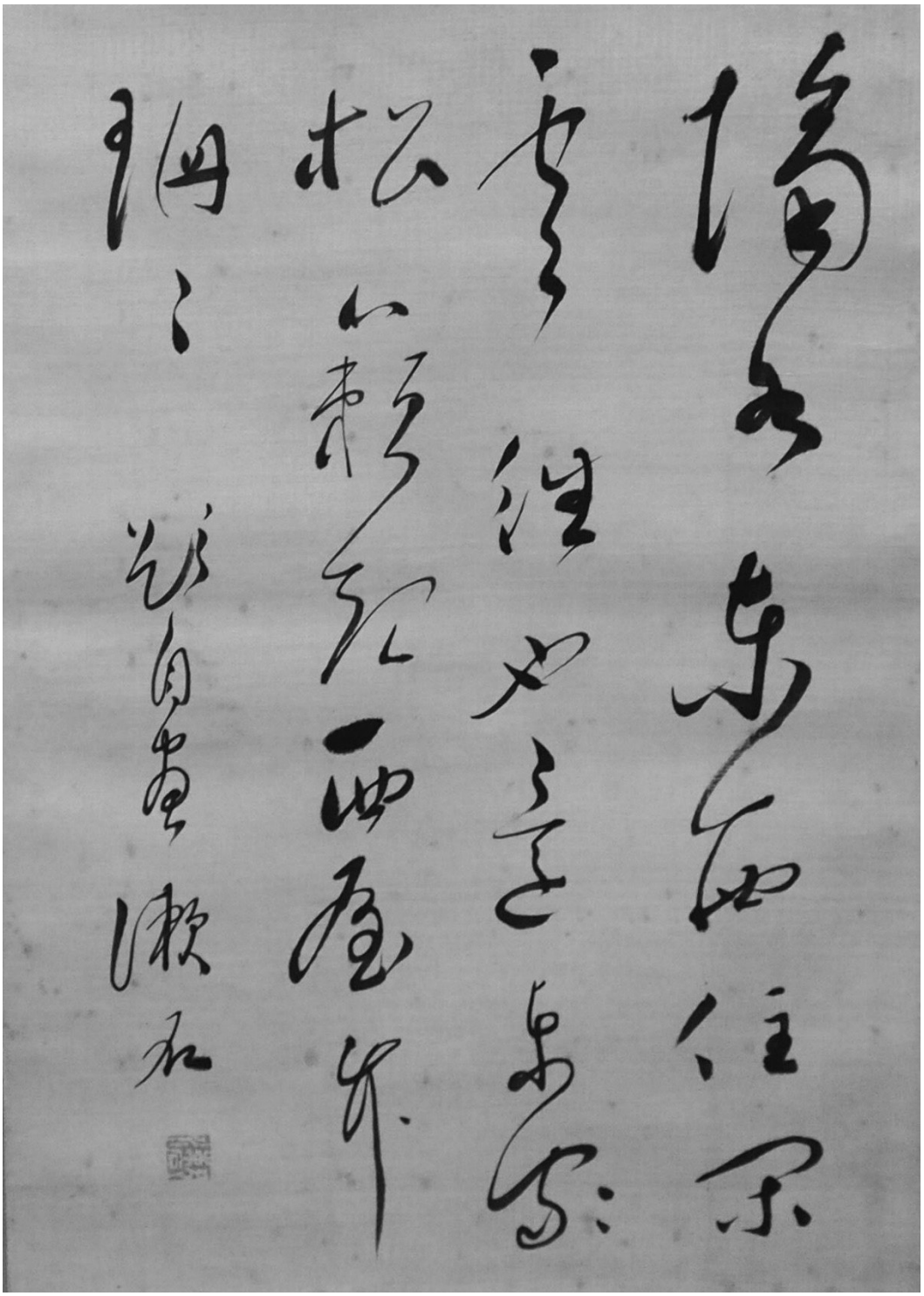


No. 15　都路華香《水墨山水図》

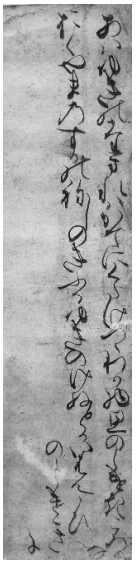


No. 16　都路華香《曙雲群鴉図》

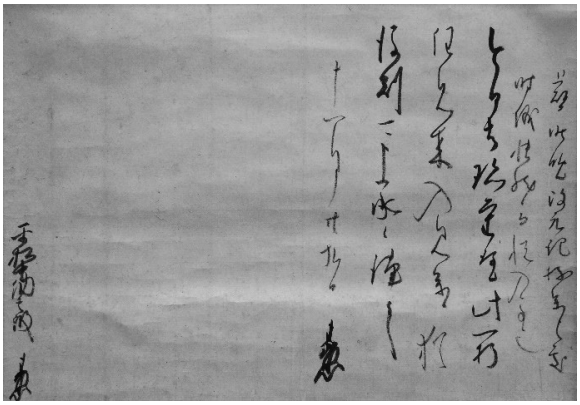




No.10　夏目漱石《五言絶句》

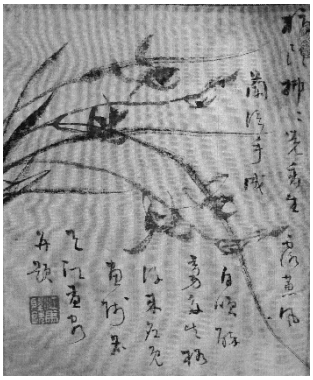


No. 2　『古今和歌集』巻十一断簡（あはゆきの）

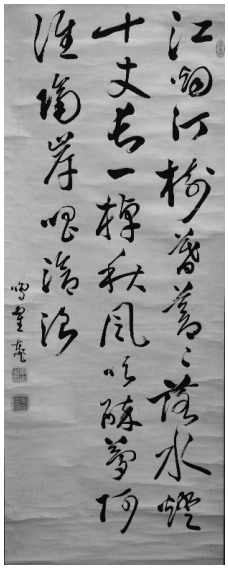


No. 3　近衛家熙《消息》

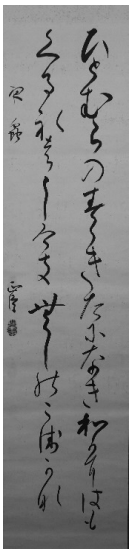
No. 4　太宰春台《七言絶句》



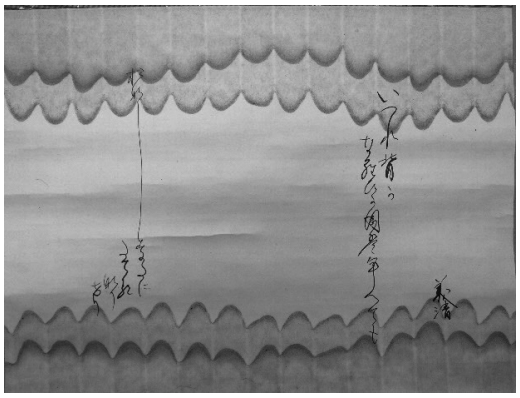
No. 5　江馬天江《蘭自画賛》



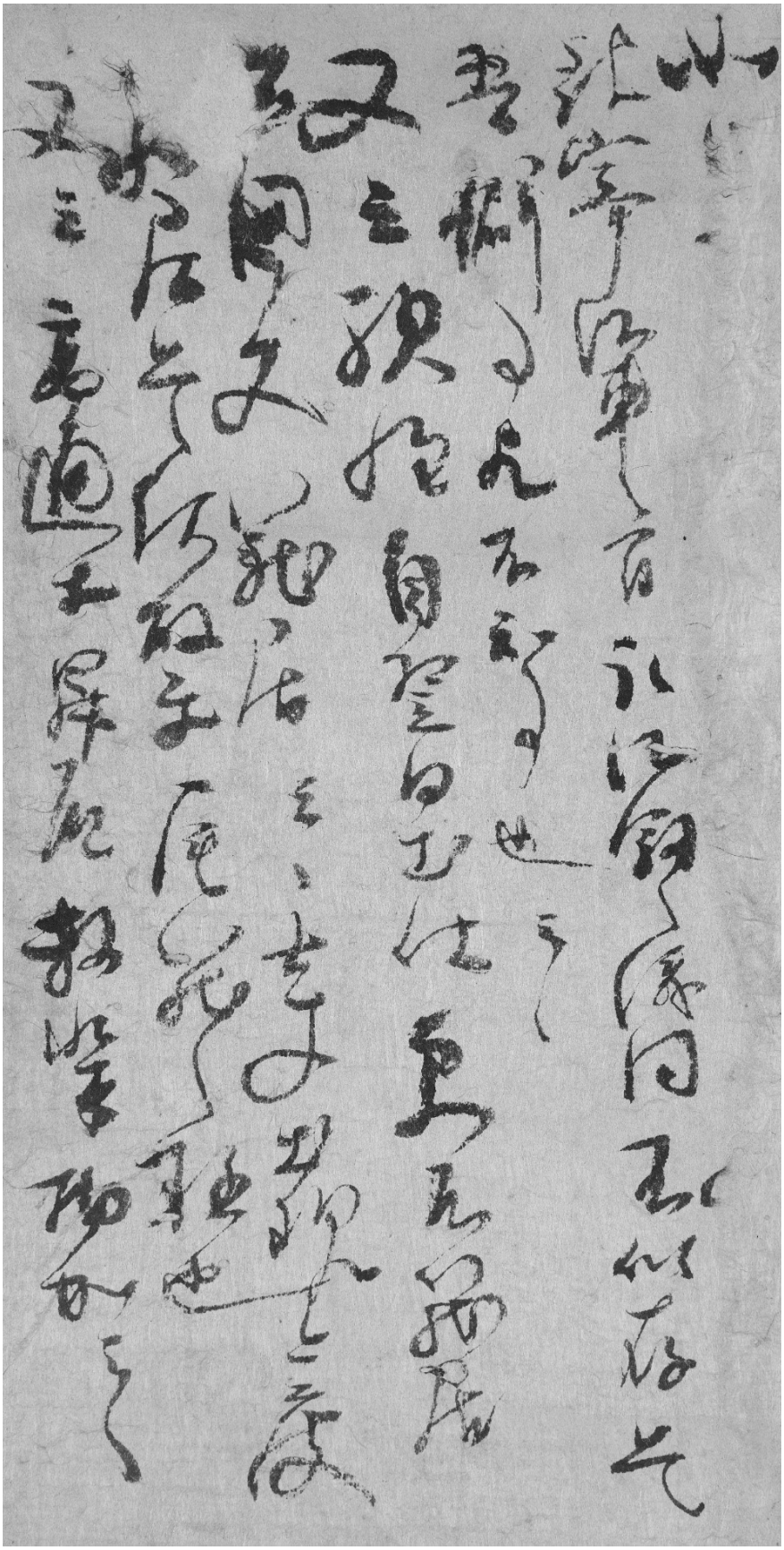
No. 6　日下部鳴鶴《七言絶句》



No. 7　阪正臣《和歌　ひとむらの》



No. 8　加藤義清《和歌懐紙》（上田星邨料紙）



No. 1　藤原定家『明月記』断簡　建久九年二月十九日条

表１　上田星邨コレクション一覧

No.	作家名（生没年）	作品名	制作年	材質技法	寸　法 （縦×横／cm）
1	藤原定家 （1162［応保2］－1241［仁治2］）	「明月記」断簡　建久9年2月19日条	鎌倉時代・建久9年（1198）	紙本墨書・軸	28.5×14.4
2	作者不詳	「古今和歌集」巻十一断簡（あはゆきの）	鎌倉時代後期～室町時代前期	紙本墨書・軸	23.6×5.7
3	近衛基熙 （1648［慶安元］－1722［享保7］）	消息	江戸時代中期	紙本墨書・軸	31.0×44.5
4	太宰春台 （1680［延宝8］－1747［延享4］）	七言絶句	江戸時代中期	紙本墨書・軸	124.4×48.3
5	江馬天江 （1825［文政8］－1901［明治34］）	蘭自画賛	明治時代	絹本墨画墨書・軸	17.8×14.9
6	日下部鳴鶴 （1838［天保9］－1922［大正11］）	七言絶句	明治－大正時代	紙本墨書・軸	130.5×52.1
7	阪正臣 （1855［安政2］－1931［昭和6］）	和歌　ひとむらの	明治時代	紙本墨書・軸	132.1×30.1
8	加藤義清 （1864［元治元］－1941［昭和16］）	和歌懐紙（上田星邨料紙）	昭和時代初期	紙本墨書・軸	35.2×46.5
9	長尾雨山 1864［元治元］－1942［昭和17］）	七言絶句	昭和14年（1939）	紙本墨書・軸	131.3×32.6
10	夏目漱石 （1867［慶応3］－1916［大正5］）	五言絶句	大正4－5年（1915－16）頃	紙本墨書・軸	41.1×28.2
11	吉澤義則 （1876［明治9］－昭和29［1954］）	和歌　いなつまの（上田星邨料紙）	昭和時代初期	紙本墨書・軸	29.1×38.0
12	吉澤義則 （1876［明治9］－昭和29［1954］）	和歌　ゆふくれの（上田星邨料紙）	昭和時代初期	紙本墨書・軸	17.8×14.7
13	上田星邨 （1887［明治20］－1988［昭和63］）	万葉集　山部赤人の歌（自作料紙）	昭和時代	紙本墨書・額	20.3×123.0
14	立林何帛 （生没年不詳）	朝顔図	江戸時代中期	絹本着色・軸	88.1×30.6
15	都路華香 （1871［明治3］－ 1931［昭和6］）	水墨山水図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画・軸	39.7×46.1
16	都路華香 （1871［明治3］－1931［昭和6］）	曙雲群鴉図	明治時代後期－大正時代	紙本淡彩・軸	118.8×30.7
17	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	班女図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画淡彩・軸	126.1×33.2
18	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	童子逍遥図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画淡彩・軸	134.4×33.2
19	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	羅漢図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画淡彩・軸	133.6×33.2
20	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	化生水鏡図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画淡彩・軸	125.8×30.3
21	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	髑図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画淡彩・軸	120.1×32.5
22	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	唐美人図	明治時代後期 - 大正時代	紙本墨画淡彩・軸	116.3×30.0
23	真野暁亭 （1874［明治7］－1934［昭和9］）	釣童図	明治時代後期－大正時代	紙本墨画淡彩・軸	116.5×29.9
24	草刈樵谷 （1892［明治25］－1993［平成5］）	風帆遠望図	昭和時代	紙本墨画淡彩・軸	41.2×33.5

人から直接譲られたものと見られる。《水墨山水図》（№15）における円窓形の縁取り、たらしこみ風の水墨技法、細かな小波の表現、また《曙雲群鴉図》（№16）の色面の広がりで示す雲の表現、群れ飛ぶ鳥のモチーフは、明治末期～大正初期（一九一〇年代）に多く描かれており、この二点も同時期の作と推測される。星邨の在学中に入手した可能性もあろう。

（2）真野暁亭（№17～23）

暁亭（一八七四～一九三四）は、東京の生まれ。十一歳で河鍋暁斎（一八三一～一八八九）に入門、父も暁斎の門人であった。飯島虚心著『河鍋暁斎翁伝』では、暁斎没後は久保田米僊（一八五二～一九〇九）に師事したと伝える。明治二十七年（一八九四）の第九回日本絵画協会・第四回日本美術院連合絵画共進会で《祇王祇女》が二等褒状を受賞。その後も展覧会への出品を重ねる。画業初期は、暁斎を踏襲した奇抜な作品も見られるが、東洋画の伝統に則った画題が多く、もの静かだったという人柄を示すように、静寂さの漂う洗練をみせる作品を手掛けている。

なお、次男の真野満（一九〇一～二〇〇一）は、星邨とは京都市立絵画専門学校の同級生にあたり、星邨はこの縁で、暁亭の娘（満の妹）と結婚している。同校卒業後は、安田靫彦に師事し、院展で活動。昭和十五年（一九四〇）に始まった法隆寺金堂壁画の模写事業に参加、中村岳陵の班で5号壁を担当したことでも知られる。

本コレクションに含まれる暁亭作品七点は、いずれも瀟洒淡泊な小品ではあるが、河鍋暁斎記念美術館所蔵の一連の作品とも画題・作風も通じており、小気味よい筆さばきは暁亭独自のものである(11)。結婚後、親族となった縁で暁亭本人から譲られたものと見られ、親密な関係がうかがわれる。

（長井）

結び

以上、本コレクションは日本書道史上貴重な資料が含まれており、当館における書・文学関係の収蔵作品・資料をさらに充実させ、一体的に活用しうる内容を持つものである。また本県出身の作家によるユニークな収集であるところから、書家であり研究者でもある上田星邨その人の再評価にも繋がるものである。なお、今回あわせて寄贈いただいた関連資料の中にも、現時点では制作年代や筆者が断定できないままのものがある。今後も継続して調査を行い、本コレクションの評価や位置づけをさらに高めていければと考える次第である。

（長井）

註

（1）西園寺氏と伊予との関わりについては石野弥栄「西園寺氏の伊予下向土着の前提について－西園寺氏の勢力基盤－」『伊予史談』二六七、伊予史談会、一九八七年参照。宇都宮氏と伊予との関わりについては土居聡朋「伊予宇都宮氏の成立と展開」市村高男編『中世宇都宮氏の世界：下野・豊前・伊予の時空を翔る』彩流社、二〇一三年を参照。

（2）①「『明月記』原本及び原本断簡一覧」（『明月記研究提要』所収、八木書店、二〇〇六年）、②尾上陽介『断簡・逸文・紙背文書の蒐集による「明月記」原本の復元的研究』（東京大学史料編纂所研究成果報告二〇一二－七）、二〇一三年

（3）註（2）②、尾上陽介氏及び井上聡氏のご教示による。

（4）尾上陽介『中世の日記の世界』山川出版社、二〇〇三年

（5）藤本孝一氏及び伊井春樹氏に本資料を実見いただき、所見を得た。

（6）吉川幸次郎『漱石詩注』岩波書店、二〇〇二年

（7）夏目金之介『定本　漱石全集　第一八巻　漢詩文』岩波書店、二〇一八年。以下『全集』という。

（8）神奈川近代文学館ホームページ「夏目漱石デジタル文学館」印章の部、同館資料番号八一〇／二五四

（9）黒田眞美子「夏目漱石の中国文学需要：南画趣味時代の漢詩を中心として」（上篇・下篇）『日本文学誌要』九五号・九六号、二〇一七年

（10）『都路華香展』図録、京都国立近代美術館、笠岡市竹喬美術館、二〇〇六～七年

（11）『日光をめぐる画家　河鍋暁斎と門人たち　真野暁亭を中心に』図録、小杉放菴記念日光美術館、二〇〇一年

師を経てロンドンへ留学。帰国後、東大講師となる。『吾輩は猫である』によって文壇に登場後、明治三九年に松山中学時代の経験を下敷きとした『坊っちゃん』を発表。四〇年朝日新聞に入社し専属作家となった。『三四郎』『それから』『門』などのほか、大病を経て『こゝろ』『道草』『明暗』などの作品を残した。その一方、伝統的な漢文教育を受け素養があったことや、大学予備門での正岡子規との交流が契機となり、松山中学赴任前から漱石が没する大正五年まで二百首を超える漢詩を残し、高い評価を得ている(6)。

本品は軸装されており、本紙は絖本、縦四一・一センチメートル、横二八・二センチメートル。

【釈文】（／は本紙の改行部分）

隔水東西住
閑／雲往也還
東家／松籟起
西屋竹／珊々

題自畫　漱石（印）

漱石の漢詩は二〇八首が『定本　漱石全集　第一八巻　漢詩文』(7)に収録されているが、このうち№一二七に該当。「自画に題す」とあるとおり、もとは漱石自筆の絵に添えられた詩文である。『全集』によれば、自筆の書が三種知られているほか、大正五年初夏と推定される手帳にも筆記があるとされるが、本作品は『全集』には未所収の新出資料である。

『全集』では№一二七を大正四年四月の作とする。本作では「閑雲」となっている部分が、『全集』で知られる三種の書では「白雲」となっている。同書の訳注によれば、大正五年初夏と推定される手帳には「閑雲」と記されているとされ、本作品と一致する。ただし『全集』によれば、手帳では「復」となっている部分が、本作では既知三種の書と同じ「也」となっており、本作は大正五年の手帳の文言と完全に一致しているわけではない。なお、本作の落款印「漱石」は、神奈川近代文学館が漱石中期の水彩画的日本画から「秋景山水図」（同館蔵）をはじめとする晩年の南画風の作品まで数多くの書画の落款に用いられたものとする(8)印であるが、本作品では誤って右横向きに捺されている。

黒田眞美子氏は、漱石の現存する漢詩を四期に分けている(9)が、本作品の制作時期と目される漱石晩年の大正四年四月～五年初夏頃は、同氏の分類による第三期「南画趣味時代」（明治四五年五月～大正五年春）の末期に相当する。大正四年三月、京都旅行の際に胃潰瘍で倒れ、同四年六月から九月まで「道草」を連載、大正五年一月には湯河原に転地し、大正五年五月から「明暗」の執筆が開始される時期にあたる。

なお、本作品の調査にあたっては、新宿区立漱石山房記念館のご協力を得た。

（土居）

絵画コレクション

（1）都路華香（№15、16）

華香は、京都の生まれ。九歳で四条派の幸野楳嶺（一八四四～九五）に入門し、菊池芳文、竹内栖鳳、谷口香嶠とともに「楳嶺門下の四天王」と称された。さまざまな展覧会で活躍する一方、教育者としても近代京都画壇の隆盛を支えた。明治四十年（一九〇七）の文展開設にあたり第一回展から出品、大正八年（一九一九）の帝展改組後は、審査員をつとめた。四条派の画風を基盤に、建仁寺の黙雷禅師に参禅して得た精神性を交え、新技法を積極的に取り入れたその画風は、近年はアメリカをはじめ海外にもコレクターが多い(10)。

華香は、明治四十三年（一九一〇）に京都市立絵画専門学校の嘱託講師となって以降、教諭、教授を経て、大正十五年（一九二六）には同校校長に命じられた。星邨は同校で華香に学んでおり、本コレクションに含まれる華香作品二点は、本

うな痕跡があり、天地と左端は切断されている。

【釈文】

（前欠）

如［　　］

被寄御車之間、取御劔之儀同不似存、是

吾僻事歟、不知事也云々、

又云、親經自翌日出仕、更不籠居、

公國又籠居云々、去年出現、今度

籠居是何故乎、尾籠之極也、

又云、高通等昇殿數輩相加云々、

（後欠）

【箱書】

（表）藤原定家卿明月記断簡　□云々

（裏）定家卿の日記明月記の断簡にして世にこれを記録切といふ

猪熊信男（花押）証之

その内容から、建久九年（一一九八）二月十九日条の一部であり、『穠翠亭神戸家所蔵品売立』（大正一三年四月九日、名古屋美術倶楽部）掲載の「国基書状」の紙背に見える建久九年二月十九日条前欠断簡の直後の部分であることが判明する(3)。ただし本断簡には紙背文書は無い。右端及び上部の一部の紙が薄く欠損があり、相剥ぎにより紙背文書が切り離されたものと考えられる。わずかに墨書の跡が見受けられるのも、かつて紙背文書が存在したことを裏付ける。尾上陽介氏は、『明月記』原本の様式を大きく三種に分けており、建久七年から建仁二年（一二〇二）の間は、書状の反故を裏返して再利用し罫線を引かずにそのまま記事を書きつけたものであることを指摘しているが(4)、本断簡も同様の様式である。

本断簡は後鳥羽上皇の石清水八幡宮等御幸に関する近衛府の諸氏の動向、藤原親経、藤原公國、藤原高通らの出仕等についての記載がある。本文は従来から写本で知られているものと同文であり、その意味で内容的に歴史的な新知見は見られないが、後鳥羽上皇の石清水八幡宮から鳥羽殿への御幸時の状況に係るこれまで知られていなかった明月記原本の一部が今回発見されたことは誠に貴重であり、また定家様の書跡が確認できることも価値が高い。

なお、本書跡の調査に当たっては、冷泉家時雨亭文庫調査主任　藤本孝一氏及び東京大学史料編纂所　尾上陽介氏・井上聡氏からご教示を得た。

（2）『古今和歌集』巻十一断簡（No.2）

「古今和歌集」巻十一、恋歌一、五五〇・五五一番歌。軸装、紙本墨書。本紙は縦二三・六センチメートル、横五・七センチメートル。五五〇番歌の頭右肩等に朱合点を施す。

【釈文】（／は本紙の改行部分）

あはゆきの　たまれはかてに　くたけつゝ　わか物思の　しけきころか／な

おくやまの　すかのねしのき　ふるゆきの　けぬとかいはむ　こひ／のしけき／に

伝承筆者やツレも不明であるが、鎌倉時代後期～室町時代前期の写本とみなせるとの指摘を受けている(5)。時期の古い『古今和歌集』写本断簡の一つとして貴重である。

（3）夏目漱石五言絶句（No.10）

夏目漱石（一八六七～一九一六）は、近代日本の作家。明治二六年（一八九三）帝国大学英文科卒業後、同二八年四月に愛媛県の松山中学に赴任、第五高校の教

上田星郊旧蔵の書画コレクションについて

土居聡朋
長井健

はじめに ― コレクションの概要

令和二年（二〇二〇）度、当館では愛媛県西宇和郡伊方町出身の書家・上田星郊（一八九六～一九八八）によって収集された書画二四点について、ご遺族より寄贈を受けることとなった。その内容は、公家・歌人・国学者・書家等による鎌倉時代から昭和時代までの書作品及び星郊と直接交流のあった同時代の日本画家による絵画作品など、幅広く特色あるコレクションとなっている（表1）。特に注目すべきは、藤原定家の日記「明月記」断簡（№1）で、調査の結果、建久九年（一一九八）二月十九日条の一部と判明し、直筆の新出資料であることが確認された。さらに、これらの作品に加えて、約四〇点の関連資料も寄贈いただいた。

星郊は、はじめ京都市立絵画専門学校（現・京都市立芸術大学）で日本画を学び、都路華香（一八七一～一九三一）や菊池契月（一八七九～一九五五）に師事した。その後、京都帝国大学教授だった国文学者・吉澤義則（一八七六～一九五四）に師事し、昭和七年（一九三二）頃よりほぼ独学で書の道に入った。戦中から戦後にかけては、「古今和歌集」「和漢朗詠集」「西本願寺本三十六人集」などの中世の古筆・料紙装飾の研究者としても活動し、多くの論考を残している。戦後は、日本書芸院、日本書道美術院、読売書法展の審査員をつとめ、昭和四三年（一九六八）には平安書道会の第五代副会長に就任した。

なお本コレクションには、収集した書画以外にも、こうした星郊の経歴をうかがわせる作品も含まれる。例えば、自らが制作した料紙に、師事した吉澤義則や歌人・加藤義清（一八六四～一九四一）が書をしたためた作品（№8、11、12）や、星郊自筆の仮名書作品（№13）などがそれである。では以下、特筆すべきいくつかの作品について詳しく紹介することとしたい。

（長井）

書跡コレクション

（1）藤原定家「明月記」断簡（№1）

藤原定家（一一六二～一二四一）は、平安時代末期から鎌倉時代前期の公卿、歌人。勅撰和歌集「新古今和歌集」「新勅撰和歌集」を撰したほか、歌学歌論や古典研究の面にも大きな足跡を残した。嫡子為家を生んだ定家の後妻は、伊予国知行国主の地位及び宇和荘領主職等を通じて伊予国を重要な所領の一つとしていた西園寺公経の姉であり、また、為家の妻は伊予国守護・宇都宮頼綱の娘であった(1)。

定家の日記「明月記」は五六年間に渡る克明な日記で、大部分は冷泉家時雨亭文庫に所蔵（国宝）されているが、原本の一部は早くから流出し、断簡、掛け軸などとして諸家に分蔵されているものも少なくない(2)。本断簡は、先学の所在調査ではその存在が確認されていなかった新出の原本資料である。

本断簡は軸装されており、宮内庁図書寮御用掛等を務めた猪熊信男（一八八二～一九六三）の箱書がある。本紙は縦二八・五センチメートル、横一四・四センチメートル。残存本文は七行。墨界は無い。料紙は楮。右端は紙を引きはがしたよ

愛媛県美術館
令和元年度年報・研究紀要第19号

令和３年３月発行

発行所　愛 媛 県 美 術 館
愛媛県松山市堀之内
TEL.089-932-0010
FAX.089-932-0511

印刷所　株式会社 明 朗 社

THE MUSEUM OF ART EHIME
愛媛県美術館